

慶應義塾大学



C A L A M V S G L A D I O F O R T I O R

2026 年度

法 学 部

履 修 案 内

(日吉キャンパス第1・2学年)

振鈴表

授業 振鈴表		
日吉	三田	矢上
1 時限 9:00~10:30	1 時限 9:00~10:30	1 時限 9:00~10:30
2 時限 10:45~12:15	2 時限 10:45~12:15	2 時限 10:45~12:15
3 時限 13:00~14:30	3 時限 13:00~14:30	3 時限 13:00~14:30
4 時限 14:45~16:15	4 時限 14:45~16:15	4 時限 14:45~16:15
5 時限 16:30~18:00	5 時限 16:30~18:00	5 時限 16:30~18:00
	6 時限 18:10~19:40	6 時限 18:10~19:40

定期試験・追加試験 振鈴表		
日吉	三田※	矢上
1 時限 9:00~10:00	1 時限 9:00~10:30	1 時限 9:00~10:30
2 時限 10:20~11:20	2 時限 10:45~12:15	2 時限 10:45~12:15
3 時限 12:20~13:20	3 時限 13:00~14:30	3 時限 13:00~14:30
4 時限 13:40~14:40	4 時限 14:45~16:15	4 時限 14:45~16:15
5 時限 15:00~16:00	5 時限 16:30~18:00	5 時限 16:30~18:00
6 時限 16:20~17:20	6 時限 18:10~19:40	
7 時限 17:40~18:40		

※追加試験(三田)の振鈴時間は、この一覧表とは異なります。

学生部開室時間

	日吉・三田・矢上
授業・定期試験のある時	平日(月~金) 8:45~16:45
授業のない時・追加試験期間 (夏季・冬季・春季休校中)	平日(月~金) 8:45~11:30 12:30~16:45 (三田学生部の開室時間は 8:45~16:45)

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。
変更等は適時 K-Support の News でお知らせします。

目 次

2026 年度日吉授業実施カレンダー	2
--------------------	---

学習指導要項 はじめに

第 1 はじめに	8
1 履修案内について	8
2 学事関連の伝達事項	8
3 時間割・講義要綱・シラバス	8
4 学習指導相談	8
5 単位の数え方(学部学則第 28 条)	8
6 学業成績	9
7 成績評語に関する質問制度	9
8 取得可能学位	9
9 教員を訪ねる場合	9
第 2 Web システム	10
1 塾生サイト	10
2 K-Support	10
3 keio.jp	12
第 3 履修の流れ	13
履修登録取消制度について	17
他学部・他研究科学生の履修を制限する科目(学部) ...	18
他学部・他研究科生による履修登録取消が認められない科目(学部)	19
全学共通科目	20

学習指導要項 法学部法律学科

第 1 カリキュラムの履修ガイド	22
1 法律学科のカリキュラムの特質	22
2 法律学科のカリキュラムの基本構造	22
3 法律専門科目の履修ガイド	23
4 法曹コースについて	24
5 総合科目(外国語科目、人文・自然・社会科学科目等)の履修ガイド	25
第 2 学習指導要項	26
1 進級条件について	26
2 卒業条件について	26
3 履修上限について	26
4 外国語科目について	26
5 人文科学科目について	27
6 自然科学科目について	27
7 社会科学科目について	27
8 法律学科目について	27
9 情報処理科目について	28
10 自主選択科目と自由科目について	28
11 卒業までに必要な最低単位数を超過した単位について	28
12 同一科目名の履修について	28
13 クラス指定科目について	28
14 上級学年設置科目について	28
15 政治学科・他学部・研究所設置科目について	28
16 他地区設置授業を履修する場合の注意事項	29
17 「遠隔(オンライン)授業」の履修について	29
18 「遠隔(オンライン)授業」の単位数上限について	29
19 授業科目ナンバリング(K-Number)について	29
○ 法律学科 卒業までの履修チャート	30
第 3 2026 年度開講科目一覧	32
第 4 三田キャンパス(第 3・4 学年)について	34
○ 卒業までに必要な単位	35

学習指導要項 法学部政治学科

第 1 カリキュラムの履修ガイド	38
1 政治学科のカリキュラムの特質	38
2 カリキュラムのねらい	38
3 カリキュラムの基本的構造	38
4 カリキュラムの活用法	39
5 履修にあたり注意すること	40
第 2 学習指導要項	41
1 進級条件について	41
2 卒業条件について	41
3 履修上限について	41
4 外国語科目について	41
5 人文科学科目について	42
6 自然科学科目について	42

7 社会科学科目について	42
8 政治学科目について	42
9 情報処理科目について	43
10 自主選択科目と自由科目について	43
11 卒業までに必要な最低単位数を超過した単位について	43
12 同一科目名の履修について	43
13 クラス指定科目について	43
14 上級学年設置科目について	43
15 法律学科・他学部・研究所設置科目について	43
16 他地区設置授業を履修する場合の注意事項	44
17 「遠隔(オンライン)授業」の履修について	44
18 「遠隔(オンライン)授業」の単位数上限について	44
19 授業科目ナンバリング(K-Number)について	44
○ 政治学科 卒業までの履修チャート	45
第 3 2026 年度開講科目一覧	47
第 4 三田キャンパス(第 3・4 学年)について	50
○ 卒業までに必要な単位	51

学習指導要項 共通

第 1 所属学科時間割にない科目の履修	54
1 A 欄申告・B 欄申告	54
2 所属学科時間割にない科目の取り扱い	54
・メディア・コミュニケーション研究所 設置科目の履修取り扱い	55
3 【留学生】日本語の履修について	55
第 2 自然科学科目(実験を含む)の履修	56
第 3 体育科目履修要項	57
1 体育科目のねらい	57
2 体育科目の構成	57
3 体育科目履修申告までの流れ	57
4 実技費用納入が必要な科目について	60
5 履修登録取消について	60
第 4 復活制度について	61
第 5 秋学期入学者への注意	62

学習指導要項 その他

第 1 授業・レポート・試験	64
1 授業	64
2 緊急時における授業の取扱い	64
3 早慶野球戦が行われる場合の授業の取扱い	64
4 裁判員候補者に選定された場合の取扱い	64
5 障害学生支援(合理的配慮)	64
6 レポート	65
7 定期試験	65
8 追加試験	66
9 不正行為について	66
第 2 学籍(休学・退学・留学)	68
1 休学(学部学則第 152 条)	68
2 退学(学部学則第 154 条)	68
3 学則第 156 条による退学処分	69
4 学則第 188 条による退学処分	69
5 留学(学部学則第 153 条)	69
6 留学と休学の違い	70
7 留学・休学の申請の流れ	70
第 3 学生証・諸届・証明書	71
1 学生証	71
2 住所変更(本人・保証人)	71
3 保証人変更	72
4 改姓・改名	72
5 国籍変更	72
6 通学証明書(通学定期券の購入)	72
7 証明書(成績証明書・学割証等)	73

副専攻認定制度と外国語修了証・表彰制度について

第 1 法学部「副専攻認定制度」について	76
第 2 インテンシブコース修了証・ 外国語成績優秀者表彰について	78
日吉校舎案内	79
日吉学生部案内・掲示板マップ	80

2026年度 日吉授業実施カレンダー

- ・ カレンダー上の囲み数字は、各曜日毎の授業回数を表します。
- ・ 定期試験、追加試験の日程はすべて予定です。

2026年 4月

 ①-⑭：2学期制科目の春・秋学期の回数
 ①-⑭：4学期制科目の春前半・秋前半の回数
 ①-⑭：4学期制科目の春後半・秋後半の回数

 授業期間
 休校期間
 休 日

日	月	火	水	木	金	土
4月4日(土)～9日(木)健康診断(日曜日を除く) 詳細は保健管理センター Web サイトを必ずご確認ください。(www.hcc.keio.ac.jp/ja/)						
				1	2	3
				入学式(予定)〔入学後の行事と諸手続きについて〕参照 ガイダンス(1日～7日)		4
					履修申告期間(一次)(3日12:30～6日16:00)	
5	6	7	①①②	8	①①②	9
		履修調整結果発表(日吉設置の総合教育科日ほか)(16:00)	春学期授業開始 春学期前半科目授業開始			10
						①①②
					履修申告期間(二次)(7日16:00～15日10:00)	
12	①①②	13	①①②	14	②③④	15
				②③④	16	②③④
					17	②③④
19	②③④	20	②③④	21	③⑤⑥	22
				③⑤⑥	23	③⑤⑥
				開校記念日 (授業は通常どおり実施)	24	③⑤⑥
					履修エラー修正期間(21日8:45～22日16:00)	
26	③⑤⑥	27	③⑤⑥	28	④⑦⑧	29
				昭和の日 (授業は通常どおり実施)	④⑦⑧	30
					履修登録取消期間(29日10:00～30日16:00) ※対象:通年(セット)・春学期・春学期前半科目	
					中旬:学費に関するご案内	

5月

日	月	火	水	木	金	土
					④⑦⑧	1
						④⑦⑧
3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6
				振替休日	⑤⑨⑩	7
					⑤⑨⑩	8
10	④⑦⑧	11	④⑦⑧	12	⑤⑨⑩	13
					⑥⑪⑫	14
					⑥⑪⑫	15
17	⑤⑨⑩	18	⑤⑨⑩	19	⑥⑪⑫	20
					⑦⑬⑭	21
					⑦⑬⑭	22
24	⑥⑪⑫	25	⑥⑪⑫	26	⑦⑬⑭	27
					⑧①②	28
					春学期後半科目授業開始	⑧①②
					春学期・通年休学願提出期限	29
31						⑧①②
						早慶野球戦(予定)

6月

※「試験日」のうち、6/5(金)の4～6限は日吉キャンパスの学期前半試験が行われる場合があります。
 ※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
	⑦⑬⑭	1	⑦⑬⑭	2	⑧①②	3
		春学期前半科目授業終了			補講日/試験日	4
					補講日/試験日	5
7	⑧①②	8	⑧①②	9	⑨③④	10
					⑨③④	11
					⑨③④	12
14	⑨③④	15	⑨③④	16	⑩⑤⑥	17
					⑩⑤⑥	18
					⑩⑤⑥	19
21	⑩⑤⑥	22	⑩⑤⑥	23	⑪⑦⑧	24
					⑪⑦⑧	25
					⑪⑦⑧	26
						⑫⑨⑩
28	⑪⑦⑧	29	⑪⑦⑧	30		
					履修登録取消期間(24日10:00～25日16:00) ※対象:春学期後半科目	

7月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土						
上旬：定期試験時間割発表 上旬～下旬：追加試験申込受付			12④⑩	1	12④⑩	2	12④⑩	3	13①⑫	4		
5	12④⑩	6	12④⑩	7	13①⑫	8	13①⑫	9	13①⑫	10	14⑧⑬	11
12	13①⑫	13	13①⑫	14	14⑧⑬	15	14⑧⑬	16	14⑧⑬	17	補講日	18
19	14⑧⑬ 海の日 (授業は通常どおり実施)	20	14⑧⑬ 春学期授業終了 春学期後半科目授業終了	21	春学期末定期試験(22日～31日)(予定)							
26		27	28	29	30	31						

8月

日	月	火	水	木	金	土	
上旬～9月：体育実技 (シーズン・スポーツ)						1	夏季休校(~9月21日)
2	3	4	5	6	7	8	春学期末追加試験
9	10	11	12	13	14	15	山の日 春学期末追加試験(8日、10日、12日)(予定)
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						

9月

日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	春学期成績発表
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	卒業式
20	21	22	23	24	25	26	敬老の日 国民の休日 秋分の日 入学式 履修申告期間(一次)(25日12:30～28日16:00)
27	28	29	30	履修調整結果発表(日吉設置の総合教育科目はか)(16:00) 履修申告期間(二次)			

10月

日	月	火	水	木	金	土
				11①② 1 秋学期授業開始 秋学期前半科目授業開始 履修申告期間(二次)(9月29日16:00~10月8日10:00)	11①② 2	11①② 3
4	11①②	5 11①②	6 11①②	7 2③④	8 2③④	9 2③④ 10
11	2③④ スポーツの日 (授業は通常どおり実施)	12 2③④	13 2③④	14 3⑤⑥ 履修エラー修正期間(15日8:45~16日16:00)	15 3⑤⑥	16 3⑤⑥ 17
18	3⑤⑥	19 3⑤⑥	20 3⑤⑥	21 4⑦⑧ 履修登録取消期間(22日10:00~23日16:00) ※対象:秋学期・秋学期前半科目	22 4⑦⑧	23 4⑦⑧ 24
25	4⑦⑧	26 4⑦⑧	27 4⑦⑧	28 5⑨⑩	29 5⑨⑩	30 5⑨⑩ 早慶野球戦(予定) 31

11月

※「試験日」のうち、11/18(水)1~2限は日吉キャンパスの学期前半試験が行われる場合があります。
 ※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
1	5⑨⑩	2 5⑨⑩ 文化の日 (授業は通常どおり実施)	3 5⑨⑩	4 6⑪⑫	5 6⑪⑫	6 6⑪⑫ 7
8	6⑪⑫	9 6⑪⑫	10 6⑪⑫	11 7⑬⑭	12 7⑬⑭	13 7⑬⑭ 14
15	7⑬⑭	16 7⑬⑭	17 午前:補講日/試験日 午後~三田祭準備(休校)	18 三田祭準備(休校)	19 三田祭(休校)	20 三田祭(休校) 21
三田祭 22 三田祭 勤労感謝の日	23 三田祭片付け(休校)	24 7⑬⑭ 秋学期前半科目授業終了	25 補講日/試験日	26 8⑰⑱ 秋学期後半科目授業開始	27 8⑰⑱	28
29 8⑰⑱ 秋学期休学願提出期限	30					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		8⑰⑱	1 8⑰⑱	2 8⑰⑱	3 9⑳㉑	4 9⑳㉑ 5
6	9⑳㉑	7 9⑳㉑	8 9⑳㉑	9 9⑳㉑	10 10㉒㉓	11 10㉒㉓ 12
13	10㉒㉓	14 10㉒㉓	15 10㉒㉓ 履修登録取消期間(14日10:00~15日16:00) ※対象:秋学期後半科目	16 10㉒㉓	17 11㉔㉕	18 11㉔㉕ 19
20	11㉔㉕	21 11㉔㉕	22 11㉔㉕	23 11㉔㉕	24 12㉖㉗	25 12㉖㉗ 26
27		28	29	30	31	
		冬季休校(28日~1月4日)				

**2027年
1月**

※「月曜代替講義日」には実際の曜日にかかわらず月曜日として授業が行われます。
 ※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土					
中旬：定期試験時間割発表 中旬～2月上旬(予定)：追加試験申込受付						1	2				
						元日 冬季休校					
3	4	12 9 10 授業開始	5	12 9 10	6	12 9 10	7	12 9 10	8	13 10 12	9
						月曜代替講義日					
10	11	13 10 12	12	13 10 12	13	13 10 12	14	13 10 12	15	14 10 12	16
福澤先生誕生記念日	成人の日										
17	18	14 10 12	19	14 10 12	20	14 10 12	21	14 10 12	22	23	
										補講日	
24	25	14 10 12	26	27	28	29	30	31	秋学期授業終了 秋学期後半科目授業終了		
						秋学期末定期試験(26日～2月5日(予定))					
31											

2月

日	月	火	水	木	金	土	
上旬：体育実技(シーズン・スポーツ) 下旬(予定)：秋学期末追加試験							
	1	2	3	4	5	6	
						福澤先生命日	春季休校(~3月下旬)
7	8	9	10	11	12	13	
				建国記念日			
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
	天皇誕生日						
28							

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
			学業成績発表			
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
春分の日	振替休日	卒業式				
						翌年度ガイダンス(25日～31日)
28	29	30	31			

学習指導要項

はじめに

1 履修案内について

この履修案内は、2026年度日吉地区に在籍する塾生の皆さんを対象に書かれています。履修にあたっての諸注意、履修の方法、学則（別冊）の運用、学部ごとの学習指導要項を解説しています。履修に関わる事柄について詳細に説明されていますので、履修申告の時だけでなく、常に振り返って内容を確認するように心がけてください。

毎年、履修案内を読まないことによる履修上のトラブルが多く見られます。トラブルの中には、進級に関わるものが多々あります。理解できない点や不明な事項は、必ず学習指導担当教員や日吉学生部に問い合わせ、誤りのないように十分注意してください。

2 学事関連の伝達事項

日吉キャンパス設置科目の時間割・教室変更、休講・補講、各種試験の実施要項、学事日程、緊急通達、呼出等の各種お知らせはK-Support、塾生サイト等に掲載しますので、必ずそちらを確認してください。また、第4校舎B棟1階に掲示板がありますので、随時確認してください（本書 p. 80 参照）。他キャンパス設置科目についての情報は、同様にK-Support、塾生サイト等およびその科目を設置しているキャンパスの掲示板等を確認してください。

3 時間割、講義要綱・シラバス

授業内容、授業の計画、教科書、成績評価方法等の詳細は、Web上の「シラバス・時間割」で閲覧してください。シラバス・時間割は「K-LMS」（本書 p. 10）から利用できます（K-Support にログイン後、「K-LMS」を選択）。

所属学部・学年の時間割からの検索や、他学部の科目も含めた曜日時限・設置学部・キーワード等を入力しての検索が可能です。

今年度の『時間割』は、WebからPDFファイルで参照することも可能です。

塾生サイト <https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/>



4 学習指導相談

(1) 履修申告前の学習指導相談

履修についての質問、相談に所属学部学習指導担当教員が応じています。各学部の実施方法やスケジュールはK-Support、塾生サイト等で案内します。また、日吉学生部所属学部窓口（巻末の日吉学生部案内参照）でも相談を受け付けます。

(2) 履修申告後の学習指導相談

日吉学生部所属学部窓口で、随時、相談を受け付けます。

(3) 2026年度日吉学習指導主任および副主任

所属学部	学習指導	
文学部	主任：小林 薫	副主任：越野 剛、佐藤 恵、細野香里
経済学部	主任：石川昌治	副主任：石井 明、佐藤正樹、中川真知子、松岡和美、湯川やよい
法学部	主任：佐藤元状	副主任：近藤康裕、村上由美、浜田和範、島田美和、林 良信、熊野谷葉子
商学部	主任：佐野真一郎	副主任：安井 伸、市川佳世子、代 珂
医学部	主任：ホップス、ジェイムズ	
理工学部	外国語・総合教育	主任：荒金直人 副主任：石田真子、池田真弓
	基礎系	主任：杉本麻樹 副主任：田口良広、山本崇史
薬学部	主任：井上賀絵	副主任：植村良太郎
体育研究所	主任：坂井利彰	副主任：鳥海 崇、林 卓史

5 単位の数え方（学部学則第28条）

(1) 講義科目

週1回半年の授業で2単位、週1回通年の授業で4単位、週2回半年の集中講義で4単位となります（例外科目もあります）。

(2) 外国語科目

週1回半年の授業で1単位、週1回通年の授業で2単位、週2回半年の集中講義で2単位となります。

(3) 自然科学の実験科目

文・経済・法・商学部の実験を伴う科目は、半年で3単位、通年で6単位となりますが、所属学部・入学年度によって履修方法が異なります。

本書「自然科学科目（実験を含む）の履修」（本書 p. 56）を参照してください。

6 学業成績

(1) 成績評語

所定の授業に出席し評価試験(定期試験またはレポート)を受けた後に評語が決まります。学業成績の評語は、S・A・B・C・Dの5段階を基本とし、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とします。ただし、特定の科目は、評語をP・Fの2種とし、この場合、Pを合格、Fを不合格とします。なお、他大学等で履修した科目をS・A・B・CまたはPの評語を用いずに認定する場合は、Gとします。

※2016年度以前の履修科目の成績評語

学業成績の評語は、A・B・C・Dの4段階とし、A・B・Cを合格、Dを不合格とします。なお、特定の科目や他大学等で履修した科目については上記と同様です。

(2) GPA (Grade Point Average) ※2017年度以降入学者のみ対象

GPAは、履修登録した科目毎の5段階評価を4.0から0.0までのGP(Grade point)(S:4.0、A:3.0、B:2.0、C:1.0、D:0.0)に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点で、成績を数値で表したものです。

$GPA = (\text{履修した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和} \div \text{履修した授業科目の単位数の合計}$

GPA算出にあたり、P(合格)の科目やF(不合格)の科目、G(認定)の科目、また卒業要件とはならない自由科目は除かれます。

GPAは、当該学期における「学期GPA」と在学中の全期間における「累積GPA」の二種類があります。学業成績表には学期GPAと累積GPAが記載され、成績証明書には累積GPAが記載されます。

なお、GPAは学習指導のためにも活用され、著しく低い場合には、退学が勧告される等の指導を受ける場合があります。

(3) 学業成績表

学業成績表はWeb上で閲覧可能です。春学期終了科目については9月上旬に、春秋セット科目や通年科目、秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については3月中旬に公開します。学期前半科目については、前半科目成績公開時に公開します。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

学業成績表のWeb閲覧にあたっては「keio.jp」のID・パスワードが必要です。閲覧方法や期間等の詳細は塾生サイトで告知します。パスワードの再発行等、Webシステムの利用案内については、「第2 Webシステム」(本書p.10～12)の章を参照してください。

なお、保証人は保証人IDを利用して学業成績表をWeb上で閲覧することができます。保証人IDは入学後、保証人宛に郵送で通知します。

(4) 学業成績証明書

「第3 学生証・諸届・証明書」(本書p.71～)の章を参照してください。

7 成績評語に関する質問制度

法学部所属の学生で、履修した科目の成績評語に対して確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える場合は、本制度を利用してください。申請方法等の詳細はK-Supportで案内します。この制度を利用せずに、メールやその他の方法で授業担当者に直接問い合わせることはできません。この場合は不正行為とみなされ、学則第188条により厳しく処分されます。受付期間は、次のとおりです。期日を過ぎたものは一切受け付けませんので注意してください。

2026年度 成績評語に関する質問制度受付期間

春学期前半科目	6月24日(水)～6月25日(木)	秋学期前半科目	12月14日(月)～12月15日(火)
春学期科目、春学期後半科目	9月4日(金)～9月8日(火)	秋学期科目、秋学期後半科目	3月10日(水)～3月12日(金)

8 取得可能学位

本大学において授与する学位については、以下を確認してください。

- ・入学年度の学部学則(学位規程(抜粋)を含む)掲載の学位規程第2条
- ・慶應義塾Webサイト「学部」ページ

<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/undergraduate/>



9 教員を訪ねる場合

授業の前後に都合をたずねることを原則としますが、やむを得ない場合は授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学生部で仲介等は行いません。メールでアポイントをとる場合は、各学部のWeb上の教員一覧等を参照するか、K-LMSのメッセージを利用してください。なお、K-LMS(シラバス・時間割等)での案内も参照し、該当授業の訪問ルールに留意してください。また、成績に関する質問は上記成績評語に関する質問制度を利用してください。

(1) 日吉所属専任教員(教授・准教授・専任講師・助教)

……研究室(来往舎、第2校舎、第8校舎、体育研究所)

(2) 他地区の専任教員および塾外からの出講者(講師)

……教員室(独立館地下1階、第3校舎2階、第6校舎2階)

※授業期間に限る

1 塾生サイト

https://www.students.keio.ac.jp/	塾生の皆様に向けた各種情報を提供しています。
ログイン ID・パスワードは不要です。	
主な提供サービス： ■授業／履修／試験 履修案内／シラバス／時間割（PDF）の公開等 ■学生生活／就職・進路 窓口利用案内／イベントや奨学金についての情報等	

2 K-Support



K-Support は在学生を対象としたポータルサイトです。大学からのお知らせ、自分宛のメッセージの確認、各種申請・問い合わせ等を行うことができ、学生の皆さんの学生生活のサポートや、学びの促進を目的としています。また、各種アプリケーションへのリンクも集約されています。学生生活において必要不可欠なポータルサイトですので、ブックマークするなどしてすぐにアクセスできるようにしてください。



■ ホーム画面

Messages	大学から学生個人宛のお知らせや呼び出しが表示されます。履修や学生生活に関する重要な事項を含みますので、 <u>常に確認するようにしてください。</u>
News	大学からのお知らせやイベント案内を掲出します。履修や卒業に関する重要なニュースも掲出されますので、 <u>随時確認してください。</u>
K-LMS	主に学修支援を目的としたシステムです。教材配布・レポート提出・お知らせ・ディスカッション等の機能を提供しています。 授業参加に欠かせないシステムですので、よく確認してください。
休講・補講	休講・補講のある授業の一覧が表示されます。休講・補講情報は変更されることがありますので、当該授業の前にも確認するようにしてください。
履修申告	履修申告・履修取消・新規履修申告科目なし申告を行うシステムです。履修申告期間中は申告内容の修正を行うことができます。履修申告のルールは各学部で異なるので、不明な点は各学部担当に確認してください。
登録済科目	履修中科目の一覧を表示します。科目が正しく登録できているか必ず確認してください。また、教室情報の確認も可能です。
学業成績表	学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科・学年等で異なります。詳細は塾生サイトで告知します。

■ 申請 ※主な申請を掲載しています。

本人情報	
住所確認・変更 (本人・保証人)	本人および保証人の連絡先を確認できます。変更がある場合は直ちに手続きを行ってください。

学生証再交付	学生証を紛失、汚損した場合はこちらから申請してください。詳細は塾生サイトまたは P. 71 を確認してください。
証明書発行 (厳封・特殊証明書等)	証明書発行サービスから発行できない証明書(厳封、各種資格、リクエストフォーム、海外への直送)の発行を希望する場合はこちらから申請してください。詳細は塾生サイトまたは P. 73 を確認してください。
保証人変更	左記の情報をシステム上で変更申請することが可能です。詳細は塾生サイトまたは P. 71~72 を確認してください。
改姓改名(本人)	
改姓改名(保証人)	
海外住所登録(本人)	
海外住所登録(保証人)	
国内緊急連絡先	
在留情報登録	在留カードの更新、在留資格や身分に変更が生じた場合は、こちらから情報を登録してください。
休学願	休学はこちらから申請してください。休学に関しては塾生サイトまたは P. 68・70 を確認してください。
国外留学	留学はこちらから申請してください。留学に関しては塾生サイトまたは P. 69・70 を確認してください。
就学届	教授会で承認された休学・留学期間が終了した際は、速やかにこちらから就学届を申請してください。詳細は塾生サイトまたは P. 70 を確認してください。

授業	
成績評語に関する質問制度	成績評語に関する質問制度はこちらから申請してください。成績評語に関する質問制度については P. 9 を参照してください。
合理的配慮申請	障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生は、修学上の困難に対し、合理的配慮の申請をすることが可能です。
追加試験申請	履修申告した授業科目の定期試験を、病気や不慮の事故等、やむを得ない理由で受けることができなかった場合には、こちらから所定の期間に追加試験を申請してください。なお申請が認められる条件等詳細は、本書 p. 66 や塾生サイトを確認してください。

■ アンケート

授業評価の入力、結果確認が可能です。
授業評価については K-Support News 等でご案内します。

■ FAQ・問い合わせ

よくある質問の確認や、学生部への問い合わせを行うことができます。
学生生活において不明な点や相談したい点がある場合、こちらを参照してください。

■ Apps (抜粋)

学生生活を送るうえで必要なサービスやシステムをまとめています。

○ Google Workspace

Google 社が提供する Web アプリで、メール(慶應メール)、ドライブ、カレンダー、グループ、連絡先、Gemini、NotebookLM などのサービスが利用できます。

なお、生成 AI の利用にあたっては、各種ガイドライン(本書 p. 67 参照)や教員の指示を遵守してください。

○ 授業

システム名	主管部署	説明
K-LMS: 学修支援システム (Canvas LMS)	KIC	主に学修支援を目的としたシステムです。教材配布・レポート提出・お知らせ・ディスカッション等の機能を提供しています。
シラバス・時間割検索	学生部	履修科目を選択する際や、授業内容を把握し単位を修得するために必要な授業内容、授業の計画、教科書、成績評価方法等の情報が記載されています。履修申告を行う際には必ずシラバス・時間割を確認したうえで履修科目の決定を行ってください。
履修申告	学生部	履修申告・履修取消・新規履修申告科目なし申告を行うシステムです。履修申告期間中は申告内容の修正を行うことができます。履修申告のルールは各学部で異なるので、不明な点は各学部担当に確認してください。
登録済科目確認	学生部	履修中科目の一覧を表示します。科目が正しく登録できているか必ず確認してください。また、教室情報の確認も可能です。

休講・補講・任意設定講義情報	学生部	休講・補講のある授業の一覧が表示されます。休講・補講情報は変更されることがありますので、当該授業の前にも確認するようにしてください。
学業成績表	学生部	学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科・学年等で異なります。詳細は塾生サイトで告知します。
Web エントリーシステム	学生部	事前抽選が必要な科目の抽選申込み（エントリー）を行うシステムです。ただし、科目によっては Web を使わずにエントリーシートを窓口へ提出する場合があります。また、受付期間が科目ごとに異なります。
教職課程	学生部	「教職課程登録」「教職介護等体験申込み」「教員免許状一括申請」を行うシステムです。受付期間がそれぞれ異なりますので、よく確認してください。

○学生生活・奨学金・学費

システム名	主管部署	説明
医療給付申請	学生部	学生健康保険互助組合の医療給付申請に必要な申請書を作成できます。
学生団体活動支援システム	学生部	団体情報の登録、学生責任者や会長の変更申請、各種届出書のダウンロード、学外行事届・海外活動申請書の提出等、団体運営に関する各種申請等が可能です。また、公認申請もこちらのシステムから行います。
奨学金 Web 申請システム	学生部	学内の奨学金および民間団体・地方公共団体の奨学金申請の際に必要な奨学金申請書／選考シートを作成できます。不備書類の連絡や申請・受給状況の確認もこのシステム上で行います。 ※外国籍の学生は、在留資格が法定特別永住者、永住者、定住者、日本人（永住者）の配偶者または子、家族滞在の者のみ利用可。
学費 Navi	財務部	在学中の学費に関する情報の閲覧や納入履歴の確認、学費納入に関する手続を行うシステムです。納入証明書発行や返金手続のための口座登録等も可能です。

○サービス

システム名	主管部署	説明
ソフトウェアライセンス取得システム	KIC	義塾が契約を結んでいるソフトウェアのライセンス配布システムです。
感染症罹患報告	保健管理センター	学校感染症に罹患した場合、保健管理センターへの届け出が必要です。確認の上、必ず報告してください。
証明書発行サービス	学生部	学内証明書発行機、全国のコンビニエンスストアで証明書を発行できるサービスです。また、電子証明書（PDF）のオンライン送付も可能です。証明書発行についての詳細は P. 72・73 を参照してください。

○就職・進路

就職活動の基礎知識を総覧できるウェブサイトや、先輩たちが書き記してくれた就活体験記を閲覧できます。

○keio.jp 関連設定

keio.jp を使用するために必要な設定を行うことができます。keio.jp については次項を参照してください。

3 keio.jp

keio.jp は「慶應義塾共通認証システム」の通称で、義塾が提供する各種オンラインサービスを安全かつ便利に利用するための認証システムです。義塾が提供するサービスを利用するためには、原則として keio.jp によるログイン認証が必要となります。

keio.jp に関するマニュアルは、以下を参照してください。

https://www.itc.keio.ac.jp/ja/keiojp_manual.html

パスワードの再発行窓口は、以下のとおりです。

ログイン ID	再発行窓口	必要書類
慶應 ID	各キャンパス KIC 窓口	学生証

第 3

履修の流れ

履修申告にあたっては、『履修案内』（本書）や K-Support、塾生サイト等を参照のうえ、誤登録・申告漏れなどのないよう十分注意してください。また、履修申告（K-Support（<http://keio.jp/>）の「履修申告」より登録）を行っても、履修調整により不許可となる場合や、不備のため修正が必要となる場合などがありますので、必ず本章の流れに従い、必要な手続きを行ってください。これらを怠った場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。

3月27日(金)

在籍クラス・学籍番号・履修語学の発表

新入生お知らせシステム（<https://fresh.keio.jp/>）にて発表されます。新入生は当日中に必ず確認してください。外国語選抜試験受験希望者向けの案内もあわせて公開されます。学籍番号は、塾生一人一人に与えられる特別な番号です。履修申告等に必要になります。

4月1日(水)

9:00

～2日(木)

11:00

外国語 Web エントリー

英語履修者（新入生）は全員エントリーが必要です。詳細は K-Support の News に掲載される説明や「外国語科目履修案内」を参照してください。抽選結果は、K-Support の News にてお知らせします。

(1) 自然科学科目(実験を含む)の履修

→「第2 自然科学科目(実験を含む)の履修」(本書 p. 56) 参照

(2) 体育科目の履修→「第3 体育科目履修要項」(本書 p. 57～60) 参照

(3) 諸研究所(外国語教育研究センター、国際センター他)設置科目の履修

→各研究所の講義要綱、塾生サイト「諸研究所設置科目」ページ、Web上の「シラバス・時間割」の各研究所ページおよび掲示板で確認

他学部設置科目の履修について

(1) 日吉キャンパスの他学部設置科目を履修する場合、特別な申請は不要です。ただし初回授業やシラバスで個別に指示がある場合があるので確認してください。

※他キャンパス開講の他学部設置科目を履修する場合は、必ず科目担当教員の許可を得てください。許可が得られなかった場合は、必ず履修登録取消期間に取り消してください。

※他キャンパス開講の各学期後半科目など、履修申告期間までに科目担当教員の許可を得られない場合、履修申告は所定の期間内に行ってください。初回授業で科目担当教員に確認し許可が得られなかった場合は、必ず履修登録取消期間に取り消してください。

(2) 原則として他学部の必修科目や指定クラスのある科目の履修は認められません。詳しくは、本書 p. 18「他学部・他研究科学生の履修を制限する科目(学部)」、次の Web ページ等で確認してください。

他学部・他研究科設置科目の履修・取消

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>

※履修希望者多数のため履修者数調整を行う科目があります。調整の際は、科目設置学部の学生が優先されることがあります。

4月3日(金)

12:30

～6日(月)

16:00 まで

【春学期】履修申告期間（一次申告）

対象科目：春学期科目・春学期前半科目・春学期後半科目・通年科目（セット科目含む）

履修を希望する科目は、この期間に全て履修申告してください。申告が完了したら、科目や分野の間違いや不足がないかを必ず確認してください。なお、新入生に限り、必修科目等の一部科目は予め履修登録されている場合があります。この場合も、間違いがないかを履修申告期間に必ず確認してください。

一次申告時に履修申告した科目は、この後予定されている二次申告期間に取り消すことが可能です。なお、一次申告の結果、履修定員に達した科目は二次申告期間には追加できませんので注意してください。

登録方法等詳細は塾生サイトの「履修申告操作マニュアル」(<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html>)で確認してください。

※履修申告画面で赤い **CHECK** ボタンを押下した後、履修申告内容に不備がある場合は、要修正欄にエラーメッセージが表示されます。必ず不備を修正してください。修正しないまま一次申告を終了した場合、履修者数調整の際に不利になる場合があります。

※ Web システムを利用した履修申告が困難な場合は、日吉学生部所属学部窓口まで問い合わせてください。

- (1) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>) にその詳細を掲載しますので、履修を希望する場合は必ず事前に確認してください。
- (2) 履修申告画面に表示される登録科目は、履修が決定したものではありません。今後の履修調整により不許可になる可能性や、履修申告不備のため修正が必要となる可能性があります。
- (3) 指定された期日までに履修申告しない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になることがあります（学部学則第 188 条）。



4月7日(火)
16:00
(予定)

履修申告調整結果発表

履修申告の結果、履修定員を超えた科目は履修者数調整を行います。調整結果は、K-Support (<http://keio.jp/>) の「履修申告」画面で確認してください。
なお、調整結果の見方は塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>) で確認してください。

- (1) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>) にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23:59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。K-LMS には履修申告をした翌朝に反映されるため、初回授業日以降に履修申告を行うと、選抜・抽選を受けられない可能性があります。
- (2) 初回授業当日に調整を行う科目の調整結果は、keio.jp のメールアドレス宛に通知されるので、確認を怠らないようにしてください。
- (3) 「登録済科目確認」画面では、各科目のシラバスや K-LMS へのリンクが表示されます。ただし、二次申告期間中に履修申告した科目や調整結果は即時反映されないのので注意してください。

4月7日(火)
16:00
～15日(水)
10:00 まで

【春学期】履修申告期間（二次申告）

対象科目：春学期科目・春学期前半科目・春学期後半科目・通年科目（セット科目含む）
申告が完了したら、科目や分野の違いや不足がないかを必ず確認してください。
二次申告期間後は、指定された履修エラー修正期間、履修登録取消期間（本書 p. 17）を除き、履修申告内容の変更はできませんので、履修申告は十分に慎重を期して行ってください。
登録方法等詳細は塾生サイトの「履修申告操作マニュアル」(<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html>) で確認してください。
※ Web システムを利用した履修申告が困難な場合は、日吉学生部所属学部窓口まで問い合わせてください。

- (1) 履修申告調整結果を受け、科目の追加・削除を行う場合はこの期間に行ってください。
- (2) 一次申告時に定員に達した科目は追加できません。Web システム上、選択可能な科目が追加可能な科目です。
- (3) 二次申告期間中および二次申告期間終了後に履修定員を超えた場合は、抽選を実施することがあります。塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>) にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認してください。
- (4) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>) にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23:59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。K-LMS には履修申告をした翌朝に反映されるため、初回授業日以降に履修申告を行うと、選抜・抽選を受けられない可能性があります。

4月20日(月)
16:00～
(予定)

履修申告科目確認期間

K-Support (<http://keio.jp/>) の「登録済科目確認」から登録科目一覧画面を印刷し、必ず内容を確認してください。
この確認を怠り、エラー修正を所定期間に行わなかった等の場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。

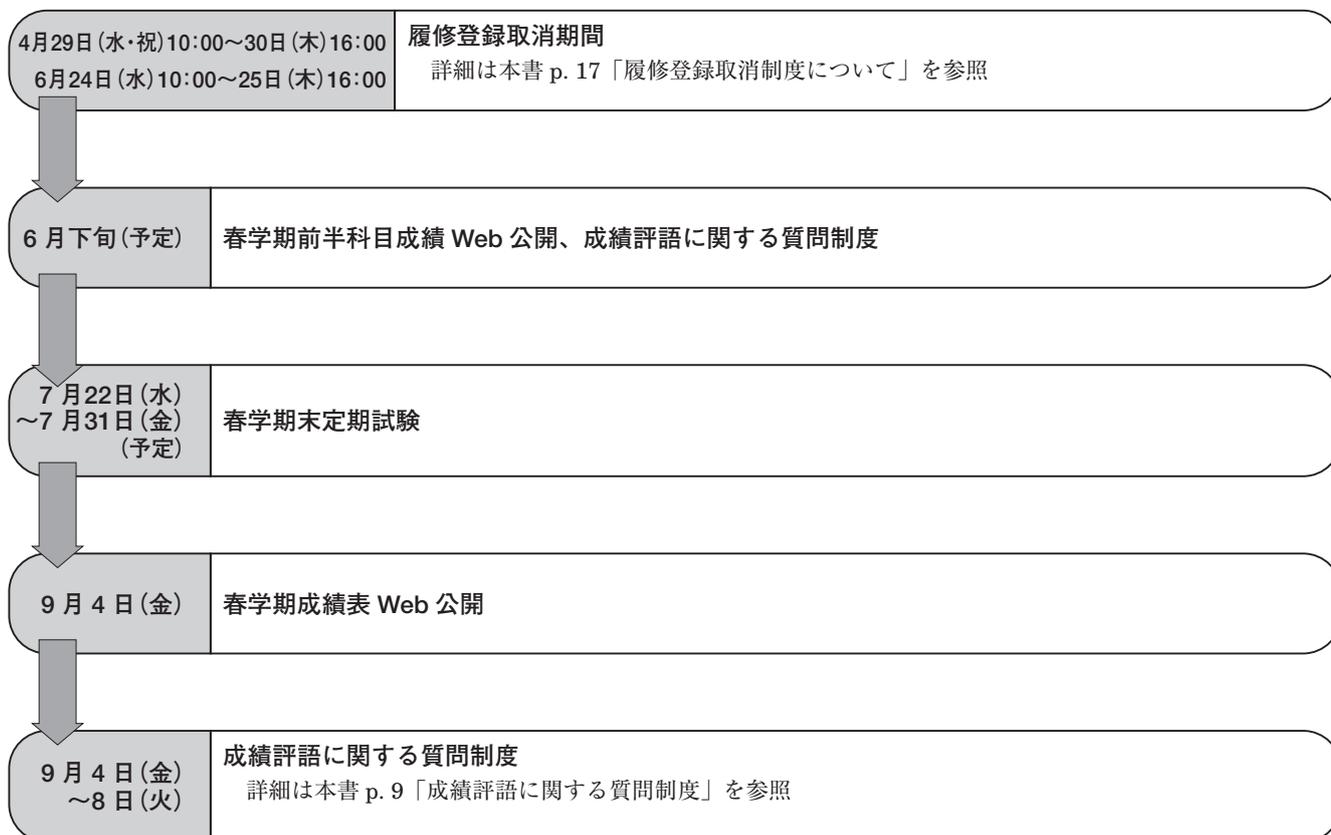
- (1) 履修申告に不備があったり、修正が必要な場合に、日吉学生部から本人へ連絡します。日吉学生部からの指示に従い、履修エラー修正期間に修正してください。

4月21日(火)
8:45
～22日(水)
16:00

履修エラー修正期間

日吉学生部からの指示に従い、修正を行ってください。Web システムによるエラー修正はできません。

- (1) 日吉学生部から履修申告の不備を指摘された場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 履修申告に不備がある場合を除き、すでに履修登録済の科目の削除は履修エラー修正期間では認められませんので、注意してください。
- (3) 履修の選抜・抽選に漏れてしまい「不許可」となった科目は数日後に自動で削除されます。削除の手続きは必要ありません。



9月25日(金) 12:30 ~28日(月) 16:00 まで	<p>【秋学期】履修申告期間（一次申告）</p> <p>対象科目：秋学期科目・秋学期前半科目・秋学期後半科目</p> <p>履修を希望する科目は、この期間に全て履修申告してください。申告が完了したら、科目や分野の間違いや不足がないかを必ず確認してください。なお、新生に限り、必修科目等の一部科目は予め履修登録されている場合があります。</p> <p>一次申告時に履修申告した科目は、この後予定されている二次申告期間に取り消すことが可能です。なお、一次申告の結果、履修定員に達した科目は二次申告期間には追加できませんので注意してください。</p> <p>登録方法等詳細は塾生サイトの「履修申告操作マニュアル」(https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html)で確認してください。</p> <p>※履修申告画面で赤い CHECK ボタンを押下した後、履修申告内容に不備がある場合は、要修正欄にエラーメッセージが表示されます。必ず不備を修正してください。修正しないまま一次申告を終了した場合、履修者数調整の際に不利になる場合があります。</p> <p>※ Web システムを利用した履修申告が困難な場合は、日吉学生部所属学部窓口まで問い合わせてください。</p>
--	--

- 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、履修を希望する場合は必ず事前に確認してください。
- 履修申告画面に表示される登録科目は、履修が決定したものではありません。今後の履修調整により不許可になる可能性や、履修申告不備のため修正が必要となる可能性があります。
- 指定された期日までに履修申告しない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になることがあります（学部学則第 188 条）。

9月29日(火) 16:00 (予定)	<p>履修申告調整結果発表</p> <p>履修申告の結果、履修定員を超えた科目は履修者数調整を行います。調整結果は、K-Support (http://keio.jp/) の「履修申告」画面で確認してください。</p> <p>なお、調整結果の見方は塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html)で確認してください。</p>
---------------------------	---

- 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23：59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。K-LMS には履修申告をした翌朝に反映されるため、初回授業日以降に履修申告を行うと、選抜・抽選を受けられない可能性があります。

- (2) 初回授業当日に調整を行う科目の調整結果は、keio.jp のメールアドレス宛に通知されるので、確認を怠らないようにしてください。
- (3) 「登録済科目確認」画面では、各科目のシラバスや K-LMS へのリンクが表示されます。ただし、二次申告期間中に履修申告した科目や調整結果は即時反映されないので注意してください。

【秋学期】履修申告期間（二次申告）

対象科目：秋学期科目・秋学期前半科目・秋学期後半科目

申告が完了したら、科目や分野の違いや不足がないかを必ず確認してください。

二次申告期間後は、指定された履修エラー修正期間、履修登録取消期間（本書 p. 17）を除き、履修申告内容の変更はできませんので、履修申告は十分に慎重を期して行ってください。

登録方法等詳細は塾生サイトの「履修申告操作マニュアル」（<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html>）で確認してください。

※ Web システムを利用した履修申告が困難な場合は、日吉学生部所属学部窓口まで問い合わせてください。

9月29日(火)
16:00
～10月8日(木)
10:00 まで

- (1) 履修申告調整結果を受け、科目の追加・削除を行う場合はこの期間に行ってください。
- (2) 一次申告時に定員に達した科目は追加できません。Web システム上、選択可能な科目が追加可能な科目です。
- (3) 二次申告期間中および二次申告期間終了後に履修定員を超えた場合は、抽選を実施することがあります。塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」（<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>）にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認してください。
- (4) 初回授業後当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」（<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>）にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23:59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。K-LMS には履修申告をした翌朝に反映されるため、初回授業日以降に履修申告を行うと、選抜・抽選を受けられない可能性があります。

履修申告科目確認期間

K-Support (<http://keio.jp/>) の「登録済科目確認」から登録科目一覧画面を印刷し、必ず内容を確認してください。

この確認を怠り、エラー修正を所定期間に行わなかった等の場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。

10月14日(水)
16:00～
(予定)

- (1) 履修申告に不備があったり、修正が必要な場合に、日吉学生部から本人へ連絡します。学生部からの指示に従い、履修エラー修正期間に修正してください。

履修エラー修正期間

日吉学生部からの指示に従い、修正を行ってください。Web システムによるエラー修正はできません。

10月15日(木)
8:45
～16日(金)
16:00

- (1) 日吉学生部から履修申告の不備を指摘された場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 履修申告に不備がある場合を除き、すでに履修登録済の科目の削除は履修エラー修正期間では認められませんので、注意してください。
- (3) 履修の選抜・抽選に漏れてしまい「不許可」となった科目は数日後に自動で削除されます。削除の手続きは必要ありません。

履修登録取消期間

詳細は本書 p. 17「履修登録取消制度について」を参照

10月22日(木) 10:00～23日(金) 16:00
12月14日(月) 10:00～15日(火) 16:00

12月中旬(予定)

秋学期前半科目成績 Web 公開、成績評語に関する質問制度

1月26日(火)
～2月5日(金)
(予定)

秋学期末定期試験

3月10日(水) 秋学期成績表 Web 公開

3月10日(水)
～12日(金)

成績評語に関する質問制度

詳細は本書 p. 9 「成績評語に関する質問制度」を参照

履修登録取消制度について

所定期間に申告手続きをとることにより、一旦履修登録した科目の履修を取り消すことができます。履修登録取消期間には、対象科目の取り消しのみが可能であり、科目の追加・修正等はできません。

(1) 履修登録取消期間、対象科目、手続き方法および上限単位数

期間	対象科目	手続き方法	履修取消上限単位数
4月29日(水)10:00 ～30日(木)16:00	通年科目(セット科目含む)・ 春学期科目・春学期前半科目	Web システムで申告	8 単位
6月24日(水)10:00 ～25日(木)16:00	春学期後半科目	Web システムで申告	8 単位
10月22日(木)10:00 ～23日(金)16:00	秋学期科目・秋学期前半科目	Web システムで申告	8 単位
12月14日(月)10:00 ～15日(火)16:00	秋学期後半科目	Web システムで申告	8 単位

※必修科目は履修登録取消できません。

- ・ 選択必修科目は取消可能です。
- ・ 外国語のインテンシブ科目の場合、必修だけでなく、選択の区分に設置されている科目も取消できません。

(2) 履修登録取消上限単位数

履修登録取消期間に履修登録取消ができる単位数は、各期間それぞれ8単位までとします(自由科目を含む)。

(3) 注意事項

- ・ 進級、卒業条件を満たさなくなるような履修登録取消は認められません。
- ・ 一度履修登録取消の申告をした科目は、履修を復活することはできません。
- ・ 履修登録取消を行った科目の成績はつきません。
- ・ 夏季・冬季・春季休校期間等に行われる集中講義は、当該科目の履修確定日の翌日(休日を除く)から当該科目の授業開始日の翌日(休日を除く)までに、履修登録取消の手続きを所属学部窓口で行うことができます。この取消については、上記の履修登録取消期間ごとに設定されている履修取消上限単位数には含まれません。なお、上記履修登録取消期間に取消を行うことも可能ですが、その場合は各期間ごとに設定されている履修取消上限単位数に含まれます。
- ・ 他学部・諸研究所設置科目のうち、履修登録取消が認められない科目は、本書 p. 19 および以下の Web ページで確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>



他学部・他研究科学生の履修を制限する科目（学部）

【注意事項（全学部・全研究科）】

※最新情報を必ず以下の URL で確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>

- 必ず事前に履修案内等を熟読し、他学部他研究科設置科目履修に必要な手続きをしてください。
下記の科目以外にも、個々の授業によって履修の制限をする場合があります。必ず講義要綱・シラバスを熟読してください。
- 初回の授業で履修に関するガイダンスや履修の制限を行う場合があります。必ず初回の授業に出席してください。
- 所属学年による制限もあります。学年条件を満たしていない場合は、制限科目でなくても履修できません。
- 秋からは履修できない科目もありますので、シラバスや時間割等で確認してください。

地区	学部	履修可能な学年	制限科目
三田	文学部	文学部2年生以上	1. 不可 ◆必修語学科目（文学部履修案内 第9「2・3・4年生設置科目」参照） ◆卒業論文・卒業試験（研究会は履修可能） 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目 ◆必修科目や、履修者数が多い場合は、文学部生優先となる場合があります。 *上記以外で履修を制限する科目については、別途 Web あるいはシラバスにてお知らせします。 *セット科目・要件科目は科目の性質上、履修できない場合があります。
		文学部3年生以上	1. 不可 ◆外国語科目の選択必修科目 *外国語科目の選択必修科目と併設する選択科目は履修可能です（登録番号が異なります）。 ◆東京科学大学設置科目 *上記以外で履修を制限する科目については、別途 Web にてお知らせします。 2. 条件付不可 ◆PCP 科目、研究プロジェクト科目 *一部の科目を除き、事前選考に合格した学生のみが履修できます。 3. 優先される科目 履修者数が多い場合は、原則として経済学部生優先となります。
		文学部3年生以上	1. 不可 ◆「会計学Ⅰ/Ⅱ」「経営学Ⅰ/Ⅱ」「金融論Ⅰ」 ◆「経済史Ⅰ/Ⅱ」（政治学科の学生のみが履修できます） ◆「ローマ法」 ◆「西洋法制史」 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目 履修者数が多い場合は、原則として法学部生優先となります。
	商学部	文学部3年生以上	1. 不可 ◆「インターンシップ」「国際ビジネス研究」 ◆「研究会 Da・b（タイプ3）」 2. 条件付不可 ◆「研究演習 D/S」 *抽選後人数に余裕があり、授業担当者の了承を得られれば履修可能です。必ず事前に空き状況を三田学生部商学部担当に確認してください。（追加願（所定用紙）に授業担当者の了承印が必要です。） ◆GPP 科目 *「Passport Members' Activity D/S」, 「Passport Members' Workshop Spring/Fall」は GPP 生のみが履修できます。その他のコースワーク科目は、科目担当者が許可した場合は、GPP 生以外でも履修可能です。 3. 優先される科目 ◆履修者数が多い科目は、原則商学部生優先となります。

地区	学部	制限科目
三田	文学部	1. 不可 (1) 必修語学科目（文学部履修案内参照） (2) 特論科目すべて ・人文科学特論Ⅰ(2単位)・人文科学特論Ⅱ(2単位) ・社会科学特論Ⅰ(2単位)・社会科学特論Ⅱ(2単位) ・自然科学特論Ⅰ(2単位)・自然科学特論Ⅱ(2単位) (3) 基礎情報処理(2単位) 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目（文学部1年生） 履修者数が多い場合は、文学部生優先となります。
	経済学部	1. 不可 ◆基礎教育科目の必修科目 ◆外国語科目の必修科目、選択必修科目 ◆専門教育科目の必修科目 2. 条件付不可 PEARL 設置科目を履修する場合は、科目担当者及び PEARL アカデミック・ディレクターの許可を得る必要があります。 3. 優先される科目 履修者数が多い場合やクラスが指定されている場合は、経済学部生優先となる科目があります。
	法学部	1. 不可 【法律学科】 ◆外国語科目の必修科目 ◆社会科学科目の必修科目： 「法学Ⅰ（憲法を含む）」「法学Ⅱ（憲法を含む）」 ◆法律学科の必修科目： 「憲法（総論・人権）Ⅰ」「憲法（総論・人権）Ⅱ」 「民法（総論）Ⅰ」「民法（総論）Ⅱ」 「刑法（総論）Ⅰ」「刑法（総論）Ⅱ」 【政治学科】 ◆外国語科目の必修科目 ◆社会科学科目の必修科目： 「社会学」「法学（憲法を含む）」「経済原論Ⅰ」「憲法」「経済原論Ⅱ」 ◆政治学科の必修科目： 「政治思想基礎」「政治理論基礎」「日本政治基礎」「地域研究・比較政治基礎」「国際政治基礎」 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目 履修者数が多い場合やクラスが指定されている場合は、法学部生優先となる科目もあります。
	商学部	1. 不可 ◆必修外国語科目 ◆基礎科目・専攻科目・総合教育科目の下記科目 「経済学基礎Ⅰ・Ⅱ」「経営学基礎」「商業学基礎」 「会計学基礎（基本簿記と財務諸表の見方）」「微積分基礎」 「統計学基礎」「経営学（組織と戦略）」 「経営学（企業をめぐる諸問題）」 「商業学（マクロ・マーケティング）」 「商業学（ミクロ・マーケティング）」 「会計学（財務会計論Ⅰ）」 「会計学（財務会計論Ⅱ）」 「会計学（管理会計基礎）」 「経済学（ミクロ経済学）」 「経済学（マクロ経済学）」 「情報リテラシー基礎」「データとの対話」 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目 上記以外の科目でも履修者数が多い場合やクラスが指定されている場合は、商学部生優先となる科目もあります。
	医学部	1. 不可 ・必修科目（基礎科学必修科目のうち講義科目は除く） 2. 条件付不可 基礎科学必修科目のうち講義科目 *科目担当者の判断により履修を許可する場合があります。（上限あり。講義要綱・シラバス参照） 3. 優先される科目 ・履修者数が多い場合は、医学部生が優先されます。
	理工学部	1. 不可 グローバルリーダーシップセミナー グローバルリーダーシップセミナー実地研修 プログラミング言語 2. 条件付不可 ・必修科目 ・実験科目（必修または選択） ・演習科目（必修または選択） 教職に必要な場合に限る、科目担当者と学習指導が判断し、履修を許可する場合があります。 3. 優先される科目 履修者数が多い場合は、理工学部生優先となる科目があります。

地区	学部	制限科目
三田	薬学部	1. 不可 ◆必修科目 2. 条件付不可 ◆「1. 不可」以外の講義・演習科目 （科目担当者の許可が必要です。）下記リンクから科目担当者に連絡してください。 https://www.pha.keio.ac.jp/inquiry/ 3. 優先される科目 ◆履修者数が多い場合は、薬学部生が優先されます。
	理工学部	1. 不可 プログラミング第2回演習 A/B、情報工学実験第1A/B、情報工学実験第2A/B、パターン情報処理 2. 要許可 履修希望学生の学力や、学習環境をもとに、科目担当者が判断し、履修許可します。 科目の履修にあたり科目担当者の許可が必要となりますので、履修希望者は https://www.students.keio.ac.jp/yg/st/class/registration/ にアクセスのうえ所定の手続きをしてください。
	総合政策学部・環境情報学部	◆卒業プロジェクト1 ◆卒業プロジェクト2 ◆心身ウエルネス ◆体育1 ◆体育2 ◆体育3 ◆体育4 ◆体育5 ◆SFC 実践英語入門 ◆外国語ペーシング ◆外国語インテンシブ ◆外国語海外研修 ◆フィールド研究1/2 *外国語ペーシング・インテンシブ・海外研修に限り、看護医療学部、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科生の履修を認めます。 *マレー・インドネシア語、アラビア語、朝鮮語、及び、スペイン語の海外研修については科目担当者の判断により履修を許可する場合があります。
湘南藤沢（信濃町看護含む）	看護医療学部	1. 不可 ・実習科目 ・以下の講義・演習科目 「生活援助技術」「医療支援技術」「ヘルスアセスメント」「看護過程」「母性発達援助論」「在宅看護技術演習」「成人看護技術演習」「急性期病態学総論」「急性期病態学各論」「急性期看護学演習」「慢性期病態学各論」「慢性期看護学演習」「小児看護学演習」「精神看護学演習」「終末期病態学」「終末期看護学演習」「社会福祉原論」「助産理論」「助産ケアⅠ」「助産ケアⅡ」「助産診断・技術学Ⅰ」「助産診断・技術学Ⅱ」「助産管理」「世界の医療・保険制度Ⅱ（海外研修）」 2. 条件付不可 その他の科目は、科目担当者が許可しない場合は履修不可 3. 優先される科目なし
	信濃町	医学部
芝共立	薬学部	1. 不可 ◆必修科目 ※ただし、「研究倫理」のみ薬学研究科生の履修を認める。 2. 条件付不可 ◆「1. 不可」以外の講義・演習科目 科目担当者の許可が必要です。下記リンクから科目担当者に連絡してください。 https://www.pha.keio.ac.jp/inquiry/ 3. 優先される科目 ◆履修者数が多い場合は、薬学部生が優先されます。 *他の地区と学事日程が異なるため、授業日・定期試験日程等、各自、塾生サイトをよく確認してください。 *各学期前半科目の成績は学期末に公開されます。

他学部・他研究科生による履修登録取消が認められない科目（学部）

【注意事項（全学部・全研究科）】

※最新情報を必ず以下の URL で確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>

1. 下記の科目以外にも、個々の授業によって履修登録取消の制限をする場合があります。必ず講義要綱・シラバスを熟読してください。
2. 新規に履修登録取消が制限される場合がありますので、最新情報を K-Support、塾生サイト等で必ず確認してください。
3. 履修する分野や所属学年による制限もありますので、注意してください。

地区	学部	履修取消不可科目	地区	学部	履修取消不可科目	地区	学部	履修取消不可科目	
三田	文学部	博物館学実習	日吉	文学部	すべて取消可	矢上	理工学部	・機械工学ものづくりプロジェクト	
	経済学部	すべて取消可		経済学部	すべて取消可		湘南藤沢(信濃町看護含む)	総合政策学部・環境情報学部	言語コミュニケーション科目の海外研修科目、特別研究プロジェクト A/B、日本語インテンシブ1（春季休校期間集中開講）、その他休校期間中に実施する科目
	法学部	すべて取消可		法学部	すべて取消可			看護医療学部	性と生殖における健康と権利
	商学部	研究演習 D/S ※取消には所定の手続きが必要（Web 上での取消は不可）		商学部	すべて取消可			信濃町	医学部
			医学部	すべて取消可	芝共立	薬学部	すべて取消不可		
			理工学部	理工学基礎実験 グローバルリーダーシップセミナー					
			薬学部	科目担当者の判断により履修を許可されたすべての科目					

諸研究所・センター設置科目の履修登録取消が認められない科目

履修登録取消を制限する科目は以下のとおりです。

※最新情報を必ず以下の URL で確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>

研究所・センター	取消制限科目
外国語教育研究センター	すべて取消可
福澤研究センター	すべて取消可
斯道文庫	すべて取消可
アートセンター	すべて取消可
メディア・コミュニケーション研究所	すべて取消可
言語文化研究所	すべて取消可
グローバルリサーチインスティテュート	すべて取消可
教職課程センター	詳細は履修案内を参照してください。 教職課程センターの一部科目は取消許可が必要となります。
教養研究センター	すべて取消可
国際センター	すべて取消可
学生総合センター	すべて取消可
体育研究所	すべて取消可
全学共通	すべて取消可

全学共通科目

2025年度より、全学部共通の授業科目として「データサイエンスと人工知能」を開講しています。

本科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）・リテラシーレベル」におけるモデルカリキュラムに準じ、データサイエンスと人工知能（AI）の概要を、応用事例を中心に幅広く扱います。

設置科目等に関する詳細は、**K-Support** 上のお知らせや、シラバスを確認してください。

履修や単位の扱いは、p. 54 を参照してください。

學習指導要項
法学部法律学科

1 法律学科のカリキュラムの特質

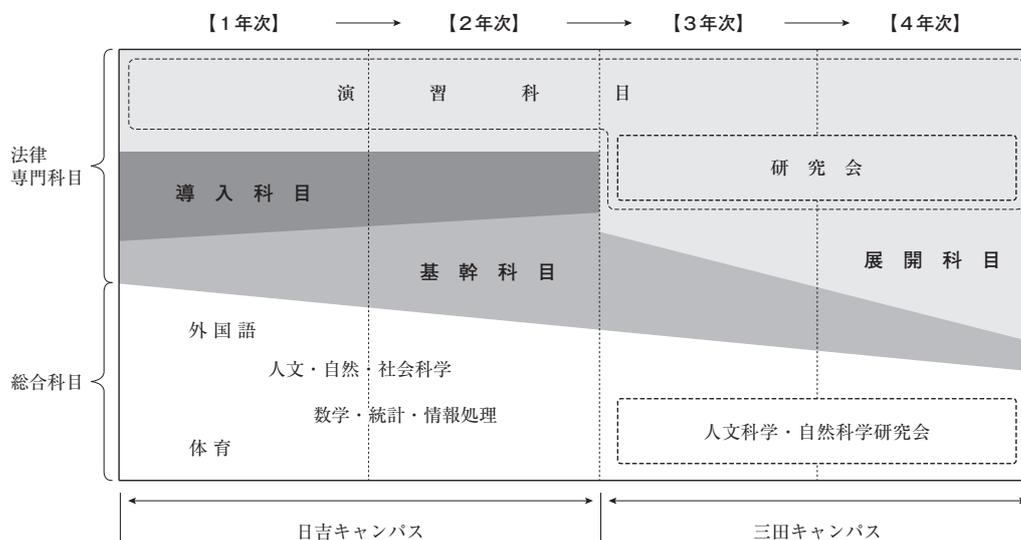
- (1) 法律学の専門科目が、入学後すぐの1年次から学習できるようになっています。初期導入科目から始まり、より専門性の高い科目へと段階をふんで学習をすすめられるしくみがとられています。
- (2) 法律学に対する社会のさまざまなニーズ、あるいは卒業後の多様な進路に対応することができるよう、多彩な法律専門科目が開設されています。
- (3) 法曹をめざす人のための履修プログラムとして、法曹コースが設置されており、3年で学部を早期卒業した後、法科大学院（2年コース）へ進学する道も開かれています。
- (4) 人文科学・自然科学・外国語など幅広い学問領域を学ぶことができるようになっており、法律に関する高度の専門性をもつ「スペシャリスト」であることに加えて、幅広い知識をもつ教養人である「ジェネラリスト」としての素養も兼ね備えた人材の育成がめざされています。法律学以外の科目を第2の専門科目として学んだことを証する副専攻認定制度もあります。
- (5) 外国語学習の強化、多様化が図られています。インテンシブコースでは、少人数クラスで高度な外国語能力の養成をめざします。
- (6) 各科目とも原則として半期制がとられているため、通年ではなく半期の区切りで学習成果を積み上げていくことができ、また留学もしやすくなっています。

2 法律学科のカリキュラムの基本構造

法律学科のカリキュラムは、専門科目である「法律学科目」と、総合科目である「外国語科目」「人文科学科目」「自然科学科目」「社会科学科目」等に分かれます。

専門科目は、「導入科目」からはじまり、法律学の根幹をなす法を扱う「基幹科目」へと続いて、法律学の基礎・基本を固め、それをふまえた上で、各種の演習科目や、応用的な法分野、基礎法学の科目が含まれる「展開科目」を、自分の興味関心や卒業後の進路にあわせて選択し、履修することになります。3・4年次では「研究会」（いわゆるゼミナール）も行われます。必修科目を最低限におさえ、履修の自由度を高める方針がとられていますから、履修科目の選択を工夫することによって、自分なりの法律学の学習プランを構想し、実現させていってください。

総合科目は、1・2年次に多く開講されていますが、4年次まで継続的に履修することもできるようになっています。大学生活4年間を通じて外国語を学ぶことにより、極めて高度な語学能力を修得することも可能となるはずですが。3・4年次には、人文科学や自然科学の科目を演習形式で学習・研究することもでき、法律以外の学問分野を第2の専門として究めた人は副専攻の認定を受けることもできます。



3 法律専門科目の履修ガイド

(1) 「導入科目」「基幹科目」「展開科目」について

法律学科の専門科目は、3つのカテゴリーに分類されています。それぞれの概要と、1・2年次における履修の指針は、以下のとおりです。

①導入科目

入学してすぐの1年次から2年次にかけて配当されている、法律学の入門的な科目、および、もっとも基本となる法分野を扱う科目です。1年次には、国の最高法規である「憲法」、そして憲法とともに、あらゆる法律の礎となる基本法律の「民法」「刑法」について、それぞれの総論の部分扱う合計6科目12単位は、法律学を修めたというためには不可欠のものとして、必修科目とされています。このほか、歴史的アプローチや東西の法文化との連関から法学を考究する「法制史概論」「法文化論」、グローバル化に対応した法の動向を探る「国際化と法」といった科目が、選択必修科目として設置されています。

なお、「法学（憲法を含む）」は、法律専門科目ではなく社会科学科目群に位置するものですが、法を学ぶ上で不可欠な基礎的知見や技量、理念の習得をめざすものであり、必修科目となっています。

②基幹科目

さまざまな法律のなかでも基幹となるものを扱う科目です。1・2年次では、導入科目に引き続いて「憲法」「民法」「刑法」「会社法」に関するものが12科目24単位分、設置されています。これらは、卒業要件としての必修科目とはされていないものの、法律学の根幹をなすもっとも基本かつ重要な科目です。導入科目における必修の科目に相当するものとして受け止め、確実に履修をするようにしてください。法律学科の学生全員が受講することを前提としているため、クラス指定があります。

③展開科目

応用的・先端的な法律を扱う科目や、実定法を支える基礎法学の科目、あるいは発展的な学習をするための科目です。展開科目は、主として3・4年次に配当されていますが、1・2年次に履修ができるものとしては、次項に述べる演習科目があります。

(2) 演習科目について

演習科目（上で述べたように展開科目のなかに位置づけられています）のうち、1・2年次に開講されているものとしては、「法学演習」「Legal Writing and Presentation」や、法曹コース（後述）のための「法務演習」があります。受講生が報告をしたり、教員との間、あるいは受講生どうしで繰り返し行われる討論など、より積極的・能動的な学習を通じて、法律学の知識を定着させ、運用するための力が磨かれます。法律学習に臨む基本姿勢を学ぶため、あるいは3・4年次の研究会（ゼミナール）に連なる主体的学習の場として、ぜひ履修をしてもらいたいものです（ただし、少人数の授業とするため、全員の受講希望が叶えられない場合があります）。

(3) 半期制と科目名の「Ⅰ」「Ⅱ」について

法律学科では、春学期と秋学期それぞれで履修が完了し単位認定がされるよう、原則として半期制がとられています。その関係上、春と秋それぞれの学期ごとに「Ⅰ」と「Ⅱ」に分けられ独立の科目として設定されていますが、両科目は、相互に密接に関係し、かつ連続した内容になっており、どちらも履修をしてはじめて意味を持つのが通例です。

1・2年次に履修する専門科目のほとんどは、必修あるいは必修に準じた基幹科目であるため、自ずと「Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することになるでしょうが、履修の選択の自由度が増す3年次以降の展開科目においても、「Ⅰ」「Ⅱ」の別があるときには、極力2つとも履修するように心がけて下さい。

なお、1・2年次に開講されている「法学演習Ⅰ」と「法学演習Ⅱ」は、セット履修（必ずⅠとⅡの両方とも履修すべきもの）とされています。

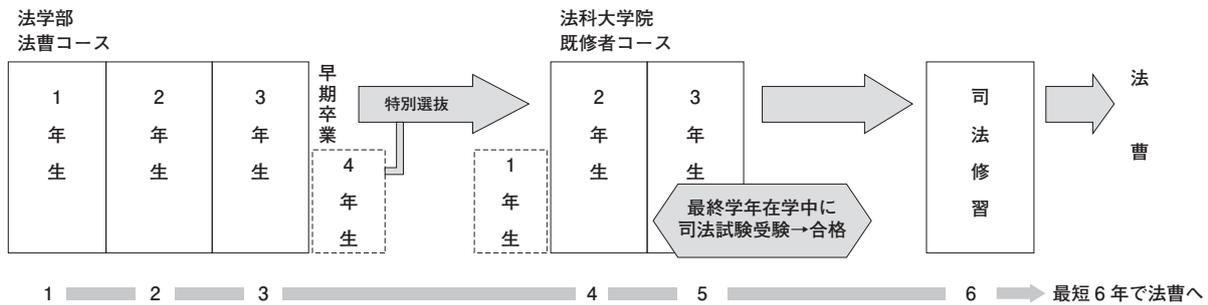
(4) 当該年度に開講される科目について

法律学科の授業科目は、予め学則で定められているもの（学則記載科目）のほか、法律学科のうち展開科目については、教授会の承認により当該年度において新たに設置・開講されているもの（教授会設置科目）もあります。学則記載科目または教授会設置科目のいずれであっても、履修手続・単位取得さらには卒業・進級における取扱いは同じです。

なお、学則記載科目や教授会設置科目のなかには、当該年度については開講がされないものもあります。当該年度に開講されていない科目について具体的に知りたいときは、「開講科目一覧」のページを参照して下さい。

4 法曹コースについて

法曹コースとは、法学部と連携協定を結ぶ法科大学院との間で一貫的な教育プログラムを編成し、法曹を志す学生に効果的な教育をするものです。法曹コースを修了して学部を3年で早期卒業し、その後法科大学院の既修者コース（2年）に進学することで、大学入学から司法修習までの期間を最短で5年に短縮することができます。



(1) 本学における法曹コース

法律学科の学生は、以下の表に掲げる指定科目について漏れなく単位取得することにより、法曹コース修了が認められます。指定科目を履修する際に特別な申込みや手続きは必要ありません。ただし、早期卒業するためには次項(2)の条件をすべて満たすことが必要です。

【指定科目と推奨科目】以下の表に従って、それぞれの学年次に必要な科目を履修してください。

①指定科目 (太字) …法曹コースの修了要件となる必須科目

②推奨科目 (斜体字) …法曹コースの修了要件ではないが、法科大学院への進学までに修得することが望まれる科目

	春学期	秋学期
1 年次	法学 I (憲法を含む) 、 憲法(総論・人権) I 、 民法(総論) I 、 民法(債権各論) I 、 刑法(総論) I	法学 II (憲法を含む) 、 憲法(総論・人権) II 、 民法(総論) II 、 民法(債権各論) II 、 刑法(総論) II <i>法務演習 I (憲法・民法・刑法)</i>
2 年次	憲法(統治) I 、 民法(物権法) I 、 民法(債権総論) I 、 刑法(各論) I 、 会社法 I <i>法務演習 II (憲法 I)</i> 、 <i>法務演習 II (民法 I)</i> 、 <i>法務演習 II (刑法 I)</i>	憲法(統治) II 、 民法(物権法) II 、 民法(債権総論) II 、 刑法(各論) II 、 会社法 II <i>法務演習 II (憲法 II)</i> 、 <i>法務演習 II (民法 II)</i> 、 <i>法務演習 II (刑法 II)</i> 、 <i>法務演習 II (会社法)</i>
3 年次	民事訴訟法 I 、 民事訴訟法 II 、 会社法 III 、 会社法 IV 、 刑事訴訟法 I 、 行政法総論 I 、 行政法総論 II 、 民法(家族法) I 、 民法(家族法) II <i>法務演習 III (憲法)</i> 、 <i>法務演習 III (民法)</i> 、 <i>法務演習 III (刑法)</i> 、 <i>法務演習 III (会社法)</i>	民事訴訟法 III 、 刑事訴訟法 II 、 法務演習 III (民事訴訟法) 、 法務演習 III (刑事訴訟法) <i>民事執行・保全法</i> 、 <i>行政救済法 I</i> 、 <i>行政救済法 II</i>

(2) 早期卒業について

指定科目を漏れなく単位取得し、以下の①～⑥の条件を満たした学生は、6 学期（3 年）の在学をもって卒業（早期卒業）することができます（※①④の詳細については、K-Support の News などでお知らせします）。なお、9 月入学者、または留学を経る場合については、三田学生部法学部担当にお問い合わせください。

①第 2 学年次の 2 学期目における所定期間に早期卒業候補者の申請を済ませること

②第 2 学年修了時の GPA が法律学科における同学年全体のうち上位 30% であること

③法科大学院既修者コース特別選抜によって合格し、入学が確定していること

（法科大学院既修者コースに進学しない学生は早期卒業の対象ではありません。）

④第 3 学年次の 2 学期目における所定期間に早期卒業申請書と法科大学院既修者コースの合格証明書を提出すること

⑤第 3 学年修了時において卒業に必要な単位の取得が完了していること

⑥第 3 学年修了時の GPA が法律学科における同学年全体のうち上位 25% であること

(3) 証明書の発行

法科大学院の出願および入学等に際して必要と認められる場合に限り、「修了見込み証明書」や「修了証」等を発行します。ただし、それぞれ状況を確認のうえ、作成・発行いたしますので即日発行ができません。余裕をもって三田学生部法学部担当にお問い合わせください。

(4) 法科大学院における特別選抜について

法科大学院における特別選抜には、「5 年一貫型選抜」と「開放型選抜」の 2 種類があります。志望する法科大学院の特別選抜については、各自ウェブサイト等であらかじめ詳細を確認するようにしてください。

5 総合科目(外国語科目、人文・自然・社会科学科目等)の履修ガイド

(1) 外国語科目の履修——高い語学力をもつ国際派になろう

法律学科における外国語学習のカリキュラムは、段階的・継続的な履修による語学力の強化、複数の語種の履修による言語の多様化が実現可能なものとなっています。国際化社会では、語学力は何をするのにも必要とされます。外資系企業への就職や国際公務員はもとより、法曹や、一般企業への就職、国家・地方公務員、ジャーナリスト、さらには大学院に進学して専門家・研究者をめざす者まで、あらゆる学生に対して、積極的に外国語を学習することを希望します。

法律学科では、外国語の授業を1年次から4年次まで、各人のレベルに合わせながら継続的に履修し、語学力を強化することができます。とくに徹底して外国語を学びたい学生には、インテンシブコースの履修をおすすめします。インテンシブコースは、国際人として情報の発信と受信に外国語を自在に駆使したいという学生のためのものです。法律学を専門としながら、しかも外国語学部出身者にもひけをとらない外国語能力をもつ学生の養成がめざされています。

また、大学で学ぶ外国語は2言語が一般的ですが、法律学科では、必修となっている2言語のほかに、入学と同時に3言語以上の履修もできるようになっています。必修8言語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語、アラビア語)のほかに、ラテン語、ギリシャ語、ポルトガル語といった多様な外国語科目が用意されています。なお、研究会で自身が選んだテーマの関係等により、新たにドイツ語を修得する必要が生じた場合にも対応できるよう、3年次にもドイツ語を初習から学べるクラスが設置されています。

(2) 人文・自然・社会の総合的科目履修——幅広い知見と視点を獲得しよう

法律学科では、人文科学、自然科学、社会科学、外国語など、さまざまな学問領域の科目が用意されています。なかには、従来の人文・自然・社会という分野の壁を取り払った、総合的、学際的な内容の授業もあります。そうした多彩な科目を用意し、その履修を求めているのは、法律学の専門的知識に加えて、それ以外の知見も幅広く備えることにより、総合的な知識人として、複眼的な視点でバランスよく物事をとらえ、判断することのできる人材を育成したいと考えているからです。さまざまな科目のなかから、自分の興味関心にあわせて履修するものを選択し、場合によっては特定の領域を集中的に学習する方法をとるなど、それぞれに個性的なカリキュラムを設計することが可能です。

(3) 副専攻認定制度の活用——第2の専門をもつ個性派をめざそう

人文科学、自然科学などの科目も、法律学とは別に、第2の専門分野のようにして学習することができます。自分の関心に従って広く浅くランダムに科目を履修していくのでももちろんよいのですが、テーマを絞って計画的に学び、もう一つの専門といえるほど質量ともに充実した知識、研究を積み重ねることも非常に有益です。3・4年次には「人文科学研究会」「自然科学研究会」が設置されており、1・2年次で集中的に学習してきた人文科学や自然科学の領域を継続して学習し、知見を深められるようになっています。

人文科学の場合は4年間、自然科学の場合は3年間、体系的に学習してきた領域について一定の成果を収めた学生には、「副専攻」が認定され、卒業時に「法学部副専攻認定証」が授与されます。副専攻認定制度では、既存の学問分野にとらわれない「知」のフィールドを新たに開拓することも奨励されており、例えば人文科学と自然科学の2つの研究会を履修して、人文・自然の両分野にまたがる論文を書くことも可能です。本冊子の「法学部『副専攻認定制度』について」のページに制度の概要や認定の要件(単位取得、卒業研究)が詳しく説明されているほか、塾生サイト内の「副専攻認定制度」には、当該年度に開講されている人文科学研究会・自然科学研究会の一覧等が掲げられていますので、参照してください。

(4) 数学・統計・情報処理の履修——情報化社会をリードする技量を磨こう

数学・統計・情報処理科目は、微積分や確率統計を学んでいない学生を前提としてスタートし、情報科学の専門家にも劣らぬほどの高度な統計・情報処理能力の養成をめざしています。受験科目とされていないこともあって、法律学科の学生のなかには数学を苦手としている人も多いでしょうが、法律学を含む社会科学においても、数学的素養や、統計調査の技量、情報処理の能力はときに必要となりますし、今日の情報化社会ではとりわけそうした力量に対する需要は大きくなっています。1年次から4年次まで随時履修できるようになっているので、ぜひ挑戦してみてください。

1 進級条件について

進級するには、下記2項目を満たすことが条件となります。

①当該学年で2学期(1年)以上在籍していること

※ただし、復活制度適用者は、この限りではありません(本書『復活制度について』参照)。

②当該学年で30単位以上(自由科目を除く)を取得していること

*休学期間は在学期間に含まれません。

*自由科目として履修申告した科目は、進級単位・卒業単位には含まれません。

*必修科目は、配当された学年で履修しなければなりません。その取得は進級の必要条件ではありません。つまり、**必修科目に不合格の科目があっても、その学年での取得単位数の合計が30単位を超えている場合は、進級できます**(不合格であった必修科目は翌年度以降に再履修)。

*卒業までに必要な科目のうち、日吉に設置されているものは、第2学年を終了するまでにできるだけ履修しておくようにしてください。第3学年からは三田キャンパスに通学することになりますが、日吉に設置されている科目で取り残した科目があると、三田・日吉の両キャンパスに通わなければならなくなり、研究会などの履修に際し不利益を被る場合があります。

*第4学年へ進級するにあたって、必修外国語で、初級課程(4単位)を取得していない語種が1語種でもある場合(英語を除く)には、第4学年に進級することができませんので注意してください。

*進級条件に達しない場合は原級となります。学部学則(別冊)と本書を熟読し、進級条件を正しく理解してください。

2 卒業条件について

卒業するには、下記4項目を満たすことが条件となります。

①8学期(4年)以上在籍していること。なお、復活制度が適用された場合を除き、各学年に2学期以上在籍していること。

②設定された全ての必修科目および選択必修科目の単位を取得していること

③各授業科目カテゴリーに設定された必要単位を取得していること

④136単位以上(*自由科目を除く)取得していること

※自由科目として履修申告した科目は、卒業単位には含まれません。

*早期卒業制度について

2019年度以降入学者:前述の「第1 カリキュラムの履修ガイド」の「4 法曹コースについて」を参照してください。法曹コースを修了する以外に早期卒業ができる制度はありません。

2018年度以前入学者:卒業に必要な単位を優秀な成績で修得し、かつ法科大学院への進学が確定している場合、学生が自ら希望するときは、6学期(3年)の在学をもって卒業することが可能です。早期卒業を希望する者は、第2学年を修了する際に申請が必要となりますので、早めに日吉学生部法学部担当に申し出てください。

3 履修上限について

1学年で履修できる単位数の上限は**48単位**です。春学期履修申告時には、秋学期の履修計画も立てたうえで申告するように注意してください。春学期に不合格となった科目の単位も含めて、履修上限は48単位となります。

*これ以上履修したい場合は、自由科目として申告することになります。自由科目による履修には上限がありません。

*教職課程登録者はその関連科目を自由科目として上限なしで履修できます。

*自由科目は進級・卒業の単位には含まれません。

*第1・2学年(日吉)において外国語科目の日吉設置インテンシブコースを履修する者は4単位まで、選択外国語科目として、履修上限の48単位に上乗せすることができます。

※インテンシブ科目を自由科目として履修した場合は履修上限の上乗せはありません。また、三田設置インテンシブコースは履修上限の48単位に上乗せすることはできません。

***再履修科目がある場合でも履修できる単位数の上限は48単位です**。前年度不合格だった科目を今年度に再度履修する場合も、その科目を含めて履修上限は48単位となります。

4 外国語科目について

(1) 必修外国語

【2024年度以降入学者】

英語(全員必修)と、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・朝鮮語・アラビア語のうちクラス発表時に指定された1語種、あわせて2語種の外国語を必修科目として履修します。なお、クラス発表時に指定された語種の変更はできませんので、指定された語種の単位を必ず取得してください。

【2023年度以前入学者】

英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・朝鮮語・アラビア語の8つの必修外国語から2語種を履修します。なお、クラス発表時に指定された語種の変更はできませんので、指定された2語種を必ず取得してください。

- (2) 卒業までに必要な単位数
卒業までに必要な外国語科目の単位数は2語種で16単位です。
(第1学年：4+4単位 第2学年：4+4単位)
- (3) インテンシブコース
 - ・法学部の全ての必修外国語にはインテンシブコースが設置されています。インテンシブコースでは、1・2年次に当該外国語の授業を週4コマ受講するほか、3・4年次にも継続して学ぶことができます。詳しくはp.78「インテンシブコース修了証・外国語成績優秀者表彰について」、『法学部外国語科目履修案内』およびHP「法学部で外国語を学ぶ」(<http://hc.law.keio.ac.jp/>)を参照してください。
- (4) その他
 - ・外国語科目は、必修科目として定められた16単位を超えて履修することや、ラテン語、ギリシャ語、ポルトガル語も含めて第3、第4の外国語を履修することもできます。また、これらの場合、履修した外国語科目は選択外国語の単位として、進級・卒業の単位に含めることができます。履修方法については別途手続が必要になりますので、「法学部外国語科目履修案内」の「必修で定められた単位数以上に外国語科目を履修する場合」の項目を参照してください。
 - ・外国語教育研究センター特設科目の履修については「法学部外国語科目履修案内」を参照してください。

5 人文科学科目について

- (1) 卒業までに必要な単位数
卒業までに必要な人文科学科目の単位数は8単位です。
- (2) 履修上の注意
人文科学科目の「地域文化論Ⅰ」「地域文化論Ⅱ」などは、複数の担当者が講義を持っています。通常同一名称の科目は一度しか履修することができませんが、人文科学科目は担当者が異なれば、同一名称の科目でも2つ以上履修することができます。詳しくは、後述する「同一科目名の履修について」を参照してください。

6 自然科学科目について

- (1) 卒業までに必要な単位数
卒業までに必要な自然科学科目の単位数は8単位です。
- (2) 履修上の注意
自然科学科目は、人文科学科目と異なり、同一名称の科目(例えば「心理学Ⅰ」)を2つ以上履修することはできません。自然科学科目には2時限続きで授業が行われる実験科目があります。履修にあたっては、特別な手続きが必要となりますので、本書「自然科学科目(実験を含む)の履修」を参照してください。

7 社会科学科目について

社会科学科目は、必修科目である「法学Ⅰ(憲法を含む)」「法学Ⅱ(憲法を含む)」の2科目(4単位)のほかに、「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」「地理学Ⅰ」「地理学Ⅱ」「政治学Ⅰ」「政治学Ⅱ」「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」「近代思想史Ⅰ」「近代思想史Ⅱ」の中から4単位以上の、合計8単位以上を取得する必要があります。

8 法律学科目について

法律学科目は、卒業までに最低88単位以上の取得が必要となります。

- (1) 必修科目
1年次に設置されている「憲法(総論・人権)Ⅰ」「憲法(総論・人権)Ⅱ」「民法(総論)Ⅰ」「民法(総論)Ⅱ」「刑法(総論)Ⅰ」「刑法(総論)Ⅱ」の6科目12単位を取得しなければなりません。再履修する場合は、前年度不合格となった学期のみを履修申告してください。(例えば前年度「民法(総論)Ⅰ」が不合格となった場合は、「民法(総論)Ⅰ」のみを再履修してください)
- (2) 法律学科目は「導入科目」「基幹科目」「展開科目」の3つに分類することができます。
「導入科目」は、1年次の必修6科目12単位を含め、14単位以上取得しなければなりません。
「基幹科目」は、1年から4年までのあいだに、30単位以上取得しなければなりません。
「展開科目」は、研究会または演習科目8単位以上を含め、44単位以上を取得しなければなりません。ただし、三田キャンパスに設置されている他学科・他学部等の専門的授業科目を「展開科目」として履修する場合、卒業までに22単位を履修上限とします。
※他学科・他学部等の専門的授業科目を「展開科目」として履修できるのは3年生・4年生のみです。
- (3) 法学演習は、履修可能な学年が指定されている場合がありますので、シラバス・時間割で必ず確認してください。なお、次の科目は土曜日に三田キャンパスで開講します。
[土曜日3・4時限] ※ただし授業開始は13:30です。
法学演習Ⅰ・Ⅱ(民法)、法学演習Ⅰ・Ⅱ(民事法)

9 情報処理科目について

情報処理科目は自主選択科目として認定されます(自然科学科目の単位にはなりません)。

10 自主選択科目と自由科目について

(1) 自主選択科目

他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、**進級・卒業の単位に含めることができます**。取得した単位は次項目「卒業までに必要な最低単位数を超過した単位について」で説明される分野に配当されます。

(2) 自由科目

単位を取得しても**進級・卒業の単位に含めることはできません**。

11 卒業までに必要な最低単位数を超過した単位について

各授業科目カテゴリで定められた単位数を取得していくと合計 128 単位となり、卒業までに必要な 136 単位まで、残り **8 単位** となります(後述の「卒業までの履修チャート」参照)。この部分は**各カテゴリの最低単位数を超過した単位や情報処理科目、体育科目、自主選択科目などの単位で**充当してください。例えば人文科学科目を 12 単位取得すると、卒業までに必要な最低単位数は 8 単位なので、余った 4 単位は自動的にこの部分の扱いとなります。外国語科目を選択外国語として取得した場合も、その単位は自動的にこの部分の扱いとなります。

12 同一科目名の履修について

時間割には、同じ名称の科目があります。原則として、**同一名称の科目は、一度しか履修することができません**。ただし、次の場合は、同一名称の科目であっても履修することができます。

(1) 担当者が異なれば、履修が可能な科目(同じ年度でも履修可能)

人文科学科目カテゴリの科目全て(文学・歴史等)、「Legal Writing and Presentation I・II」

(2) 年度が異なれば同じ担当者でも履修可能な科目

「人文科学特論 I・II」、「人文科学研究会(3・4年設置)」、「自然科学研究会Ⅲ・Ⅳ(3・4年設置)」

(3) 条件なく履修が可能な科目

体育実技科目、「法学演習」、「法学演習 I・II」

※「法務演習 I・II」はこれに該当しません。

(4) 自由科目の分野で履修する場合は、条件なく同一科目名の科目を複数履修することが可能です。(※自由科目は進級単位・卒業単位には含まれません。)

13 クラス指定科目について

(1) 時間割でクラスが「指定」されている科目は、指定どおりのクラスを履修しなければなりません。もしも指定されたクラス同士が重複した場合は、3月下旬～4月上旬の所定の履修クラス相談期間(詳細は K-Support の News でお知らせします)に学習指導担当教員の許可を得る必要があります。

(2) 専門科目の再履修科目は、指定されたクラス以外を履修しても構いません(初めての履修の場合でも下級学年設置科目であれば同様に可)。外国語科目の場合、再履修や下級学年設置であっても指定されたクラスを履修する必要があります。

14 上級学年設置科目について

各学年に配当された授業科目は、その学年以降に履修することができます。下級学年に配当された授業科目を、上級学年において履修することは妨げません。しかし**上級学年に配当されている授業科目を履修することはできません**。

15 政治学科・他学部・研究所設置科目について(54、55 ページ参照)

(1) 政治学科の科目

政治学科の必修科目については自由科目、必修科目以外の社会科学科目と政治学科目については自主選択科目の取り扱いとなります。

(2) 他学部設置科目

1・2年次で履修する他学部の授業科目は自主選択科目の取り扱いとなります。他学部の専門的授業科目を展開科目に含められるのは3・4年次のみです。

*他学部設置科目の中には春学期と秋学期の両方を履修することを義務付けている科目があります。それらの科目名の末尾には a と b の記号がついています(例)自由研究セミナー a、自由研究セミナー b)。この場合、成績評価は春の分(a)と秋の分(b)が一括して秋学期末に行われるため、春学期の時点では成績評価を知ることができません。

(3) 研究所設置科目

履修可能な研究所設置科目は時間割の後半部分にある「研究所等設置科目時間割」を確認してください。また、B欄申告が必要な科目がありますので、本書「所属学科時間割にない科目の履修」も参照してください。

16 他地区設置授業を履修する場合の注意事項

地区間を移動するにあたり、移動不可能な履修申告はできません。

例①：3限に日吉キャンパスの授業を履修し、4限に三田キャンパスの授業を履修する。

例②：2限に日吉キャンパスの授業を履修し、3限に湘南藤沢キャンパスの授業を履修する。

なお、日吉・三田キャンパスの移動に関しては、昼休みをはさむ2・3時限の履修は可能としますが、授業に遅れてしまう場合も有り得ますので、十分に注意してください。

17 「遠隔(オンライン)授業」の履修について

K-LMS等に掲載されている、「オンライン授業受講ガイドライン」を確認してください。

異なる地区において連続した時限に開講される授業であっても、一方または両方が遠隔(オンライン)授業(例：1時限目に日吉の対面授業、2時限目に三田の遠隔授業)の場合、履修することは可能とします。

ただし、遠隔(オンライン)授業であっても一部対面授業を実施する、授業内試験を対面で実施する等、履修上の不都合が発生する場合があります。異なる地区において連続した時限で開講される授業で、一方または両方が遠隔(オンライン)授業である場合には、シラバスで授業実施形態の詳細を確認すると同時に、科目担当者への確認等を行い、不都合がないことを確認したうえで、自身の責任のもと履修するようにしてください。

18 「遠隔(オンライン)授業」の単位数上限について

遠隔(オンライン)授業(※1)で修得した単位のうち、卒業要件単位数に含めることのできる上限は60単位(※2)です。

履修科目を決める際は、必ず授業実施形態を確認したうえで学修計画をたててください。それぞれの授業の授業実施形態は、シラバスおよびK-Numberにて確認できます。

なお、履修申告時には、遠隔(オンライン)授業の修得済単位と履修科目の単位数の合計が60単位を超える履修申告はできません。遠隔(オンライン)授業の履修単位数が修得済単位数と合計して60単位を超過する場合には、自由科目として履修申告してください。

※1 「遠隔(オンライン)授業」とは、全体の講義回数のうち、対面以外で実施される講義回数が、半数を超える授業です。

※2 2021年度以前に遠隔(オンライン)授業で修得した単位は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による特例措置として上限の対象外です。

19 授業科目ナンバリング(K-Number)について

2022年度より、全授業科目に対して、レベルや学問分野、授業形態等を示す番号を付番する授業科目ナンバリング制度(K-Number)を導入しています。

K-Numberによって興味関心のある学問分野を検索し、体系的な学修計画に基づいた学びが可能となります。

なお、複数の学部・研究科に併設された授業科目については、各学部・研究科ごとに異なるK-Numberが付与されます。詳細はWeb等を参照してください。

K-Numberの構成 〈法学部法律学科設置科目の見方〉

FLP-LA-1 1 11 1-1 1 1-11

① ② ③④ ⑤ ⑥ ⑦⑧⑨ ⑩

	種類	内容
①	学部・研究科	法学部法律学科設置科目は FLP-LA と表記されます。
②	学科・専攻	※各学部・研究科の表記は Web 等参照
③	レベル (履修学年の目安)	0:学部共通 1:1年次配当レベル(または入門/導入レベル) 2:2年次配当レベル(または基礎レベル) 3:3年次配当レベル(または応用/発展レベル) 4:4年次配当レベル(または専門/実践レベル) 9:その他
④	分野	大分類
⑤		小分類
⑥	科目種別	1:必修科目、2:選択必修科目、3:選択科目、4:自由科目、9:その他
⑦	授業区分(全塾共通)	1:語学、2:講義、3:演習、4:実験・実習・実技、5:論文、6:研究指導、7:講義および実習、9:その他
⑧	授業形態(全塾共通)	1:対面授業(主として対面授業)、2:オンライン授業(主としてリアルタイム形式)、3:オンライン授業(主としてオンデマンド形式)、4:オンライン授業(全回オンデマンド形式)
⑨	授業言語(全塾共通)	1:日本語、2:英語、3:その他
⑩	学問分野	※Web等参照

2024 年度以降入学者用

科目群	卒業要件 (4年次までに取得すべき単位)	日吉キャンパス				三田キャンパス			
		1年		2年		3年	4年		
		春学期	秋学期	春学期	秋学期				
外国語科目	16単位(必修) 英語と、もう1つの 語種の2語種を履修	●外国語1(英語)(2) ●外国語2(2)	●外国語1(英語)(2) ●外国語2(2)	●外国語1(英語)(2) ●外国語2(2)	●外国語1(英語)(2) ●外国語2(2)				
		選択 外国語/選択 インテンシブ外国語							
人文科学科目	8単位以上	音楽I(2)、音楽II(2)、科学史I(2)、科学史II(2)、科学史III(2)、科学史IV(2)、漢文I(2)、漢文II(2)、芸術文化論I(2)、芸術文化論II(2)、言語学I(2)、言語学II(2)、言語学III(2)、言語学IV(2)、言語認識論(2)、国語国文I(2)、国語国文II(2)、社会における性I(2)、社会における性II(2)、宗教学I(2)、宗教学II(2)、人文科学特論I(2)、人文科学特論II(2)、人文総合講座I(2)、人文総合講座II(2)、地域文化論I(2)、地域文化論II(2)、地域文化論III(2)、地域文化論IV(2)、哲学I(2)、哲学II(2)、美術I(2)、美術II(2)、人であることI(2)、人であることII(2)、文学I(2)、文学II(2)、倫理学I(2)、倫理学II(2)、歴史I(2)、歴史II(2)、論理学I(2)、論理学II(2)							
自然科学科目	8単位以上	化学I(実験を含む)(3)、化学II(実験を含む)(3)、生物学I(実験を含む)(3)、生物学II(実験を含む)(3)、物理学I(実験を含む)(3)、物理学II(実験を含む)(3)、基礎数学I(2)、基礎数学II(2)、基礎統計学I(2)、基礎統計学II(2)、自然科学研究会I(2)、自然科学研究会II(2)、自然科学総合講座I(2)、自然科学総合講座II(2)、自然科学特論I(2)、自然科学特論II(2)、自然地理学I(2)、自然地理学II(2)、心理学I(2)、心理学II(2)、心理学III(2)、心理学IV(2)							
数学・統計・情報処理科目	数学系列と統計系列は、自然科学科目として算入可	【数学系列】→数学I(2)、数学II(2)、数学III(2)、数学IV(2) 【統計系列】→統計学I(2)、統計学II(2)、統計学III(2)、統計学IV(2) 【情報処理系列】→情報処理I(2)、情報処理II(2)、情報処理III(2)、情報処理IV(2)							
体育科目		体育学講義I(2)、体育学講義II(2)、体育学演習(1)、体育実技A(1)、体育実技B(1)							
社会科学科目	8単位以上 (必修4単位を含めて)	●法学I(憲法を含む)(2) ●法学II(憲法を含む)(2) ○社会学I(2)、○社会学II(2)、○地理学I(2)、○地理学II(2)、 ○経済学I(2)、○経済学II(2)、○政治学I(2)、○政治学II(2)、 ○近代思想史I(2)、○近代思想史II(2)							
法律学科目	導入科目	14単位以上 (必修12単位を含めて)	●憲法(総論・人権)I(2) ●民法(総論)I(2) ●刑法(総論)I(2) ○法制史概論(2)	●憲法(総論・人権)II(2) ●民法(総論)II(2) ●刑法(総論)II(2) ○法文化論(2)	○国際化と法(2)				
	基幹科目	30単位以上	民法(債権各論)I(2)	民法(債権各論)II(2)	憲法(統治)I(2) 民法(物権法)I(2) 民法(債権総論)I(2) 刑法(各論)I(2) 会社法I(2)	憲法(統治)II(2) 民法(物権法)II(2) 民法(債権総論)II(2) 刑法(各論)II(2) 会社法II(2)			
	展開科目 (研究会・演習)	44単位以上 (「研究会・演習」の 8単位以上を含めて) (8単位以上)	法学演習(2)、法学演習I(2)、法学演習II(2) Legal Writing and Presentation I(2) Legal Writing and Presentation II(2) 法務演習I(憲法・民法・刑法)(2) 法務演習II(憲法I)(1) 法務演習II(憲法II)(1) 法務演習II(民法I)(2) 法務演習II(民法II)(2) 法務演習II(刑法I)(1) 法務演習II(刑法II)(1) 法務演習II(会社法)(2)						
	8単位以上	←外国語・人文科学・自然科学・社会科学・法律学の各科目群で設定されている必要単位数を超過した分の単位や、自主選択科目(他学部設置科目など)、情報処理科目、体育科目の単位で充当すべき単位数							
合計	136単位以上								

※3・4年時に履修できる科目は「2026年度開講科目一覧」を参照

※3・4年次に履修できる科目は「2026年度開講科目一覧」を参照

注)この「卒業までの履修チャート」の表には、主として学則に記載された科目が記載されています。これ以外にも教授会の定めによって設置されている専門科目(情報処理科目、法律学科目(展開科目))があり、他方、表に記載されていても当該年度には開講されない科目もあります。今年度に開講される全科目については、本書「2026年度開講科目一覧」を参照してください。

法律学科 卒業までの履修チャート

●は必修科目、○は選択必修科目 ()内は単位数

2023年度以前入学者用

科目群	卒業要件 (4年次までに取得すべき単位)	日吉キャンパス				三田キャンパス	
		1年		2年		3年	4年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		
外国語科目	16単位(必修) 8つの必修外国語から2語種を履修	●外国語1(2) ●外国語2(2)	●外国語1(2) ●外国語2(2)	●外国語1(2) ●外国語2(2)	●外国語1(2) ●外国語2(2)		
人文科学科目	8単位以上	選択 外国語/選択 インテンシブ外国語					
自然科学科目	8単位以上	音楽Ⅰ(2)、音楽Ⅱ(2)、科学史Ⅰ(2)、科学史Ⅱ(2)、科学史Ⅲ(2)、科学史Ⅳ(2)、漢文Ⅰ(2)、漢文Ⅱ(2)、芸術文化論Ⅰ(2)、芸術文化論Ⅱ(2)、言語学Ⅰ(2)、言語学Ⅱ(2)、言語学Ⅲ(2)、言語学Ⅳ(2)、言語認識論(2)、国語国文Ⅰ(2)、国語国文Ⅱ(2)、社会における性Ⅰ(2)、社会における性Ⅱ(2)、宗教学Ⅰ(2)、宗教学Ⅱ(2)、人文科学特論Ⅰ(2)、人文科学特論Ⅱ(2)、人文総合講座Ⅰ(2)、人文総合講座Ⅱ(2)、地域文化論Ⅰ(2)、地域文化論Ⅱ(2)、地域文化論Ⅲ(2)、地域文化論Ⅳ(2)、哲学Ⅰ(2)、哲学Ⅱ(2)、美術Ⅰ(2)、美術Ⅱ(2)、人であることⅠ(2)、人であることⅡ(2)、文学Ⅰ(2)、文学Ⅱ(2)、倫理学Ⅰ(2)、倫理学Ⅱ(2)、歴史Ⅰ(2)、歴史Ⅱ(2)、論理学Ⅰ(2)、論理学Ⅱ(2)					
数学・統計・情報処理科目	数学系列と統計系列は、自然科学科目として算入可	【数学系列】→数学Ⅰ(2)、数学Ⅱ(2)、数学Ⅲ(2)、数学Ⅳ(2) 【統計系列】→統計学Ⅰ(2)、統計学Ⅱ(2)、統計学Ⅲ(2)、統計学Ⅳ(2) 【情報処理系列】→情報処理Ⅰ(2)、情報処理Ⅱ(2)、情報処理Ⅲ(2)、情報処理Ⅳ(2)					
体育科目		体育学講義Ⅰ(2)、体育学講義Ⅱ(2)、体育学演習(1)、体育実技A(1)、体育実技B(1)					
社会科学科目	8単位以上 (必修4単位を含めて)	●法学Ⅰ(憲法を含む)(2) ●法学Ⅱ(憲法を含む)(2) ○社会学Ⅰ(2)、○社会学Ⅱ(2)、○地理学Ⅰ(2)、○地理学Ⅱ(2)、 ○経済学Ⅰ(2)、○経済学Ⅱ(2)、○政治学Ⅰ(2)、○政治学Ⅱ(2)、 ○近代思想史Ⅰ(2)、○近代思想史Ⅱ(2)					
法律学科目	導入科目	14単位以上 (必修12単位を含めて)	●憲法(総論・人権)Ⅰ(2) ●民法(総論)Ⅰ(2) ●刑法(総論)Ⅰ(2)	●憲法(総論・人権)Ⅱ(2) ●民法(総論)Ⅱ(2) ●刑法(総論)Ⅱ(2)		○国際化と法(2)	
	基幹科目	30単位以上	民法(債権各論)Ⅰ(2)	民法(債権各論)Ⅱ(2)	憲法(統治)Ⅰ(2) 民法(物権法)Ⅰ(2) 民法(債権総論)Ⅰ(2) 刑法(各論)Ⅰ(2) 会社法Ⅰ(2)	憲法(統治)Ⅱ(2) 民法(物権法)Ⅱ(2) 民法(債権総論)Ⅱ(2) 刑法(各論)Ⅱ(2) 会社法Ⅱ(2)	
	展開科目	44単位以上 (「研究会・演習」の8単位以上を含めて)					
	(研究会・演習)	(8単位以上)	法学演習(2)、法学演習Ⅰ(2)、法学演習Ⅱ(2) Legal Writing and PresentationⅠ(2) Legal Writing and PresentationⅡ(2) 法務演習Ⅰ(憲法・民法・刑法)(2) 法務演習Ⅱ(憲法Ⅰ)(1) 法務演習Ⅱ(憲法Ⅱ)(1) 法務演習Ⅱ(民法Ⅰ)(2) 法務演習Ⅱ(民法Ⅱ)(2) 法務演習Ⅱ(刑法Ⅰ)(1) 法務演習Ⅱ(刑法Ⅱ)(1) 法務演習Ⅱ(会社法)(2)				
	8単位以上	←外国語・人文科学・自然科学・社会科学・法律学の各科目群で設定されている必要単位数を超過した分の単位や、自主選択科目(他学部設置科目など)、情報処理科目、体育科目の単位で充当すべき単位数					
合計	136単位以上						

※3・4年時に履修できる科目は「2026年度開講科目一覧」を参照

※3・4年次に履修できる科目は「2026年度開講科目一覧」を参照

注)この「卒業までの履修チャート」の表には、主として学則に記載された科目が記載されています。これ以外にも教授会の定めによって設置されている専門科目(情報処理科目、法律学科目(展開科目))があり、他方、表に記載されていても当該年度には開講されない科目もあります。今年度が開講される全科目については、本書「2026年度開講科目一覧」を参照してください。

2026年1月現在の内容です。最新情報はシラバスを確認してください。

下線のついている科目は今年度開講されません。〔 〕内は旧科目名です。科目名の前に*のついている科目は、学則に記載のない教授会の定める専門的授業科目です。()内の数字は単位数です。

種類	分野番号	分野	設置地区	科目区分	
外国語科目	01-10-01	必修 英語	日吉	英語第Ⅰ(1) 英語第Ⅱ(レベル2)(1)	
	01-10-02	必修 ドイツ語(初級)	日吉	ドイツ語第Ⅰ(1) ドイツ語第Ⅱ(1)	
	01-10-03	必修 フランス語(初級)	日吉	フランス語第Ⅰ(1) フランス語第Ⅱ(1)	
	01-10-04	必修 中国語(初級)	日吉	中国語第Ⅰ(1) 中国語第Ⅱ(1)	
	01-10-05	必修 スペイン語(初級)	日吉	スペイン語第Ⅰ(1) スペイン語第Ⅱ(1)	
	01-10-06	必修 ロシア語(初級)	日吉	ロシア語第Ⅰ(1) ロシア語第Ⅱ(1)	
	01-10-10	必修 朝鮮語(初級)	日吉	朝鮮語第Ⅰ(1) 朝鮮語第Ⅱ(1)	
	01-10-13	必修 日本語(初級)	日吉	日本語(1)	
	01-10-15	必修 アラビア語(初級)	日吉	アラビア語第Ⅰ(1) アラビア語第Ⅱ(1)	
	01-10-51	必修 英語	日吉	英語第Ⅲ(1) 英語第Ⅳ(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)	
	01-10-52	必修 ドイツ語(中級)	日吉	ドイツ語第Ⅲ(1) ドイツ語第Ⅳ(1) ドイツ語インテンシブ(1)	
	01-10-53	必修 フランス語(中級)	日吉	フランス語第Ⅲ(1) フランス語第Ⅳ(1) フランス語インテンシブ(1)	
	01-10-54	必修 中国語(中級)	日吉	中国語第Ⅲ(1) 中国語第Ⅳ(1) 中国語インテンシブ(1)	
	01-10-55	必修 スペイン語(中級)	日吉	スペイン語第Ⅲ(1) スペイン語第Ⅳ(1) スペイン語インテンシブ(1)	
	01-10-56	必修 ロシア語(中級)	日吉	ロシア語第Ⅲ(1) ロシア語第Ⅳ(1) ロシア語インテンシブ(1)	
	01-10-60	必修 朝鮮語(中級)	日吉	朝鮮語第Ⅲ(1) 朝鮮語第Ⅳ(1) 朝鮮語インテンシブ(1)	
	01-10-63	必修 日本語(中級)	日吉	日本語(1)	
	01-10-65	必修 アラビア語(中級)	日吉	アラビア語第Ⅲ(1) アラビア語第Ⅳ(1) アラビア語インテンシブ(1)	
	01-20-01	選択 英語	日吉	英語(1)	
			三田	英語第Ⅴ(1)	
		01-20-02	選択 ドイツ語	日吉	ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1)
				三田	ドイツ語第Ⅴ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1) ドイツ語インテンシブ(1)
		01-20-03	選択 フランス語	日吉	フランス語(1) 初級フランス語演習(1)
				三田	フランス語第Ⅴ(1) フランス語インテンシブ(1)
		01-20-04	選択 中国語	日吉	中国語(1)
				三田	中国語インテンシブ(1)
		01-20-05	選択 スペイン語	日吉	スペイン語(1)
				三田	スペイン語第Ⅴ(1) スペイン語インテンシブ(1)
		01-20-06	選択 ロシア語	日吉	ロシア語(1)
				三田	ロシア語第Ⅴ(1) ロシア語インテンシブ(1)
		01-20-10	選択 朝鮮語	日吉	朝鮮語(1)
			三田	朝鮮語第Ⅴ(1) 朝鮮語インテンシブ(1)	
01-20-11		選択 ラテン語	日吉	ラテン語(1)	
01-20-12	選択 ギリシャ語	日吉	ギリシャ語(1)		
01-20-14	選択 ボルトガル語	日吉	ボルトガル語(1)		
		三田	ボルトガル語第Ⅰ(1) ボルトガル語第Ⅱ(1)		
01-20-15	選択 アラビア語	日吉	アラビア語(1)		
		三田	アラビア語第Ⅴ(1)		
01-20-16	選択 イタリア語	日吉	イタリア語(1)		
		三田	イタリア語第Ⅴ(1)		
01-30-01	選択インテンシブ 英語	日吉	英語インテンシブ(1)		
01-30-02	選択インテンシブ ドイツ語	日吉	ドイツ語インテンシブ(1)		
01-30-03	選択インテンシブ フランス語	日吉	フランス語インテンシブ(1)		
01-30-04	選択インテンシブ 中国語	日吉	中国語インテンシブ(1)		
01-30-05	選択インテンシブ スペイン語	日吉	スペイン語インテンシブ(1)		
01-30-06	選択インテンシブ ロシア語	日吉	ロシア語インテンシブ(1)		
01-30-10	選択インテンシブ 朝鮮語	日吉	朝鮮語インテンシブ(1)		
01-30-11	選択インテンシブ アラビア語	日吉	アラビア語インテンシブ(1)		
人文科学科目	02-20-01	選択	日吉	音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 科学史Ⅰ(2) 科学史Ⅱ(2) 科学史Ⅲ(2) 科学史Ⅳ(2) 漢文(4) 漢文Ⅰ(2) 漢文Ⅱ(2) 芸術文化論Ⅰ(2) 芸術文化論Ⅱ(2) 言語学Ⅰ(2) 言語学Ⅱ(2) 言語学Ⅲ(2) 言語学Ⅳ(2) 言語認識論(2) 国語国文(4) 国語国文Ⅰ(2) 国語国文Ⅱ(2) 社会における性Ⅰ(2) 社会における性Ⅱ(2) 宗教学(4) 宗教学Ⅰ(2) 宗教学Ⅱ(2) 人文科学特論Ⅰ(2) 人文科学特論Ⅱ(2) 人文総合講座Ⅰ(2) 人文総合講座Ⅱ(2) 地域文化論Ⅰ(2) 地域文化論Ⅱ(2) 地域文化論Ⅲ(2) 地域文化論Ⅳ(2) 哲学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 美術Ⅰ(2) 美術Ⅱ(2) 人であることⅠ(2) 人であることⅡ(2) 文学(4) 文学Ⅰ(2) 文学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 歴史Ⅰ(2) 歴史Ⅱ(2) 論理学Ⅰ(2) 論理学Ⅱ(2)	
			三田	人文科学研究会Ⅰ(2) 人文科学研究会Ⅱ(2) 人文科学研究会Ⅲ(2) 人文科学研究会Ⅳ(2)	
自然科学科目	03-20-01	選択	日吉	化学Ⅰ(実験を含む)(3) 化学Ⅱ(実験を含む)(3) 生物学Ⅰ(実験を含む)(3) 生物学Ⅱ(実験を含む)(3) 物理学Ⅰ(実験を含む)(3) 物理学Ⅱ(実験を含む)(3) 基礎数学Ⅰ(2) 基礎数学Ⅱ(2) 基礎統計学Ⅰ(2) 基礎統計学Ⅱ(2) 自然科学研究会Ⅰ(2) 自然科学研究会Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2) 自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然地理学Ⅰ(2) 自然地理学Ⅱ(2) 心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2) 心理学Ⅲ(2) 心理学Ⅳ(2)	
			三田	自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学研究会Ⅲ(2) 自然科学研究会Ⅳ(2)	

情報処理科目	04-20-11	選択 数学系列 ※自然科学科目として算入できません	日吉	数学Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2)	
			三田	数学概論Ⅰ(2) 数学概論Ⅱ(2) 数学Ⅴ(2) 数学Ⅵ(2)	
	04-20-12	選択 統計系列 ※自然科学科目として算入できません	日吉	統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2) 統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2)	
			三田	統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2) 統計学Ⅴ(2) 統計学Ⅵ(2)	
04-20-13	選択 情報処理系列	日吉	情報処理Ⅰ(2) 情報処理Ⅱ(2) 情報処理Ⅲ(2) 情報処理Ⅳ(2) *情報処理特論Ⅰ(2) *情報処理特論Ⅱ(2) *情報処理特論Ⅲ(2) *情報処理特論Ⅳ(2) *情報処理特論Ⅴ(2) *情報処理特論Ⅵ(2) *情報処理特論Ⅶ(2)		
		三田	情報処理Ⅴ(2) 情報処理Ⅵ(2) 統計情報処理Ⅰ(2) 統計情報処理Ⅱ(2)		
社会科学科目	05-10-01	必修	日吉	法学Ⅰ(憲法を含む)(2) 法学Ⅱ(憲法を含む)(2)	
	05-11-01	選択必修	日吉	社会学Ⅳ(2) 社会学Ⅰ(2) 社会学Ⅱ(2) 地理学Ⅳ(2) 地理学Ⅰ(2) 地理学Ⅱ(2) 経済学Ⅳ(2) 経済学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2) 政治学Ⅳ(2) 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 近代思想史Ⅳ(2) 近代思想史Ⅰ(2) 近代思想史Ⅱ(2)	
法律学科目	06-10-01	導入科目 必修	日吉	【公法】 憲法(総論・人権)Ⅰ(2) 憲法(総論・人権)Ⅱ(2) 【刑事法】 刑法(総論)Ⅰ(2) 刑法(総論)Ⅱ(2) 【民事法】 民法(総論)Ⅰ(2) 民法(総論)Ⅱ(2)	
	06-10-02	導入科目 選択必修	日吉	【基礎法学等】 法制史概論(2) 法文化論(2) 国際化と法(2)	
	06-20-01	基幹科目	日吉	【公法】 憲法(統治)Ⅰ(2) 憲法(統治)Ⅱ(2) 【刑事法】 刑法(各論)Ⅰ(2) 刑法(各論)Ⅱ(2) 【民事法】 民法(物権法)Ⅰ(2) 民法(物権法)Ⅱ(2) 民法(債権総論)Ⅰ(2) 民法(債権総論)Ⅱ(2) 民法(債権各論)Ⅰ(2) 民法(債権各論)Ⅱ(2) 【商法】 会社法Ⅰ(2) 会社法Ⅱ(2)	
			三田	【公法】 行政法総論Ⅰ(2) 行政法総論Ⅱ(2) 行政救済法Ⅰ(2) 所得税法(2) 国際法Ⅰ(2) 【刑事法】 刑事訴訟法Ⅰ(2) 刑事訴訟法Ⅱ(2) 【民事法】 国際私法Ⅰ(2) 知的財産法Ⅰ(2) 【商法】 会社法Ⅲ(2) 支払決済法Ⅰ(2) 支払決済法Ⅱ(2) 【民事手続法】 民事訴訟法Ⅰ(2) 民事訴訟法Ⅱ(2) 民事訴訟法Ⅲ(2) 【社会法】 労働法Ⅰ(2) 経済法Ⅰ(2)	
	06-30-01	展開科目	三田	【公法(行政法)】 行政救済法Ⅱ(2) 行政組織法Ⅰ(2) 行政組織法Ⅱ(2) 行政作用法各論(2) 【公法(租税法)】 企業税法(2) 資産税法(2) 租税法総論(2) 国際租税法Ⅰ(2) 国際租税法Ⅱ(2) *International Taxation(2) 【公法(国際法)】 国際法Ⅱ(2) 国際武力紛争法(2) 国際海洋法(2) *国際宇宙公法(2) *国際宇宙私法(2) 宇宙政策(2) 宇宙法(宇宙活動と法)(2) 寄附講座「宇宙ビジネスの法政策」(2) 【刑事法】 刑事政策(犯罪者処遇論)(2) 刑事政策(刑事制裁論)(2) 被害者学(2) 国際刑事法(2) 法医学(2) 【民事法】 民法(家族法)Ⅰ(2) 民法(家族法)Ⅱ(2) 消費者法(2) *Japanese Civil Law in a Globalized Economy(2) 国際私法Ⅱ(2) 国際取引法(2) 国際民事手続法(2) 知的財産法Ⅱ(2) 知的財産法Ⅲ(2) 【商法】 会社法Ⅳ(2) 企業法総論(2) 企業取引法(2) 保険法Ⅰ(2) 保険法Ⅱ(2) 金融商品取引法(2) *信託法(2) *運送法(2) *航空法(2) 【民事手続法】 民事執行・保全法(2) 倒産法Ⅰ(2) 倒産法Ⅱ(2) 【社会法】 労働法Ⅱ(2) 社会保障法Ⅰ(2) 社会保障法Ⅱ(2) 経済法Ⅱ(2) 比較競争法(2) 国際経済法(2) 【基礎法学】 日本法制史(2) 東洋法制史(2) 西洋法制史(2) ローマ法(2) 法哲学Ⅰ(2) 法哲学Ⅱ(2) 法思想史(2) 法社会学Ⅰ(2) 法社会学Ⅱ(2) *Legal Culture(2) 【外国法】 英米法Ⅰ(2) 英米法Ⅱ(2) ドイツ法Ⅰ(2) ドイツ法Ⅱ(2) フランス法Ⅰ(2) フランス法Ⅱ(2) ラテンアメリカ法(2) *EU法(2) *中国法(2) 【諸法・学際法】 環境法Ⅰ(2) 環境法Ⅱ(2) 医事法Ⅰ(2) 医事法Ⅱ(2) 情報法(2) *政策と法Ⅰ(2) *政策と法Ⅱ(2) *法と経済(2) *法と開発(2) *災害復興と法Ⅰ(2) *災害復興と法Ⅱ(2) *ジェンダーと法Ⅰ(2) *ジェンダーと法Ⅱ(2) *LGBTQと法と社会(2) 【他分野】 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 社会学Ⅰ(2) 社会学Ⅱ(2) 金融論Ⅰ(2) 金融論Ⅱ(2) 会計学Ⅰ(2) 会計学Ⅱ(2) 経営学Ⅰ(2) 経営学Ⅱ(2) 財政論Ⅰ(2) 財政論Ⅱ(2) 経済政策Ⅰ(2) 経済政策Ⅱ(2) 経済原論Ⅰ(2) 経済原論Ⅱ(2) *交渉学Ⅰ(2) *交渉学Ⅱ(2)	
	06-30-02	展開科目(研究会・演習)	日吉	【基礎演習】 法学演習(2) 法学演習Ⅰ(2) 法学演習Ⅱ(2) 【英語使用演習】 *Legal Writing and PresentationⅠ(2) *Legal Writing and PresentationⅡ(2) 【法曹コース】 法務演習Ⅰ(司法制度論)(1) 法務演習Ⅰ(憲法・民法・刑法)(2) 法務演習Ⅱ(憲法Ⅰ)(1) 法務演習Ⅱ(憲法Ⅱ)(1) 法務演習Ⅱ(民法Ⅰ)(2) 法務演習Ⅱ(民法Ⅱ)(2) 法務演習Ⅱ(刑法Ⅰ)(1) 法務演習Ⅱ(刑法Ⅱ)(1) 法務演習Ⅱ(会社法)(2)	
			三田	【研究会】 研究会(法律学科)Ⅰ(2) 研究会(法律学科)Ⅱ(2) 研究会(法律学科)Ⅲ(2) 研究会(法律学科)Ⅳ(2) 【専門演習】 憲法演習(2) 行政法演習(2) 租税法演習(2) 国際法演習(2) 刑法演習(2) 刑事政策演習(2) 刑事訴訟法演習(2) 民法演習(2) 国際私法演習(2) 知的財産法演習(2) 商法演習(2) 民事訴訟法演習(2) 社会法演習(2) 外国法演習(2) 法制史演習(2) 基礎法学演習(2) 環境法演習(2) 【英語使用演習】 *Legal Presentation and NegotiationⅠ(2) *Legal Presentation and NegotiationⅡ(2) 【法曹コース】 法務演習Ⅲ(憲法)(1) 法務演習Ⅲ(民法)(1) 法務演習Ⅲ(刑法)(1) 法務演習Ⅲ(会社法)(1) 法務演習Ⅲ(民事訴訟法)(2) 法務演習Ⅲ(刑事訴訟法)(2)	
	06-30-03	展開科目(他学科・他学部)			他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の専門的授業科目で、当該授業科目の担当者の承認を得たもの(22単位まで)
	体育科目	08-20-01	選択 講義系	日吉	体育学講義Ⅰ(2) 体育学講義Ⅱ(2) 体育学演習(1)
		08-20-02	選択 実技系	日吉 三田	体育実技A(1) 体育実技B(1) 体育実技A(1)
択自科目	09-20-01	選択		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、人文・自然・社会科学科目に相当するもの	
科自由	10-30-01	自由		進級および卒業要件とならない科目	
	11-30-01	自由		教職課程センター設置科目	

1 法律学科目の系列について

第3学年に進級すると、法律学科目の基幹・展開科目の履修が中心になります。展開科目のほとんどが第3学年から取得できるようになっています。展開科目は研究会または演習科目8単位以上を含めて44単位以上取得しなければなりません。極力第3学年に取得できるよう履修上検討してください。

2 他学科・他学部の「研究会」履修について

法律学科(以下、自学科)以外の研究会入会を認められた場合、自学科の研究会と取扱いが異なるので注意してください。自学科以外は、展開科目『他学科・他学部等の専門的授業科目』の一つとして位置付けられます。卒業までに取得しなければならない展開科目の44単位には含めることができますが、展開科目(研究会・演習)の8単位には含まれません。なお、他学科・他学部等の専門的授業科目を「展開科目」として履修する場合、卒業までに22単位を履修上限とします。22単位を超えた分は、「自主選択科目」として履修することができます。

3 法律学科の研究会について

法律学科では、2年連続して同一担当者の研究会に所属し、卒業論文を作成することができます。その点では2年間の継続履修が求められますが、単位としては半期毎に2単位を取得することができます。なお研究会は必修科目ではありません。よって、履修計画上、それを履修せず他の科目で補い卒業することもできます。

4 履修申告について

履修申告に関する最新のお知らせは、塾生サイト「履修上の注意」に掲出します。事前選抜科目や履修制限科目、履修申告時における注意など、履修申告に関する重要なお知らせになりますので、履修申告が始まる前に必ず確認してください。

卒業までに必要な単位

2024年度以降入学者用

以下の表を利用して、各自の責任において卒業に必要な単位計算を行ってください。
学期末に公開される学業成績表に記載の分野番号を基準に表を作成することをお勧めします。

分野・科目名		分野番号	卒業に必要な単位	前学期までに取得した単位	
外国語科目1(必修(英語))		01-10-01 01-10-51	8		
外国語科目2(必修(英語以外))		01-10-02 ~01-10-15、 01-10-52 ~01-10-65	8		
外国語科目(選択)		01-20-01 ~01-20-16			
外国語科目(選択インテンシブ)		01-30-01 ~01-30-11			
人文科学科目		02-20-01	8以上		
自然科学科目 ※数学・統計科目も含まれます		03-20-01 04-20-11 04-20-12	8以上		
情報処理科目		04-20-13			
社会科学科目	必修	法学Ⅰ・Ⅱ(憲法を含む)	05-10-01	4	
	選択必修	社会学Ⅰ・Ⅱ、 地理学Ⅰ・Ⅱ、 経済学Ⅰ・Ⅱ、 政治学Ⅰ・Ⅱ、 近代思想史Ⅰ・Ⅱ	05-11-01	4以上	
法学科目	導入科目	必修	憲法(総論・人権)Ⅰ・Ⅱ、 民法(総論)Ⅰ・Ⅱ、 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ	06-10-01	12
		選択必修	国際化と法、 法制史概論、 法文化論	06-10-02	2以上
	基幹科目		06-20-01	30以上	
科目	展開科目	展開科目	06-30-01		展開科目合計 06-30-01 06-30-02 06-30-03 計()単位 ※44単位以上必要
		展開科目(研究会・演習)	06-30-02	8以上	
		※展開科目(他学科・他学部)	06-30-03		
体育科目		08-20-01 08-20-02			
自主選択科目		09-20-01			
総単位		01-10-01 ~09-20-01	136以上		

※他学科・他学部等の専門的授業科目を「展開科目」として履修する場合、卒業までに22単位を履修上限とします。

また、22単位を超えた分は「自主選択科目」(進級・卒業に必要な単位に含めることができる)として履修することができます。

なお、他学科・他学部等の専門的授業科目を「展開科目」として履修できるのは3年生・4年生のみとなります。

※前学期までに取得した単位数は学業成績表(Web閲覧)で確認してください。

※自由科目(分野:10-30-01と11-30-01)は卒業の単位には含まれないのでこの確認表に記載欄はありません。

卒業までに必要な単位

2023 年度以前入学者用

以下の表を利用して、各自の責任において卒業に必要な単位計算を行ってください。

学期末に公開される学業成績表に記載の分野番号を基準に表を作成することをお勧めします。

分野・科目名		分野番号	卒業に必要な単位	前学期までに取得した単位	
外国語科目 (必修)		01-10-01 ~01-10-65	16		
外国語科目 (選択)		01-20-01 ~01-20-16			
外国語科目 (選択インテンシブ)		01-30-01 ~01-30-11			
人文科学科目		02-20-01	8 以上		
自然科学科目 ※数学・統計科目も含まれます		03-20-01 04-20-11 04-20-12	8 以上		
情報処理科目		04-20-13			
社会科学科目	必修	法学 I・II (憲法を含む)	05-10-01	4	
	選択必修	社会学 I・II、 地理学 I・II、 経済学 I・II、 政治学 I・II、 近代思想史 I・II	05-11-01	4 以上	
法律 学 科 目	導入科目	必修	憲法(総論・人権) I・II、 民法(総論) I・II、 刑法(総論) I・II	06-10-01	12
		選択必修	国際化と法、 法制史概論、 法文化論	06-10-02	2 以上
	基幹科目		06-20-01	30 以上	
	展開科目	展開科目		06-30-01	
展開科目(研究会・演習)		06-30-02	8 以上		
※展開科目(他学科・他学部)		06-30-03			
				22 単位まで	展開科目合計 06-30-01 06-30-02 06-30-03 計()単位 ※44 単位以上必要
体育科目		08-20-01 08-20-02			
自主選択科目		09-20-01			
総単位		01-10-01 ~09-20-01	136 以上		

※他学科・他学部等の専門的授業科目を「展開科目」として履修する場合、卒業までに 22 単位を履修上限とします。

また、22 単位を超えた分は「自主選択科目」(進級・卒業に必要な単位に含めることができる)として履修することができます。

なお、他学科・他学部等の専門的授業科目を「展開科目」として履修できるのは 3 年生・4 年生のみとなります。

※前学期までに取得した単位数は学業成績表 (Web 閲覧) で確認してください。

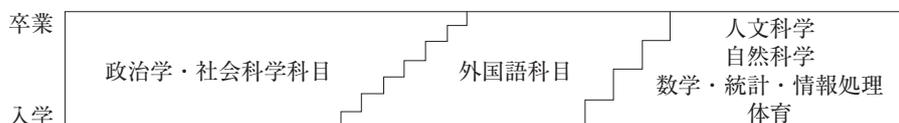
※自由科目 (分野: 10-30-01 と 11-30-01) は卒業の単位には含まれないのでこの確認表に記載欄はありません。

學習指導要項
法学部政治学科

1 政治学科のカリキュラムの特質

下の図はカリキュラムの内容を図式化したものです。

〈政治学科のカリキュラム〉



政治学科のカリキュラムは以下のような特色をもっています。

- (1) 政治学科目およびその隣接領域にあたる社会科学（社会学、法学系列、経済・商学系列）科目を1年次より履修することができます。
- (2) 外国語、人文科学、自然科学、社会科学、数学・統計・情報処理、体育科目などを、最終学年まで継続的に学習できます。そのため、政治学科目のほかに、選択的にこれらの科目を履修することにより、自身の目的や志向に合わせ、個性的なカリキュラムを独自に作ることが可能です。
- (3) 外国語科目を充実させ、多様な言語が学べるようになっています。また、外国語を集中的に学習したい学生のために集中履修科目（インテンシブコース）が設置されています。
- (4) 演習、文献講読、研究会を履修することにより、各学年で、知的訓練に最適な少人数授業を受けることができます。
- (5) 政治学系列科目や社会科学科目等の一部は日吉キャンパスで開講されており、1年次より政治学の専門的授業を履修することができます。また、このような科目配置により、国家公務員、地方公務員、司法試験等の資格試験の受験希望者も無理のないスケジュールで準備に入ることができます。
- (6) 政治学、社会科学分野において、社会的要請が高まりつつある数学・統計・情報処理科目が充実しています。
- (7) いずれの授業も半期制で開講されているので、留学などを無理なく計画することができます。

2 カリキュラムのねらい

従来、日本の企業は、海外の企業と異なり大学卒業生の採用に際して高い専門的能力を求めない傾向にありました。すぐれた潜在的素質を備え、ジェネラリストとして基礎的な知識と分析能力、その他自助努力のためのノウハウを身につけていること、さらに、円滑な人間関係を維持するための社交能力やリーダーシップが求められていたようです。OJT（職場内訓練プログラム）が発達しているがゆえに、必要な知識は入社後社風に染め上げながら教えればよいと考えられたのでしょう。

しかし、時代は変わりました。グローバル化により、日本企業、そして日本という国が苛烈な国際競争にさらされるなか、日本型経営は大きな転換を求められています。そして大学にも、高い専門知識、創造的な思考・分析能力、緻密かつ総合的な政策立案能力を備えた専門的職業人の育成がこれまで以上に求められています。法学部政治学科が目指すのは、ジェネラリストであっても高い専門的素養のある人、スペシャリストでありながらも総合的知識を持つ人を育てることです。カリキュラムも、こうした目的の下に構成されています。

3 カリキュラムの基本的構造

政治学科においては、基礎科目と系列科目で構成される政治学科目が中核におかれています。卒業までに、これらの科目のうち基礎科目を10単位（2023年度以前入学者は8単位）、系列科目（研究会、文献講読Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱを含む）を38単位（各系列から4単位以上が必要となる）（2023年度以前入学者は総計で40単位）、計48単位を履修することが求められます。また、社会科学科目（社会学系列、経済学・商学系列、法学系列）28単位、外国語科目16単位、人文科学科目8単位、自然科学科目8単位をそろえると合計108単位になります。

しかし、卒業単位は136単位と規定されているので、皆さんは卒業するために、あと少なくとも28単位分を取得しなければなりません。政治学科の学生としての専門的知識と総合的な教養を身につけた上で、さらに自身の目的や関心に応じて学びを深められるよう、この28単位（あるいはそれ以上）を組んでください。この28単位については、自由科目以外のどの授業科目から選択してもかまいません。ただし、いずれの授業も、取り捨て（途中放棄、試験放棄）に対しては、履修取消をしない限り、D（不合格）評語がつくので注意してください。

教職課程については、卒業単位とは別に自由科目として履修しなければならない科目がありますので、十分注意して

ください。

4 カリキュラムの活用法

(1) 専門性と社会科学的教育の双方を持つ専門家になろう。

政治学科では、政治学科目を1年次より勉強できます。政治学の系列科目が1年にも配当され、専門的な授業を1年次より履修し、3・4年次でより深く政治学科目を学ぶカリキュラム構成となっています。また、社会科学系列の科目のうちかなりのものが必修科目として日吉に配当されています。早くから、政治学科目、社会科学科目を学ぶことにより、将来の進路決定や大学院進学への準備、留学計画の策定に有利になると考えられます。

4年間で①社会科学全般の基礎的な知識を獲得すること、②政治学に関わる幅広い視野と知識、多角的分析能力を身に付けられるようカリキュラムを活用してください。

(2) 副専攻認定制度を生かして第2の専門を持つ。

政治学科目や社会科学科目を学んだ上で、第2の専門分野を学ぶことも可能です。政治学科には、旧来の人文、社会、自然科学の壁を取り払った総合的、学際的内容の授業も1年から4年まで用意されているので、自らの関心に基づいて、個性的なカリキュラムを設計することができます。

(3) 外国語に強い国際派になろう。

政治学科では、1年から4年まで、各個人のレベルにあわせながら継続的に外国語の授業を履修することが可能です。さらに、3つ以上の外国語を学習することも可能です。

特に、徹底して外国語を学びたい学生は、インテンシブコースをとるとよいでしょう。外国語インテンシブコースは、情報の発信や受信を自在に行うことのできる高いレベルの外国語の習得を目指す学生のためのものです。政治学、社会科学を専門とし、かつ外国語学部出身者にひけをとらぬ外国語能力を持つ学生の養成を目指します。やる気のある学生は挑戦してください。さらに、政治学科目の各系列には、英語による授業が開講されています。政治学の専門領域を英語で学ぶ良い機会ですので、積極的に履修しましょう。人文科学科目の地域文化論と併せて履修すると外国語への興味がさらに増し、効果も上がるでしょう。

(4) 少人数授業をつうじて知的訓練を受けよう。

政治学科目として、1・2年次に演習Ⅰ（日本語文献）、演習Ⅱ（英語文献）が、3・4年次に研究会、特殊研究が開講されています。これらは政治学の専門領域を少人数のゼミ形式で学ぶ授業です。政治学、社会科学の専門知識を深く学び、かつ教員や他の学生との議論をつうじて論理的思考力、表現力を身につけるには、これら少人数のゼミでの訓練がきわめて有益です。

大教室の講義と少人数授業を効果的に組み合わせて履修計画を練ってください。

(5) 国家、地方、国際公務員を目指すなら。

国家公務員試験を受験するためにはさまざまな領域の知識を習得する必要があります。日吉に設置された政治学科目・社会科学科目には、これらの試験の準備に役立つものが多くあります。国家公務員等試験受験希望者は、そのことを念頭に学習計画を立ててください。

ただし、これらの科目は公務員試験用の受験対策科目ではありませんので注意してください。

(6) 数学・統計・情報処理に挑戦しよう。

数学・統計・情報処理科目は、微積分や確率を学んでいない学生をも対象に、高度な数学、情報科学ソフトの専門家にならぬ統計学およびコンピュータ処理能力を養成することを目指しています。近年、政治学や社会学を含む社会科学分野においても数学・統計・情報処理の素養が不可欠となってきました。研究論文の多くに数学的、統計的手法が利用されています。大学院に進み研究者になる、あるいはシンクタンクやマスコミ、金融界などに進む場合にも、数学、統計、調査の能力は必要です。ぜひ挑戦してください。

(7) 専門家、研究者を目指すなら。

産業構造が高度化するとともに、高度な専門知識を持った社会人、あるいは研究者に対する社会的ニーズは高まっています。社会科学、人文科学系の大学院で研究能力を高めることは、研究者（大学、研究所）を目指す場合のみならず、国際機関や国家機関、企業や研究所で専門家として働く場合にも必要です。政治学科では、4年生に対する大学院推薦入学制度などを整備しています。なお、4年で推薦を受けるには3年までの成績がよくなくてはなりません。それを念頭にがんばってください。

(8) 半期制度を利用して海外へ行こう。

政治学科の授業は半期制をとっているため、1・2年生も留学がしやすくなっています。交換留学、私費留学の機会を積極的に利用してください。

5 履修にあたり注意すること

(1) 柔軟性をもつカリキュラムを十分に活用しましょう。

履修上注意して欲しいのは、まず教養的授業科目を勉強し、後に専門的授業科目を勉強するという2段階の授業体系ではなく、第1・2学年より政治学の専門的授業科目と同時に、隣接領域の社会科学科目が用意されているということです。また政治学と並行して人文科学、自然科学、外国語等を第4学年まで履習することも可能になっています。さらに、基本的履修単位を取得する範囲内においても相当な選択の余地があり、かつ28単位については自由に知的好奇心を追求したり目的意識をもって学習することが可能です。ですから、専門をより深めたい、法律、経済を勉強したい、外国語を熟達したい、あるいはジェネラリストになりたいといった自分なりの目標をしっかり定めて履修計画を立てましょう。

(2) 少人数授業の積極的利用を薦めます。

大教室による講義形式の授業に加え、少人数授業の充実を図っています。300名から500名もの学生が参加する授業では、教員と学生、あるいは学生同士の双方向の意見交換の機会は自ずと限られます。そこで、思考能力や分析能力の向上を促すため、演習や特殊研究、研究会授業を充実させています。積極的に自分を磨きたい諸君は少人数授業をどんどん利用してください。

(3) 各学年の履修単位の上限は48単位です。

政治学科における各学年の履修単位の上限は48単位と決められています。通常、1コマ90分の講義授業に対しては4時間、外国語の場合には1コマ90分に対して2時間の予習をすることが大学での学習の前提になっています。これに復習時間などを含めると余裕ある学習が可能となる目安は44単位です。ただし、政治学科においては、日吉設置の必修科目が多いので、学生の多様な関心をそれによって摘み取ることのないよう、他学部・他学科より多めに各学年の履修単位の上限が48単位とされています。なお自由科目による履修には上限はありません。さらに第1・2学年（日吉）において外国語のインテンシブコースを履修する学生は、4単位まで選択外国語として卒業単位に含まれる上限48単位に上乗せすることができます。

政治学科での学習は自由度が高く、学生の一人ひとりが自分自身の関心に合わせた自主性を尊重する履修計画が可能ですが、それが無計画になるのは望ましくはありません。目的意識をもって学習計画を練るようにしてください。

1 進級条件について

進級するには、下記2項目を満たすことが条件となります。

- ①当該学年で2学期(1年)以上在籍していること
※ただし、復活制度適用者はこの限りではありません(本書『復活制度について』参照)。
- ②当該学年で30単位以上(自由科目を除く)を取得していること

- *休学期間は在学期間に含まれません。
- *自由科目として履修申告した科目は、進級単位・卒業単位には含まれません。
- *必修科目は、配当された学年で履修しなければなりません。その取得は進級の必要条件ではありません。つまり、**必修科目に不合格の科目があっても、その学年での取得単位数の合計が30単位を超えている場合は、進級できます**(不合格であった必修科目は翌年度以降に再履修)。
- *卒業までに必要な科目のうち、日吉に設置されているものは、第2学年を終了するまでにできるだけ履修しておくようにしてください。第3学年からは三田キャンパスに通学することになりますが、日吉に設置されている科目で取り残した科目があると、三田・日吉の両キャンパスに通わなければならないとなり、研究会などの履修に際し不利益を被る場合があります。
- *第4学年へ進級するにあたって、必修外国語で、初級課程(4単位)を取得していない語種が1語種でもある場合には(英語を除く)、進級することができませんので注意してください。
- *進級条件に達しない場合は原級となります。学部学則(別冊)と本書を熟読し、進級条件を正しく理解してください。

2 卒業条件について

卒業するには、下記4項目を満たすことが条件となります。

- ①8学期(4年)以上在籍していること。なお、復活制度が適用された場合を除き、各学年に2学期以上在籍していること。
 - ②設定された全ての必修科目および選択必修科目の単位を取得していること
 - ③各授業科目カテゴリーに設定された必要単位を取得していること
 - ④136単位以上(※自由科目を除く)取得していること
- ※自由科目として履修申告した科目は、卒業単位には含まれません。

3 履修上限について

1学年で履修できる単位数の上限は**48単位**です。春学期履修申告時には、秋学期の履修計画も立てたうえで申告するように注意してください。春学期に不合格となった科目の単位も含めて、履修上限は48単位となります。

- *これ以上履修したい場合は、自由科目として申告することになります。自由科目による履修には上限がありません。
- *教職課程登録者はその関連科目を自由科目として上限なしで履修できます。
- *自由科目は進級・卒業の単位にはなりません。
- *第1・2学年(日吉)において外国語科目のインテンシブコースを履修する者は4単位まで、選択外国語科目として、履修上限に上乗せすることができます。
※インテンシブ科目を自由科目として履修した場合は履修上限の上乗せはありません。また、三田設置インテンシブコースは履修上限に上乗せすることはできません。
- ***再履修科目がある場合でも履修できる単位数の上限は変わりません**。前年度不合格だった科目を今年度に再度履修する場合も、その科目を含めて履修上限までとなります。

4 外国語科目について

(1) 必修外国語

【2024年度以降入学者】

英語(全員必修)と、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・朝鮮語・アラビア語のうちクラス発表時に指定された1語種、あわせて2語種の外国語を必修科目として履修します。なお、クラス発表時に指定された語種の変更はできませんので、指定された語種の単位を必ず取得してください。

【2023年度以前入学者】

英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・朝鮮語・アラビア語の8つの必修外国語から2語種を履修します。なお、クラス発表時に指定された語種の変更はできませんので、決定した2語種の単位を必ず取得してください。

(2) 卒業までに必要な単位数

卒業までに必要な外国語科目の単位数は2語種で合計**16単位**です。
(第1学年：4 + 4単位 第2学年：4 + 4単位)

(3) インテンシブコース

・法学部の全ての必修外国語にはインテンシブコースが設置されています。インテンシブコースでは、1・2年次に当該外国語の授業を週4コマ受講するほか、3・4年次にも継続して学ぶことができます。詳しくはp.78「インテンシブコース修了証・外国語成績優秀者表彰について」、「法学部外国語科目履修案内」およびHP「法学部で外国語を学ぶ」(<http://hc.law.keio.ac.jp/>)を参照してください。

(4) その他

・外国語科目は、必修科目として定められた**16単位**を超えて履修することや、ラテン語、ギリシャ語、ポルトガル語も含めて第3、第4の外国語を履修することもできます。また、これらの場合、履修した外国語科目は選択外国語の単位として、進級・卒業の単位に含めることができます。履修方法については別途手続が必要となりますので、「法学部外国語科目履修案内」の「必修で定められた単位数以上に外国語科目を履修する場合」の項目を参照してください。
・外国語教育研究センター特設科目の履修については「法学部外国語科目履修案内」を参照してください。

5 人文科学科目について

(1) 卒業までに必要な単位数

卒業までに必要な人文科学科目の単位数は**8単位**です。

(2) 履修上の注意

人文科学科目の「地域文化論Ⅰ」「地域文化論Ⅱ」などは、複数の担当者が講義を持っています。通常同一名称の科目は一度しか履修することができませんが、人文科学科目は担当者が異なれば、同一名称の科目でも2つ以上履修することができます。詳しくは、後述する「同一科目名の履修について」を参照してください。

6 自然科学科目について

(1) 卒業までに必要な単位数

卒業までに必要な自然科学科目の単位数は**8単位**です。

(2) 履修上の注意

自然科学科目は、人文科学科目と異なり、同一名称の科目(例えば「心理学Ⅰ」)を2つ以上履修することはできません。自然科学科目には2時限続きで授業が行われる実験科目があります。履修にあたっては、特別な手続が必要となりますので、本書「自然科学科目(実験を含む)の履修」を参照してください。

7 社会科学科目について

社会科学科目は、必修科目である「社会学」「法学(憲法を含む)」「経済原論Ⅰ」「憲法」「経済原論Ⅱ」の5科目(20単位)のほかに、「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」「行政法」「国際法」「刑法」の5科目の中から1科目(4単位)以上、「経済政策Ⅰ」「経済政策Ⅱ」「財政論Ⅰ」「財政論Ⅱ」「国際経済論Ⅰ」「国際経済論Ⅱ」の6科目の中から2科目(4単位)以上の合計**8科目(28単位)**以上を取得する必要があります。

8 政治学科目について

政治学科目カテゴリーは、「基礎科目」「系列科目」の2つに分類されており、卒業までに合計**48単位**以上の取得が必要となります。

(1) 基礎科目

【2024年度以降入学者】

必修科目である「政治理論基礎」・「政治思想基礎」・「日本政治基礎」・「地域研究・比較政治基礎」・「国際政治基礎」の合計**5科目(10単位)**を取得する必要があります。

【2023年度以前入学者】

必修科目である「政治学基礎」(2単位)のほかに、「政治理論基礎」・「政治思想基礎」・「日本政治基礎」・「地域研究・比較政治基礎」・「国際政治基礎」の5科目の中から3科目(6単位)以上の合計**4科目(8単位)**以上を取得する必要があります。

(2) 系列科目

「政治思想論系列」・「政治・社会論系列」・「日本政治論系列」・「地域研究・比較政治論系列」・「国際政治論系列」の5系列に分かれ、**各系列最低2科目(4単位)以上**取得することが求められます。

また、系列科目には、集中学習科目の「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」、三田に設置されている「研究会」や「文献講読Ⅰ」・「文献講読Ⅱ」も含まれ、**基礎科目とあわせて合計48単位以上の取得が必要**です。

***「マス・コミュニケーション論Ⅰ」について**

「マス・コミュニケーション論Ⅰ」は政治・社会論系列と日本政治論系列のどちらの分野でも履修することができます。時間割にはそれぞれの系列ごとに登録番号がありますので希望する分野の登録番号で履修してください。ただし取得できるのはどちらかの分野で1科目までです。

*「日本外交史Ⅰ」について

「日本外交史Ⅰ」は日本政治論系列と国際政治論系列のどちらの分野でも履修することができます。時間割にはそれぞれの系列ごとに登録番号がありますので希望する分野の登録番号で履修してください。ただし取得できるのはどちらかの分野で1科目までです。

9 情報処理科目について

情報処理科目は自主選択科目として認定されます（自然科学科目の単位にはなりません）。

10 自主選択科目と自由科目について

(1) 自主選択科目

他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、**進級・卒業の単位に含めることができます**。取得した単位は次項目「卒業までに必要な最低単位数を超過した単位について」で説明される分野に配当されます。

(2) 自由科目

単位を取得しても**進級・卒業の単位に含めることはできません**。

11 卒業までに必要な最低単位数を超過した単位について

各授業科目カテゴリーで定められた単位数を取得していくと合計108単位となり、卒業までに必要な136単位まで残り**28単位**となります（後述の「卒業までの履修チャート」参照）。この部分は**各カテゴリーの最低単位数を超過した単位や情報処理科目、体育科目、自主選択科目などの単位で**充当してください。例えば人文科学科目を12単位取得すると、卒業までに必要な最低単位数は8単位なので、余った4単位は自動的にこの部分の扱いとなります。外国語科目を選択外国語として取得した場合も、その単位は自動的にこの部分の扱いとなります。

12 同一科目名の履修について

時間割には、同じ名称の科目があります。原則として、**同一名称の科目は、一度しか履修することができません**。ただし、次の場合は、同一名称の科目であっても履修することができます。

(1) 担当者が異なれば、履修が可能な科目（同じ年度でも履修可能）

人文科学科目カテゴリーの科目全て（文学・歴史等）、「演習Ⅰ・Ⅱ」

(2) 年度が異なれば同じ担当者でも履修可能な科目

「人文科学特論Ⅰ・Ⅱ」、「人文科学研究会（3・4年設置）」、「自然科学研究会Ⅲ・Ⅳ（3・4年設置）」

(3) 条件なく履修が可能な科目

体育実技科目

(4) 自由科目の分野で履修する場合は、条件なく同一科目名の科目を複数履修することが可能です。

（※自由科目は進級単位・卒業単位には含まれません。）

13 クラス指定科目について

- (1) 時間割でクラスが「指定」されている科目は、指定どおりのクラスを履修しなければなりません。もしも指定されたクラス同士が重複した場合は、3月下旬～4月上旬の所定の履修クラス相談期間（詳細はK-SupportのNewsでお知らせします）に学習指導担当教員の許可を得る必要があります
- (2) 専門科目の再履修科目は、指定されたクラス以外を履修しても構いません（初めての履修の場合でも下級学年設置科目であれば同様に可）。外国語科目の場合、再履修や下級学年設置であっても指定されたクラスを履修する必要があります。

14 上級学年設置科目について

各学年に配当された授業科目は、その学年以降に履修することができます。下級学年に配当された授業科目を、上級学年において履修することは妨げません。しかし**上級学年に配当されている授業科目を履修することはできません**。

15 法律学科・他学部・研究所設置科目について（54、55ページ参照）

(1) 法律学科の科目

法律学科の必修科目については自由科目、必修科目以外の社会科学科目と法律学科目については自主選択科目の取り扱いとなります。（ただし「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」「政治学Ⅰ」「政治学Ⅱ」「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」「近代思想史Ⅰ」「近代思想史Ⅱ」については自由科目の取り扱いとなります。）

(2) 他学部設置科目

他学部設置科目の中には春学期と秋学期の両方を履修することを義務付けている科目があります。それらの科目名の末尾にはaとbの記号がついています（(例)自由研究セミナーa、自由研究セミナーb）。この場合、成績評価は春の分(a)と秋の分(b)が一括して秋学期末に行われるため、春学期の時点では成績評価を知ることができません。

(3) 研究所設置科目

履修可能な研究所設置科目は時間割の後半部分にある「研究所等設置科目時間割」を確認してください。また、B欄申告が必要な科目がありますので、本書「所属学科時間割にない科目の履修」も参照してください。

16 他地区設置授業を履修する場合の注意事項

地区間を移動するにあたり、移動不可能な履修申告はできません。

例①：3限に日吉キャンパスの授業を履修し、4限に三田キャンパスの授業を履修する。

例②：2限に日吉キャンパスの授業を履修し、3限に湘南藤沢キャンパスの授業を履修する。

なお、日吉・三田キャンパスの移動に関しては、昼休みをはさむ2・3時限の履修は可能としますが、授業に遅れてしまう場合も有り得ますので、十分に注意してください。

17 「遠隔(オンライン)授業」の履修について

K-LMS等に掲載されている、「オンライン授業受講ガイドライン」を確認してください。

異なる地区において連続した時限に開講される授業であっても、一方または両方が遠隔(オンライン)授業(例：1時限目に日吉の対面授業、2時限目に三田の遠隔授業)の場合、履修することは可能とします。

ただし、遠隔(オンライン)授業であっても一部対面授業を実施する、授業内試験を対面で実施する等、履修上の不都合が発生する場合があります。異なる地区において連続した時限で開講される授業で、一方または両方が遠隔(オンライン)授業である場合には、シラバスで授業実施形態の詳細を確認すると同時に、科目担当者への確認等を行い、不都合がないことを確認したうえで、自身の責任のもと履修をするようにしてください。

18 「遠隔(オンライン)授業」の単位数上限について

遠隔(オンライン)授業(※1)で修得した単位のうち、卒業要件単位数に含めることのできる上限は60単位(※2)です。

履修科目を決める際は、必ず授業実施形態を確認したうえで学修計画をたててください。それぞれの授業の授業実施形態は、シラバスおよびK-Numberにて確認できます。

なお、履修申告時には、遠隔(オンライン)授業の修得済単位と履修科目の単位数の合計が60単位を超える履修申告はできません。遠隔(オンライン)授業の履修単位数が修得済単位数と合計して60単位を超過する場合には、自由科目として履修申告してください。

※1 「遠隔(オンライン)授業」とは、全体の講義回数のうち、対面以外で実施される講義回数が、半数を超える授業です。

※2 2021年度以前に遠隔(オンライン)授業で修得した単位は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による特別措置として上限の対象外です。

19 授業科目ナンバリング(K-Number)について

2022年度より、全授業科目に対して、レベルや学問分野、授業形態等を示す番号を付番する授業科目ナンバリング制度(K-Number)を導入しています。

K-Numberによって興味関心のある学問分野を検索し、体系的な学修計画に基づいた学びが可能となります。

なお、複数の学部・研究科に併設された授業科目については、各学部・研究科ごとに異なるK-Numberが付与されます。詳細はWeb等を参照してください。

K-Numberの構成 〈法学部政治学科設置科目の見方〉

FLP-PS-1 1 11 1-1 1 1-11
① ② ③④ ⑤ ⑥ ⑦⑧⑨ ⑩

	種類	内容
①	学部・研究科	法学部政治学科設置科目は FLP-PS と表記されます。
②	科目設置 学科・専攻	※各学部・研究科の表記は Web 等参照
③	レベル (履修学年の目安)	0:学部共通 1:1年次配当レベル(または入門/導入レベル) 2:2年次配当レベル(または基礎レベル) 3:3年次配当レベル(または応用/発展レベル) 4:4年次配当レベル(または専門/実践レベル) 9:その他
④	科目主番号	※ Web 等参照
⑤		
⑥	科目種別	1:必修科目、2:選択必修科目、3:選択科目、4:自由科目、9:その他
⑦	授業区分(全塾共通)	1:語学、2:講義、3:演習、4:実験・実習・実技、5:論文、6:研究指導、7:講義および実習、9:その他
⑧	科目補足	1:対面授業(主として対面授業)、2:オンライン授業(主としてリアルタイム形式)、3:オンライン授業(主としてオンデマンド形式)、4:オンライン授業(全回オンデマンド形式)
⑨	授業言語(全塾共通)	1:日本語、2:英語、3:その他
⑩	学問分野	学問分野(全塾共通) ※Web等参照

政治学科 卒業までの履修チャート

●は必修科目、○は選択必修科目 ()内は単位数

2024年度以降入学者用

科目群	卒業要件 (4年次までに取得すべき単位)	日吉キャンパス				三田キャンパス	
		1年		2年		3年	4年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		
外国語科目	16単位(必修) 英語と、もう一つの語種の2語種を履修	●外国語1(英語)(2)	●外国語1(英語)(2)	●外国語1(英語)(2)	●外国語1(英語)(2)		
		●外国語2(2)	●外国語2(2)	●外国語2(2)	●外国語2(2)		
		選択 外国語/選択 インテンシブ外国語					
人文科学科目	8単位以上	音楽Ⅰ(2)、音楽Ⅱ(2)、科学史Ⅰ(2)、科学史Ⅱ(2)、科学史Ⅲ(2)、科学史Ⅳ(2)、漢文Ⅰ(2)、漢文Ⅱ(2)、芸術文化論Ⅰ(2)、芸術文化論Ⅱ(2)、言語学Ⅰ(2)、言語学Ⅱ(2)、言語学Ⅲ(2)、言語学Ⅳ(2)、言語認識論(2)、国語国文Ⅰ(2)、国語国文Ⅱ(2)、社会における性Ⅰ(2)、社会における性Ⅱ(2)、宗教学Ⅰ(2)、宗教学Ⅱ(2)、人文科学特論Ⅰ(2)、人文科学特論Ⅱ(2)、人文総合講座Ⅰ(2)、人文総合講座Ⅱ(2)、地域文化論Ⅰ(2)、地域文化論Ⅱ(2)、地域文化論Ⅲ(2)、地域文化論Ⅳ(2)、哲学Ⅰ(2)、哲学Ⅱ(2)、美術Ⅰ(2)、美術Ⅱ(2)、人であることⅠ(2)、人であることⅡ(2)、文学Ⅰ(2)、文学Ⅱ(2)、倫理学Ⅰ(2)、倫理学Ⅱ(2)、歴史Ⅰ(2)、歴史Ⅱ(2)、論理学Ⅰ(2)、論理学Ⅱ(2)					
自然科学科目	8単位以上	化学Ⅰ(実験を含む)(3)、化学Ⅱ(実験を含む)(3)、生物学Ⅰ(実験を含む)(3)、生物学Ⅱ(実験を含む)(3)、物理学Ⅰ(実験を含む)(3)、物理学Ⅱ(実験を含む)(3)、基礎数学Ⅰ(2)、基礎数学Ⅱ(2)、基礎統計学Ⅰ(2)、基礎統計学Ⅱ(2)、自然科学研究会Ⅰ(2)、自然科学研究会Ⅱ(2)、自然科学総合講座Ⅰ(2)、自然科学総合講座Ⅱ(2)、自然科学特論Ⅰ(2)、自然科学特論Ⅱ(2)、自然地理学Ⅰ(2)、自然地理学Ⅱ(2)、心理学Ⅰ(2)、心理学Ⅱ(2)、心理学Ⅲ(2)、心理学Ⅳ(2)					
数学・統計・情報処理科目	数学系列と統計系列は、自然科学科目として算入可	【数学系列】→数学Ⅰ(2)、数学Ⅱ(2)、数学Ⅲ(2)、数学Ⅳ(2) 【統計系列】→統計学Ⅰ(2)、統計学Ⅱ(2)、統計学Ⅲ(2)、統計学Ⅳ(2) 【情報処理系列】→情報処理Ⅰ(2)、情報処理Ⅱ(2)、情報処理Ⅲ(2)、情報処理Ⅳ(2)					
体育科目		体育学講義Ⅰ(2)、体育学講義Ⅱ(2)、体育学演習(1)、体育実技A(1)、体育実技B(1)					
社会科学科目	28単位以上 (必修20単位を含めて)	●社会学(4) ●法学(憲法を含む)(4)	●経済原論Ⅰ(4) ●憲法(4)	●経済原論Ⅱ(4) ○行政法(4) ○刑法(4) ○国際法(4) ○民法Ⅰ(4) の中から1科目4単位以上履修 社会心理学Ⅰ(2)・社会心理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅰ(2)・文化人類学Ⅱ(2)		○経済政策Ⅰ(2) ○経済政策Ⅱ(2) ○財政論Ⅰ(2) ○財政論Ⅱ(2) ○国際経済論Ⅰ(2) ○国際経済論Ⅱ(2) の中から2科目4単位以上履修 ※その他3・4年時に履修できる科目は「2026年度開講科目一覧」を参照	
政治学科目	基礎科目	48単位以上 (必修10単位を含めて) ●政治思想基礎(2) ●政治理論基礎(2) ●日本政治基礎(2) ●地域研究・比較政治基礎(2) ●国際政治基礎(2)					
	系列科目	1年から4年までのあいだに、以下のそれぞれの系列から4単位以上、基礎科目および研究会・文献講読・演習等と合わせて合計48単位以上履修する。 ○「政治思想論」系列(各2) ○「政治・社会論」系列(各2) ○「日本政治論」系列(各2) ○「地域研究・比較政治論」系列(各2) ○「国際政治論」系列(各2)					
	28単位以上	←外国語・人文科学・自然科学・社会科学・政治学の各科目群で設定されている必要単位数を超過した分の単位や、自主選択科目(他学部設置科目など)、情報処理科目、体育科目の単位で充当すべき単位数					
合計	136単位以上						

注) この「卒業までの履修チャート」の表には、主として学則に記載された科目が記載されています。これ以外にも教授会の定めによって設置されている科目(情報処理科目等)があり、他方、表に記載されていても当該年度には開講されない科目もあります。今年度が開講される全科目については、本書「2026年度開講科目一覧」を参照してください。

政治学科 卒業までの履修チャート

●は必修科目、○は選択必修科目 ()内は単位数

2023年度以前入学者用

科目群	卒業要件 (4年次までに取得すべき単位)	日吉キャンパス				三田キャンパス	
		1年		2年		3年	4年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		
外国語科目	16単位(必修) 8つの必修外国語から2語種を履修	●外国語1(2) ●外国語2(2)	●外国語1(2) ●外国語2(2)	●外国語1(2) ●外国語2(2)	●外国語1(2) ●外国語2(2)		
人文科学科目	8単位以上	音楽Ⅰ(2)、音楽Ⅱ(2)、科学史Ⅰ(2)、科学史Ⅱ(2)、科学史Ⅲ(2)、科学史Ⅳ(2)、漢文Ⅰ(2)、漢文Ⅱ(2)、芸術文化論Ⅰ(2)、芸術文化論Ⅱ(2)、言語学Ⅰ(2)、言語学Ⅱ(2)、言語学Ⅲ(2)、言語学Ⅳ(2)、言語認識論(2)、国語国文Ⅰ(2)、国語国文Ⅱ(2)、社会における性Ⅰ(2)、社会における性Ⅱ(2)、宗教学Ⅰ(2)、宗教学Ⅱ(2)、人文科学特論Ⅰ(2)、人文科学特論Ⅱ(2)、人文総合講座Ⅰ(2)、人文総合講座Ⅱ(2)、地域文化論Ⅰ(2)、地域文化論Ⅱ(2)、地域文化論Ⅲ(2)、地域文化論Ⅳ(2)、哲学Ⅰ(2)、哲学Ⅱ(2)、美術Ⅰ(2)、美術Ⅱ(2)、人であることⅠ(2)、人であることⅡ(2)、文学Ⅰ(2)、文学Ⅱ(2)、倫理学Ⅰ(2)、倫理学Ⅱ(2)、歴史Ⅰ(2)、歴史Ⅱ(2)、論理学Ⅰ(2)、論理学Ⅱ(2)					
自然科学科目	8単位以上	化学Ⅰ(実験を含む)(3)、化学Ⅱ(実験を含む)(3)、生物学Ⅰ(実験を含む)(3)、生物学Ⅱ(実験を含む)(3)、物理学Ⅰ(実験を含む)(3)、物理学Ⅱ(実験を含む)(3)、基礎数学Ⅰ(2)、基礎数学Ⅱ(2)、基礎統計学Ⅰ(2)、基礎統計学Ⅱ(2)、自然科学研究会Ⅰ(2)、自然科学研究会Ⅱ(2)、自然科学総合講座Ⅰ(2)、自然科学総合講座Ⅱ(2)、自然科学特論Ⅰ(2)、自然科学特論Ⅱ(2)、自然地理学Ⅰ(2)、自然地理学Ⅱ(2)、心理学Ⅰ(2)、心理学Ⅱ(2)、心理学Ⅲ(2)、心理学Ⅳ(2)					※3・4年時に履修できる科目は「2026年度開講科目一覧」を参照
数学・統計・情報処理科目	数学系列と統計系列は、自然科学科目として算入可	【数学系列】→数学Ⅰ(2)、数学Ⅱ(2)、数学Ⅲ(2)、数学Ⅳ(2) 【統計系列】→統計学Ⅰ(2)、統計学Ⅱ(2)、統計学Ⅲ(2)、統計学Ⅳ(2) 【情報処理系列】→情報処理Ⅰ(2)、情報処理Ⅱ(2)、情報処理Ⅲ(2)、情報処理Ⅳ(2)					
体育科目		体育学講義Ⅰ(2)、体育学講義Ⅱ(2)、体育学演習(1)、体育実技A(1)、体育実技B(1)					
社会科学科目	28単位以上 (必修20単位を含めて)	●社会学(4) ●法学(憲法を含む)(4)	●経済原論Ⅰ(4) ●憲法(4)	●経済原論Ⅱ(4) ○行政法(4) ○刑法(4) ○国際法(4) ○民法Ⅰ(4) の中から1科目4単位以上履修 社会心理学Ⅰ(2)・社会心理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅰ(2)・文化人類学Ⅱ(2)		○経済政策Ⅰ(2) ○経済政策Ⅱ(2) ○財政論Ⅰ(2) ○財政論Ⅱ(2) ○国際経済論Ⅰ(2) ○国際経済論Ⅱ(2) の中から2科目4単位以上履修	※その他3・4年時に履修できる科目は「2026年度開講科目一覧」を参照
政治学科目	基礎科目	●政治学基礎(2) 以下の科目は1・2年どちらの学年で履修してもかまいません。 ○政治思想基礎(2) ○政治理論基礎(2) ○日本政治基礎(2) ○地域研究・比較政治基礎(2) ○国際政治基礎(2) の中から3科目6単位以上取得					
	系列科目	1年から4年までのあいだに、以下のそれぞれの系列から4単位以上、基礎科目および研究会・文献講読・演習等と合わせて合計48単位以上履修する。 ○「政治思想論」系列(各2) ○「政治・社会論」系列(各2) ○「日本政治論」系列(各2) ○「地域研究・比較政治論」系列(各2) ○「国際政治論」系列(各2)					
	28単位以上	←外国語・人文科学・自然科学・社会科学・政治学の各科目群で設定されている必要単位数を超過した分の単位や、自主選択科目(他学部設置科目など)、情報処理科目、体育科目の単位で充当すべき単位数					
合計	136単位以上						

注) この「卒業までの履修チャート」の表には、主として学則に記載された科目が記載されています。これ以外にも教授会の定めによって設置されている科目(情報処理科目等)があり、他方、表に記載されていても当該年度には開講されない科目もあります。今年度が開講される全科目については、本書「2026年度開講科目一覧」を参照してください。

2026年1月現在の内容です。最新情報はシラバスを確認してください。

下線のついている科目は今年度開講されません。科目名の先頭に*がついている科目は複数の分野で開講されています。()内の数字は単位数です。

種類	分野番号	分野	設置地区	科目区分
外国語科目	01-10-01	必修 英語	日吉	英語第Ⅰ(1) 英語第Ⅱ(レベル2)(1)
	01-10-02	必修 ドイツ語(初級)	日吉	ドイツ語第Ⅰ(1) ドイツ語第Ⅱ(1)
	01-10-03	必修 フランス語(初級)	日吉	フランス語第Ⅰ(1) フランス語第Ⅱ(1)
	01-10-04	必修 中国語(初級)	日吉	中国語第Ⅰ(1) 中国語第Ⅱ(1)
	01-10-05	必修 スペイン語(初級)	日吉	スペイン語第Ⅰ(1) スペイン語第Ⅱ(1)
	01-10-06	必修 ロシア語(初級)	日吉	ロシア語第Ⅰ(1) ロシア語第Ⅱ(1)
	01-10-10	必修 朝鮮語(初級)	日吉	朝鮮語第Ⅰ(1) 朝鮮語第Ⅱ(1)
	01-10-13	必修 日本語(初級)	日吉	日本語(1)
	01-10-15	必修 アラビア語(初級)	日吉	アラビア語第Ⅰ(1) アラビア語第Ⅱ(1)
	01-10-51	必修 英語	日吉	英語第Ⅲ(1) 英語第Ⅳ(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	01-10-52	必修 ドイツ語(中級)	日吉	ドイツ語第Ⅲ(1) ドイツ語第Ⅳ(1) ドイツ語インテンシブ(1)
	01-10-53	必修 フランス語(中級)	日吉	フランス語第Ⅲ(1) フランス語第Ⅳ(1) フランス語インテンシブ(1)
	01-10-54	必修 中国語(中級)	日吉	中国語第Ⅲ(1) 中国語第Ⅳ(1) 中国語インテンシブ(1)
	01-10-55	必修 スペイン語(中級)	日吉	スペイン語第Ⅲ(1) スペイン語第Ⅳ(1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-10-56	必修 ロシア語(中級)	日吉	ロシア語第Ⅲ(1) ロシア語第Ⅳ(1) ロシア語インテンシブ(1)
	01-10-60	必修 朝鮮語(中級)	日吉	朝鮮語第Ⅲ(1) 朝鮮語第Ⅳ(1) 朝鮮語インテンシブ(1)
	01-10-63	必修 日本語(中級)	日吉	日本語(1)
	01-10-65	必修 アラビア語(中級)	日吉	アラビア語第Ⅲ(1) アラビア語第Ⅳ(1) アラビア語インテンシブ(1)
	01-20-01	選択 英語	日吉 三田	英語(1) 英語第Ⅴ(1)
	01-20-02	選択 ドイツ語	日吉 三田	ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語第Ⅴ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1) ドイツ語インテンシブ(1)
	01-20-03	選択 フランス語	日吉 三田	フランス語(1) 初級フランス語演習(1) フランス語第Ⅴ(1) フランス語インテンシブ(1)
	01-20-04	選択 中国語	日吉 三田	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)
	01-20-05	選択 スペイン語	日吉 三田	スペイン語(1) スペイン語第Ⅴ(1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-20-06	選択 ロシア語	日吉 三田	ロシア語(1) ロシア語第Ⅴ(1) ロシア語インテンシブ(1)
	01-20-10	選択 朝鮮語	日吉 三田	朝鮮語(1) 朝鮮語第Ⅴ(1) 朝鮮語インテンシブ(1)
	01-20-11	選択 ラテン語	日吉	ラテン語(1)
	01-20-12	選択 ギリシャ語	日吉	ギリシャ語(1)
	01-20-14	選択 ポルトガル語	日吉 三田	ポルトガル語(1) ポルトガル語第Ⅰ(1) ポルトガル語第Ⅱ(1)
	01-20-15	選択 アラビア語	日吉 三田	アラビア語(1) アラビア語第Ⅴ(1)
	01-20-16	選択 イタリア語	日吉 三田	イタリア語(1) イタリア語第Ⅴ(1)
	01-30-01	選択インテンシブ 英語	日吉	英語インテンシブ(1)
	01-30-02	選択インテンシブ ドイツ語	日吉	ドイツ語インテンシブ(1)
	01-30-03	選択インテンシブ フランス語	日吉	フランス語インテンシブ(1)
01-30-04	選択インテンシブ 中国語	日吉	中国語インテンシブ(1)	
01-30-05	選択インテンシブ スペイン語	日吉	スペイン語インテンシブ(1)	
01-30-06	選択インテンシブ ロシア語	日吉	ロシア語インテンシブ(1)	
01-30-10	選択インテンシブ 朝鮮語	日吉	朝鮮語インテンシブ(1)	
01-30-11	選択インテンシブ アラビア語	日吉	アラビア語インテンシブ(1)	
人文科学科目	02-20-01	選択	日吉	音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 科学史Ⅰ(2) 科学史Ⅱ(2) 科学史Ⅲ(2) 科学史Ⅳ(2) 漢文(4) 漢文Ⅰ(2) 漢文Ⅱ(2) 芸術文化論Ⅰ(2) 芸術文化論Ⅱ(2) 言語学Ⅰ(2) 言語学Ⅱ(2) 言語学Ⅲ(2) 言語学Ⅳ(2) 言語認識論(2) 国語国文(4) 国語国文Ⅰ(2) 国語国文Ⅱ(2) 社会における性Ⅰ(2) 社会における性Ⅱ(2) 宗教学(4) 宗教学Ⅰ(2) 宗教学Ⅱ(2) 人文科学特論Ⅰ(2) 人文科学特論Ⅱ(2) 人文総合講座Ⅰ(2) 人文総合講座Ⅱ(2) 地域文化論Ⅰ(2) 地域文化論Ⅱ(2) 地域文化論Ⅲ(2) 地域文化論Ⅳ(2) 哲学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 美術Ⅰ(2) 美術Ⅱ(2) 人であることⅠ(2) 人であることⅡ(2) 文学(4) 文学Ⅰ(2) 文学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 歴史Ⅰ(2) 歴史Ⅱ(2) 論理学Ⅰ(2) 論理学Ⅱ(2)
			三田	人文科学研究会Ⅰ(2) 人文科学研究会Ⅱ(2) 人文科学研究会Ⅲ(2) 人文科学研究会Ⅳ(2)
自然科学科目	03-20-01	選択	日吉	化学Ⅰ(実験を含む)(3) 化学Ⅱ(実験を含む)(3) 生物学Ⅰ(実験を含む)(3) 生物学Ⅱ(実験を含む)(3) 物理学Ⅰ(実験を含む)(3) 物理学Ⅱ(実験を含む)(3) 基礎数学Ⅰ(2) 基礎数学Ⅱ(2) 基礎統計学Ⅰ(2) 基礎統計学Ⅱ(2) 自然科学研究会Ⅰ(2) 自然科学研究会Ⅱ(2) 自然科学総合講座Ⅰ(2) 自然科学総合講座Ⅱ(2) 自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然地理学Ⅰ(2) 自然地理学Ⅱ(2) 心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2) 心理学Ⅲ(2) 心理学Ⅳ(2)
			三田	自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2) 自然科学研究会Ⅲ(2) 自然科学研究会Ⅳ(2)

情報処理科目	数学・統計	04-20-11	選択 数学系列 ※自然科学科目として算入できます	日吉	数学Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 数学Ⅲ(2) 数学Ⅳ(2)	
		三田	数学概論Ⅰ(2) 数学概論Ⅱ(2) 数学Ⅴ(2) 数学Ⅵ(2)			
		日吉	統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2) 統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2)			
	04-20-12	選択 統計系列 ※自然科学科目として算入できます	三田	統計学Ⅲ(2) 統計学Ⅳ(2) 統計学Ⅴ(2) 統計学Ⅵ(2)		
			日吉	情報処理Ⅰ(2) 情報処理Ⅱ(2) 情報処理Ⅲ(2) 情報処理Ⅳ(2) 情報処理特論Ⅰ(2) 情報処理特論Ⅱ(2) 情報処理特論Ⅲ(2) 情報処理特論Ⅳ(2) 情報処理特論Ⅴ(2) 情報処理特論Ⅵ(2) 情報処理特論Ⅶ(2)		
			三田	情報処理Ⅴ(2) 情報処理Ⅵ(2) 統計情報処理Ⅰ(2) 統計情報処理Ⅱ(2)		
	社会科学目	05-10-11	必修 社会学系列	日吉	社会学(4)	
			必修 法学系列	日吉	法学(憲法を含む)(4) 憲法(4)	
			必修 経済学・商学系列	日吉	経済原論Ⅰ(4) 経済原論Ⅱ(4)	
選択必修 法学系列			日吉	行政法(4) 刑法(4) 国際法(4) 民法Ⅰ(4)		
選択必修 経済学・商学系列			三田	経済政策Ⅰ(2) 経済政策Ⅱ(2) 財政論Ⅰ(2) 財政論Ⅱ(2) 国際経済論Ⅰ(2) 国際経済論Ⅱ(2)		
選択 社会学系列			日吉	社会心理学Ⅰ(2) 社会心理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅱ(2)		
選択 法学系列			三田	民法Ⅱ(2) 商法ⅠA(2) 商法ⅠB(2) 商法ⅡA(2) 商法ⅡB(2) 労働法Ⅰ(2) 労働法Ⅱ(2) 経済法Ⅰ(2) 経済法Ⅱ(2) 犯罪学Ⅰ(2) 犯罪学Ⅱ(2)		
選択 経済学・商学系列			三田	計量経済学Ⅰ(2) 計量経済学Ⅱ(2) 経済史Ⅰ(2) 経済史Ⅱ(2) 日本経済論Ⅰ(2) 日本経済論Ⅱ(2) 金融論Ⅰ(2) 金融論Ⅱ(2) 労働経済論Ⅰ(2) 労働経済論Ⅱ(2) 社会保障論Ⅰ(2) 社会保障論Ⅱ(2) 経営学Ⅰ(2) 経営学Ⅱ(2) 会計学Ⅰ(2) 会計学Ⅱ(2)		
政治学科目	2024年度以降入学者	07-10-01	必修基礎科目	日吉	政治理論基礎(2) 政治思想基礎(2) 日本政治基礎(2) 地域研究・比較政治基礎(2) 国際政治基礎(2)	
		2023年度以前入学者	07-10-01	必修基礎科目	日吉	政治学基礎(2)
			07-11-01	選択必修基礎科目	日吉	政治理論基礎(2) 政治思想基礎(2) 日本政治基礎(2) 地域研究・比較政治基礎(2) 国際政治基礎(2)
	07-20-01	選択・系列科目 政治思想論	日吉	政治文化論(2) 民主主義思想論Ⅰ(2)		
			三田	近代政治思想史Ⅰ(2) 近代思想史Ⅱ(2) 現代政治思想Ⅰ(2) 現代政治思想Ⅱ(2) 政治哲学Ⅰ(2) 政治哲学Ⅱ(2) 政治理論Ⅰ(2) 政治理論Ⅱ(2) 中世政治思想(2) *東洋政治思想史Ⅰ(2) *東洋政治思想史Ⅱ(2) *日本政治思想史Ⅰ(2) 日本政治思想史Ⅱ(2) 政治思想論特殊研究Ⅰ(2) 政治思想論特殊研究Ⅱ(2) 政治思想論特殊研究Ⅲ(2)		
			日吉	行政学Ⅰ(2) 行政学Ⅱ(2) 社会階層論Ⅰ(2) 社会階層論Ⅱ(2) 社会変動論Ⅰ(2) 社会変動論Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2) 現代社会理論Ⅰ(2) 現代社会理論Ⅱ(2) 地域社会論Ⅰ(2) 地域社会論Ⅱ(2) *現代オーストラリア論Ⅰ(2) *現代オーストラリア論Ⅱ(2) 政治過程論Ⅰ(2)		
			三田	アメリカの司法と政治(2) 行政学特論Ⅰ(2) 行政学特論Ⅱ(2) 現代政治理論Ⅰ(2) 現代政治理論Ⅱ(2) 公共経済論Ⅰ(2) 公共政策論Ⅱ(2) *国際コミュニケーション論Ⅱ(2) 社会階層論Ⅱ(2) 社会調査論Ⅰ(2) 社会調査論Ⅱ(2) 政治過程論Ⅰ(2) 政治過程論Ⅱ(2) 地域社会論Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅱ(2) メディア社会論Ⅰ(2) メディア社会論Ⅱ(2) 社会変動論特殊研究Ⅱ(2) 社会変動論特殊研究Ⅲ(2) *政治過程論特殊研究Ⅰ(2) ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ(2) ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅱ(2) 現代オーストラリア論特殊研究Ⅲ(2) 社会階層論特殊研究Ⅰ(2)		
07-20-02	選択・系列科目 政治・社会論	日吉	*日本外交史Ⅰ(2) 日本政治運動史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅰ(2) 近代日本政治史Ⅰ(2) 立法過程論Ⅰ(2) 古代日本政治史Ⅰ(2) 古代日本政治史Ⅱ(2) 戦後日本政治史Ⅰ(2)			
		三田	近代日本政治史Ⅰ(2) 近代日本政治史Ⅱ(2) 近代日本政党史Ⅰ(2) 近代日本政党史Ⅱ(2) 現代日本行政論Ⅰ(2) 現代日本政治論Ⅱ(2) *日本外交史Ⅱ(2) 日本行政史Ⅰ(2) 日本行政史Ⅱ(2) 日本政治運動史Ⅰ(2) 日本政治運動史Ⅱ(2) *日本政治思想史Ⅰ(2) 日本政治思想史Ⅱ(2) *日本政治思想史Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅰ(2) *マス・コミュニケーション発達史Ⅱ(2) *マス・コミュニケーション論Ⅱ(2) 近代日本政治史特殊研究Ⅰ(2) 近代日本政治史特殊研究Ⅱ(2) 近代日本政治史特殊研究Ⅲ(2) 近代日本政治史特殊研究Ⅳ(2) *政治過程論特殊研究Ⅰ(2) 日本政治論特殊研究Ⅰ(2) 日本政治論特殊研究Ⅱ(2)			

政治学 科目	07-20-04	選択・系列科目 地域研究・比較政治論	日吉	アフリカ現代史Ⅰ(2) 現代中東論Ⅰ(2) *現代中東論Ⅲ(2) 現代中国論Ⅰ(2) 中国政治史Ⅰ(2) 中国政治史Ⅱ(2) 比較地域研究論Ⅰ(2) *現代オーストラリア論Ⅰ(2) *現代オーストラリア論Ⅱ(2) 現代アメリカ論Ⅰ(2) 現代ラテン・アメリカ論Ⅰ(2) 現代ラテン・アメリカ論Ⅱ(2)
			三田	アメリカ政治史Ⅰ(2) イスラーム社会論Ⅰ(2) 現代アフリカ論Ⅰ(2) 現代アメリカ論Ⅰ(2) *現代韓国朝鮮論Ⅱ(2) 現代台湾論(2) 現代中国論Ⅱ(2) 現代中東論Ⅰ(2) 現代中東論Ⅱ(2) *現代東南アジア論Ⅰ(2) *現代東南アジア論Ⅱ(2) *現代南アジア論Ⅰ(2) *現代南アジア論Ⅱ(2) 現代ラテン・アメリカ論Ⅰ(2) 現代ロシア論Ⅰ(2) 現代ロシア論Ⅱ(2) 西洋法制史(2) 中国政治史Ⅱ(2) 中国法制史(2) *東洋政治思想史Ⅰ(2) *東洋政治思想史Ⅱ(2) *ヨーロッパ政治史Ⅰ(2) *ヨーロッパ政治史Ⅱ(2) 現代アフリカ論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅱ(2) アフリカ社会論特殊研究Ⅰ(2) アフリカ社会論特殊研究Ⅱ(2) *開発援助政策論特殊研究Ⅰ(2) *開発援助政策論特殊研究Ⅱ(2) 比較地域研究論特殊研究Ⅰ(2) *朝鮮半島と東アジア国際政治(2) 開発援助政策論Ⅰ(2) 現代オーストラリア論特殊研究Ⅲ(2) 比較地域研究論Ⅰ(2) 比較地域研究論Ⅱ(2)
	07-20-05	選択・系列科目 国際政治論	日吉	国際政治論Ⅰ(2) 国際政治論Ⅱ(2) 西洋外交史Ⅰ(2) *日本外交史Ⅰ(2)
			三田	安全保障論Ⅰ(2) *現代韓国朝鮮論Ⅱ(2) 現代国際政治Ⅰ(2) *現代東南アジア論Ⅰ(2) *現代東南アジア論Ⅱ(2) *現代南アジア論Ⅰ(2) *現代南アジア論Ⅱ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅰ(2) 現代ヨーロッパの国際関係Ⅱ(2) *国際コミュニケーション論Ⅱ(2) 国際政治経済論Ⅰ(2) 西洋外交史Ⅱ(2) *日本外交史Ⅱ(2) *ヨーロッパ政治史Ⅰ(2) *ヨーロッパ政治史Ⅱ(2) 安全保障論特殊研究Ⅰ(2) *開発援助政策論特殊研究Ⅰ(2) *開発援助政策論特殊研究Ⅱ(2) 現代国際政治特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅰ(2) *現代東南アジア論特殊研究Ⅱ(2) 国際政治論特殊研究Ⅰ(2) *朝鮮半島と東アジア国際政治(2) 開発援助政策論Ⅰ(2) 国際協力論(2)
			三田	研究会(政治学科)Ⅰ(2) 研究会(政治学科)Ⅱ(2) 研究会(政治学科)Ⅲ(2) 研究会(政治学科)Ⅳ(2) 研究会・卒業研究(政治学科)(4)
			三田	文献講読Ⅰ(2) 文献講読Ⅱ(2)
			三田	戦後世界と日本(2)
07-22-01	選択・系列科目 集中学習科目	日吉	演習Ⅰ(2) 演習Ⅱ(2)	
体育科目	08-20-01	選択・講義系	日吉	体育学講義Ⅰ(2) 体育学講義Ⅱ(2) 体育学演習(1)
	08-20-02	選択・実技系	日吉 三田	体育実技A(1) 体育実技B(1) 体育実技A(1)
択自 科目 主選	09-20-01	選択		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、人文・自然・社会科学科目に相当するもの
科目 自由	10-30-01	自由		進級および卒業要件とならない科目
	11-30-01	自由		教職課程センター設置科目

〔注意〕

政治学科目のうち、複数の分野で開講されている科目について、履修申告後の分野変更は一切認められません。履修申告の際に十分注意してください。

(例) マス・コミュニケーション論Ⅰ(日)

マス・コミュニケーション論Ⅰ(政)

シラバスに記載されている科目名の後ろの()内の表示が、その科目が属する分野を表しています。
どちらの分野で履修するかを選択のうえ、正しい登録番号で履修申告してください。

1 政治学科目の系列について

第3学年に進級すると、政治学科目系列科目の履修が中心になります。政治思想、政治・社会、日本政治、地域研究・比較政治、国際政治の5系列については、各系列2科目4単位以上の取得が課され、さらに政治学科目で合計48単位を取得しなければなりません。講義系・演習系(研究会・特殊研究)を取り混ぜながら、各自の履修を検討してください。

2 他学科・他学部の研究会履修について

政治学科(以下、自学科)以外の研究会入会を認められた場合、自学科の研究会と取扱いが異なりますので注意してください。自学科の研究会は「政治学科目系列科目」になりますが、自学科以外は、『他学科・他学部等の授業科目の一つ』として位置付けられ、「自主選択科目」になります。

3 政治学科の研究会について

政治学科では、2年連続して同一担当者の研究会に所属し、卒業論文を作成することができます。その点では2年間の継続履修が求められますが、単位としては半期毎に2単位を取得することができます。なお研究会は必修科目ではありません。よって、履修計画上、それを履修せず他の科目で補い卒業することもできます。

4 社会科学科目の選択必修科目について

「社会科学科目」群において、第3・4学年で取得しなければならない科目があります。経済学・商学系列の科目で、具体的には「国際経済論Ⅰ」「国際経済論Ⅱ」「財政論Ⅰ」「財政論Ⅱ」「経済政策Ⅰ」「経済政策Ⅱ」です。6科目のうち2科目を取得しなければなりません。

5 履修申告について

履修申告に関する最新のお知らせは、塾生サイト「履修上の注意」に掲出します。事前選抜科目や履修制限科目、履修申告時における注意など、履修申告に関する重要なお知らせになりますので、履修申告が始まる前に必ず確認してください。

卒業までに必要な単位

2024年度以降入学者用

以下の表を利用して、各自の責任において卒業に必要な単位計算を行ってください。

学期末に公開される学業成績表に記載の分野番号を基準に表を作成することをお勧めします。

分野・科目名		分野番号	卒業に必要な単位	前学期までに取得した単位
外国語科目1(必修(英語))		01-10-01 01-10-51	8	
外国語科目2(必修(英語以外))		01-10-02 ~01-10-15、 01-10-52 ~01-10-65	8	
外国語科目(選択)		01-20-01 ~01-20-16		
外国語科目(選択インテンシブ)		01-30-01 ~01-30-11		
人文科学科目		02-20-01	8以上	
自然科学科目 ※数学・統計科目も含まれます		03-20-01 04-20-11 04-20-12	8以上	
情報処理科目		04-20-13		
社会科学科目	必修	社会学	05-10-11	4
		法学・憲法	05-10-12	8
		経済原論Ⅰ・経済原論Ⅱ	05-10-13	8
	選択必修	行政法、国際法、刑法、民法Ⅰのうち1科目	05-11-12	4以上
		経済政策Ⅰ・Ⅱ、財政論Ⅰ・Ⅱ、国際経済論Ⅰ・Ⅱのうち2科目	05-11-13	4以上
	選択	社会学系列	05-20-11	
法学系列		05-20-12		
経済学・商学系列		05-20-13		
政治学科目	基礎科目 必修	政治思想基礎、政治理論基礎 日本政治基礎、 地域研究・比較政治基礎 国際政治基礎	07-10-01	10
		系列科目	政治思想論	07-20-01
	政治・社会論		07-20-02	4以上
	日本政治論		07-20-03	4以上
	地域研究・比較政治論		07-20-04	4以上
	国際政治論		07-20-05	4以上
	研究会、文献講読、演習等	07-20-06 07-20-07 07-20-08 07-22-01		
体育科目	08-20-01 08-20-02			
自主選択科目	09-20-01			
総単位		01-10-01 ~09-20-01	136以上	

基礎科目
および
系列科目合計
07-10-01
~07-22-01
計()単位
※48単位以上必要

※前学期までに取得した単位数は学業成績表(Web閲覧)で確認のうえ記入してください。

※自由科目(分野:10-30-01と11-30-01)は卒業の単位には含まれないのでこの確認表に記載欄はありません。

卒業までに必要な単位

2023 年度以前入学者用

以下の表を利用して、各自の責任において卒業に必要な単位計算を行ってください。

学期末に公開される学業成績表に記載の分野番号を基準に表を作成することをお勧めします。

分野・科目名		分野番号	卒業に必要な単位	前学期までに取得した単位
外国語科目 (必修)		01-10-01 ～01-10-65	16	
外国語科目 (選択)		01-20-01 ～01-20-16		
外国語科目 (選択インテンシブ)		01-30-01 ～01-30-11		
人文科学科目		02-20-01	8 以上	
自然科学科目 ※数学・統計科目も含まれます		03-20-01 04-20-11 04-20-12	8 以上	
情報処理科目		04-20-13		
社会科学科目	必修	社会学	05-10-11	4
		法学・憲法	05-10-12	8
		経済原論Ⅰ・経済原論Ⅱ	05-10-13	8
	選択必修	行政法、国際法、刑法、民法Ⅰのうち1科目	05-11-12	4 以上
		経済政策Ⅰ・Ⅱ、財政論Ⅰ・Ⅱ、国際経済論Ⅰ・Ⅱのうち2科目	05-11-13	4 以上
	選択	社会学系列	05-20-11	
		法学系列	05-20-12	
		経済学・商学系列	05-20-13	
	政治学科目	基礎科目	必修 政治学基礎	07-10-01
選択必修 政治思想基礎、政治理論基礎 日本政治基礎、 地域研究・比較政治基礎 国際政治基礎			07-11-01	6 以上
系列科目		政治思想論	07-20-01	4 以上
		政治・社会論	07-20-02	4 以上
		日本政治論	07-20-03	4 以上
		地域研究・比較政治論	07-20-04	4 以上
		国際政治論	07-20-05	4 以上
		研究会、文献講読、演習 等	07-20-06 07-20-07 07-20-08 07-22-01	
体育科目		08-20-01 08-20-02		
自主選択科目		09-20-01		
総単位		01-10-01 ～09-20-01	136 以上	

基礎科目
および
系列科目合計
07-10-01
～07-22-01
計()単位
※ 48 単位以上必要

※前学期までに取得した単位数は学業成績表 (Web 閲覧) で確認のうえ記入してください。

※自由科目 (分野: 10-30-01 と 11-30-01) は卒業の単位には含まれないのでこの確認表に記載欄はありません。

學習指導要項 共通

所属学科時間割にない科目の履修

1 A欄申告・B欄申告

(1) A欄申告

自分が所属している学科の時間割に記載されている科目を履修申告する場合は、分野を指定しなくても、時間割に記載されている科目を選択（または5ケタの登録番号を指定）して登録するだけで自動的に各分野へ算入されます（以下の一覧表にある一部の科目を除く）。

例えば自分が所属している学科の時間割に掲載されている「文学Ⅰ」を履修する場合、その科目を選択（または登録番号である12345を入力）して登録すれば自動的に「人文科学科目」として分野が決まります。こうした申告を「A欄申告」と言います。

(2) B欄申告

他学科・他学部設置科目、選択外国語科目（ただしインテンシブコースの選択科目はA欄申告）、一部の研究所等設置科目を履修申告する場合には、科目の選択だけではなく、それぞれの分野を表す分野番号も申告しなければなりません。こうした申告を「B欄申告」と言います。

B欄申告を行う場合は、2ケタのB欄分野番号を申告する必要があります。分野番号は下記の「2 所属学科時間割にない科目の取り扱い」の表にある「B欄申告する際の分野番号」2ケタを選択し、間違いのないように履修申告してください。

2 所属学科時間割にない科目の取り扱い

設置科目の種類		B欄申告する際に 選択する分野番号	分野の扱い	備考
法律学科生が履修する 政治学科設置科目	社会科学科目 政治学科目	B77	自主選択科目	
	必修科目	B99	自由科目	
政治学科生が履修する 法律学科設置科目	社会科学科目 法律学科目	B77	自主選択科目	※「社会学Ⅰ・Ⅱ」「政治学Ⅰ・Ⅱ」「経済学Ⅰ・Ⅱ」「近代思想史Ⅰ・Ⅱ」については自由科目（B99）で申告してください。
	必修科目	B99	自由科目	
他学部設置科目		B77	自主選択科目	※必修科目は履修不可 ※「社会学Ⅰ・Ⅱ」「政治学Ⅰ・Ⅱ」「経済学Ⅰ・Ⅱ」「近代思想史Ⅰ・Ⅱ」については自由科目（B99）で申告してください。
必修以外で履修する外国語（第三外国語等）		B01英語 B02ドイツ語 B03フランス語 B04中国語 B05スペイン語 B06ロシア語 B10朝鮮語 B11ラテン語 B12ギリシャ語 B14ポルトガル語 B15アラビア語 B16イタリア語	選択外国語科目	※履修方法については、「法学部外国語科目履修案内」を参照。
GIC センター設置科目		B77	自主選択科目	
外国語教育研究センター	特設科目	—(A欄申告)	選択外国語科目	※外国語教育センター設置科目で必修の単位として認められる科目については、「法学部外国語科目履修案内」を参照。
	オープン科目			
学生総合センター設置科目		B99	自由科目	
教職課程センター設置科目		B95	教職課程設置科目	※教職課程設置科目は進級の単位には含まれません(自由科目と同等の扱いになります)。
教養研究センター設置科目		—(A欄申告)	自主選択科目	
グローバルリサーチ インスティテュート設置科目	MUFG 寄附講座	—(A欄申告)	自主選択科目	
	上記記載の科目以外		自由科目	
言語文化研究所設置科目	朝鮮語 アラビア語	—(A欄申告)	選択外国語科目	※詳細は「講義要綱・シラバス」を参照。
	その他		自主選択科目	
国際センター設置科目	春季・夏季講座	—(A欄申告)	自主選択科目	
	その他の講座	—(A欄申告)	自主選択科目	
体育研究所設置科目(体育)		—(A欄申告)	体育科目	
福澤研究センター設置科目		—(A欄申告)	自主選択科目	
保健管理センター設置科目		—(A欄申告)	自主選択科目	
教学マネジメント推進センター設置 「データサイエンスと人工知能」		—(A欄申告)	自主選択科目	
メディア・コミュニケーション研究所設置科目		※どの科目がどの分野になるかは次ページで確認してください。		

※いずれの科目も「自由科目」として履修する場合の分野番号はB99を選択してください。但し、その場合、卒業単位、進級単位には含まれません。

メディア・コミュニケーション研究所設置科目の履修取り扱い

B欄申告を指定されている場合は、記載の分野番号を選択してください。

設置	科目名	法律2年	政治2年	メディアコム研究生		法律3・4年	政治3・4年
				法律2年	政治2年		
三田	マス・コミュニケーション論Ⅱ (法学部併設)	履修不可		(B欄：B77) 自主選択科目	(B欄：B99) 自由科目	(B欄：B55) 展開科目 (他学科・他学部)	(A欄) 政治・社会論系列 か日本政治論系列 のいずれか
三田	国際コミュニケーション論Ⅱ (法学部併設)						(A欄) 政治・社会論系列 か国際政治論系列 のいずれか
三田	メディア社会論Ⅰ・Ⅱ (法学部併設)						(A欄) 政治・社会論系列
三田	研究会Ⅰ～Ⅵ			※ (B欄：B77) 自主選択科目 もしくは (B欄：B99) 自由科目	※ (B欄：B77) 自主選択科目 もしくは (B欄：B99) 自由科目	※ (A欄) 展開科目 (他学科・他学部) もしくは (B欄：B99) 自由科目	※ (A欄) 自主選択科目 もしくは (B欄：B99) 自由科目
三田	その他の三田設置科目			(B欄：B77) 自主選択科目	(B欄：B77) 自主選択科目	(A欄) 展開科目 (他学科・他学部)	(A欄) 自主選択科目
日吉	文章作法Ⅰ・Ⅱ			(B欄：B77) 自主選択科目	(B欄：B77) 自主選択科目	(A欄) 自主選択科目	
日吉	時事英語Ⅰ・Ⅱ						

※展開科目または自主選択科目として履修できるのは、研究会Ⅰ～Ⅵを通じて4単位までです。4単位を超えて履修する場合は自由科目として申告してください。

設置	科目名	法学部1・2年生	法学部3・4年生
日吉	ジャーナリズム論Ⅰ	(B欄：B77) 自主選択科目	(A欄) 自主選択科目

・下記の科目は「政治学科の時間割」の登録番号で履修申告してください。メディア・コミュニケーション研究所の登録番号では申告しないでください。

設置	科目名	法律2年	政治2年	メディアコム研究生		法律3・4年	政治3・4年
				法律2年	政治2年		
日吉	マス・コミュニケーション論Ⅰ (法学部併設)	(B欄：B77) 自主選択科目	(A欄) 政治・社会論系列 か日本政治論系列 のいずれか	(B欄：B77) 自主選択科目	(A欄) 政治・社会論系列 か日本政治論系列 のいずれか	(B欄：B55) 展開科目 (他学科・他学部)	(A欄) 政治・社会論系列 か日本政治論系列 のいずれか
日吉	社会心理学Ⅰ・Ⅱ (法学部併設)	(B欄：B77) 自主選択科目	(A欄) 社会科学科目	(B欄：B77) 自主選択科目	(A欄) 社会科学科目	(B欄：B77) 自主選択科目	(A欄) 社会科学科目

3 【留学生】日本語の履修について

外国人留学生としての入学者は、必修外国語科目として、「英語」と「日本語」を履修しますが、「日本語」を履修申告する際はB欄申告になります。以下の分野番号を選択してください。

1年生： B13 外国語科目必修日本語(初級)

2年生： B63 外国語科目必修日本語(中級)

自然科学科目（実験を含む）の履修

自然科学科目（実験を含む）には「化学Ⅰ（実験を含む）」「化学Ⅱ（実験を含む）」「生物学Ⅰ（実験を含む）」「生物学Ⅱ（実験を含む）」「物理学Ⅰ（実験を含む）」「物理学Ⅱ（実験を含む）」があります。実験（隔週）を伴うため、2時限連続の授業となっています。ひとつの開講時限に複数の科目が同時開講されていますが、すべての担当教員のどの時限（一覧にない医学部・理工学部設置科目を除く）でも履修することができます。詳細は『時間割』の「自然科学科目（実験を含む）の授業時間割〈参考〉」をご覧ください。また、半期ごとの履修が可能です。担当教員によっては通年で履修を勧めている場合があります。Web上の「シラバス・時間割」（本書 p. 8 参照）と「自然科学科目（実験を含む）の履修について」（塾生サイト）をよく読んで、履修申告を行ってください。

■自然科学科目（実験を含む）の履修について（塾生サイト）

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/rishuguide.html>

■「自然科学科目（実験を含む）」ポータル（K-LMS）

<https://lms.keio.jp/courses/10626>



これらの Web ページでは、以下のような自然科学科目の履修申告に関する重要な情報が掲示され、随時更新されます。履修申告にあたっては必ず閲覧してください。

【実験費】

履修登録取消期間後、実験費（1科目・半期ごと 2,000 円）を所定の期日までに納付する必要があります。Web システムで履修登録をしても実験費が期日までに納付されない場合には、当該科目の成績評語は **D（不合格）** となります。期日・納付方法は上記 Web ページや K-Support のメッセージでの案内に従ってください。なお、一度納付した実験費は返金されません。

【抽選・選考】

適正規模で実験を行うために、受け入れることのできる人数には制限があります。受け入れ可能人数を超過した場合には、抽選や選考を行う場合があります。選考の参考として、事前アンケート等を行う科目があります。詳細は、上記 Web ページや「シラバス・時間割」を確認してください。

実技実施場所、講義・演習科目教室の変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、体育研究所 Web ページ (<https://ipe.hc.keio.ac.jp/>) に掲載します。履修者は常に掲示に注意してください。



現在運動に制限がある治療中の病気・怪我がある場合は、体育実技を履修することができない可能性があります。その場合は事前に必ず体育研究所学習指導担当教員と相談してください。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、日吉学生部諸研究所窓口に申し出た上で、体育研究所学習指導担当教員と相談してください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義Ⅰ・Ⅱ」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の 4 科目があります。学部、学科によって科目の取り扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部の履修案内をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しい授業内容については、Web 上の「シラバス・時間割」を参照してください。

体育学講義、体育学演習、体育実技 A は S～D の 5 段階評価、体育実技 B は P (合)・F (否) (Pass/Fail) の 2 段階評価となります。

- | | |
|--------------|---|
| (1) 体育学講義Ⅰ・Ⅱ | (2 単位)……「身体」「健康」「運動」等に関する講義 |
| (2) 体育学演習 | (1 単位)……講義+実習による演習形式の授業、特定のテーマを深めるゼミ形式の授業 |
| (3) 体育実技 A | (1 単位)……「身体活動」実技
ウィークリー・スポーツ |
| (4) 体育実技 B | (1 単位)……「身体活動」実技
シーズン・スポーツ |

実技科目には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。「体育実技 A」は、ウィークリー・スポーツ、「体育実技 B」はシーズン・スポーツとなります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ……週 1 回実施の授業。

※ 4 学期制科目は、春学期前半、秋学期前半・後半に開講され、週 1 回の授業のほかにも実施日 (日曜日を含む) が設定されています。

シーズン・スポーツ………夏季休校中 (8 月～9 月) または春季休校中 (2 月) の 7 日間の授業。ただし合宿種目は原則として 3 泊 4 日。

3 体育科目履修申告までの流れ

3 月下旬

体育科目ガイダンス

ガイダンスはオンラインで実施します。詳細は体育研究所 Web ページ (<https://ipe.hc.keio.ac.jp/>) でお知らせします。

4月4日(土)
～9日(木)

【重要】定期健康診断を受診

実技科目・体育学演習を履修する場合は、大学保健管理センターが実施する定期健康診断を受診することが必須です。秋学期開講科目（実技・演習）の履修を検討している場合も、この期間に必ず受診してください。なお、健康診断は毎年受診する必要があります。

Webシステムで履修登録をしても定期健康診断未受診の場合には、当該科目の受講は認められず、成績評語はDまたはF（不合格）となります。外部医療機関で健康診断を受診しても、実技科目・体育学演習の履修においては認められません。

詳細は体育研究所 Web ページ (<https://ipe.hc.keio.ac.jp>) で確認してください。

【春学期 履修申告】

4月3日(金)
12:30
～6日(月)
16:00

Webによる履修申告期間（一次申告）

4月7日(火)
16:00
～15日(水)
10:00

Webによる履修申告期間（二次申告）

Webシステムによる履修申告が必要です。各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。初回授業当日に調整を行う科目については、詳細を塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)に掲載します。必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23：59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。調整結果は、keio.jpのメールアドレスに通知されますので、必ず確認してください。

初回授業当日に調整を行わない科目が履修定員を超えた場合、二次申告期間終了後に抽選を実施することがあります。

4月20日(月)
16:00～

履修申告科目確認期間

K-Supportの「登録済科目確認」から登録科目一覧画面を印刷し、必ず内容を確認してください。この確認を怠り、エラー修正を所定期間に行わなかった等の場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。

4月21日(火)
8:45
～22日(水)
16:00

履修エラー修正期間

所属学部からの指示に従い、修正を行ってください。Webシステムによるエラー修正はできません。

- (1) 所属学部から履修申告の不備を指摘された場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 履修申告に不備がある場合を除き、すでに登録済の科目の削除は履修エラー修正期間では認められませんので、注意してください。

【秋学期 履修申告】

9月25日(金) 12:30 ~28日(月) 16:00	Webによる履修申告期間（一次申告）
---------------------------------------	--------------------

9月29日(火) 16:00 ~10月8日(木) 10:00	Webによる履修申告期間（二次申告）
---	--------------------

Webシステムによる履修申告が必要です。各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。初回授業当日に調整を行う科目については、詳細を塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)に掲載します。必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23：59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。調整結果は、keio.jpのメールアドレスに通知されますので、必ず確認してください。

初回授業当日に調整を行わない科目が履修定員を超えた場合、二次申告期間終了後に抽選を実施することがあります。

10月14日(水) 16:00~ (予定)	履修申告科目確認期間 K-Supportの「登録済科目確認」から登録科目一覧画面を印刷し、必ず内容を確認してください。 この確認を怠り、エラー修正を所定期間に行わなかった等の場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。
-----------------------------	--

10月15日(木) 8:45 ~16日(金) 16:00	履修エラー修正期間 所属学部からの指示に従い、修正を行ってください。Webシステムによるエラー修正はできません。
---------------------------------------	---

- (1) 所属学部から履修申告の不備を指摘された場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 履修申告に不備がある場合を除き、すでに登録済の科目の削除は履修エラー修正期間では認められませんので、注意してください。

4 実技費用納入が必要な科目について

以下の科目については、指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目

(ウィークリー・スポーツ) バックカントリースキル

(シーズン・スポーツ) マリンスポーツアクティビティ、ビーチバレー、セーリング、山岳、アウトドアレクリエーション、スキー、スケート

科目	実技費用納入期間	納入方法
マリンスポーツアクティビティ ビーチバレー セーリング 山岳 アウトドアレクリエーション	6月3日(水)～6月5日(金)	納入方法は K-Support メッセージでの案内に 従ってください。
バックカントリースキル (カヤック)	10月8日(木)～10月9日(金)	
バックカントリースキル (バックパッキング) スキー スケート	11月4日(水)～11月6日(金)	

上記科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は、日吉学生部諸研究所窓口に出してください。

申し出なく期間内に納入しなかった場合は、不合格とします。

5 履修登録取消について

一旦履修登録した科目(履修確定された科目)の履修を所定期間に申告手続きを取るにより取り消すことができます。詳細については、前述の「第3 履修申告までの流れ」(本書 p. 17 「履修登録取消制度について」)を参照してください。

ただし、体育実技B(シーズン・スポーツ)は、以下のとおり取消期間と手続き方法が異なりますので注意してください。

◆体育実技B(シーズン・スポーツ)

受付期間	種目	手続方法
履修確定日の翌日 ～5月29日(金)	マリンスポーツアクティビティ ビーチバレー セーリング 山岳 アウトドアレクリエーション	所属学部窓口で申告
履修確定日の翌日 ～10月30日(金)	スキー、スケート	所属学部窓口で申告

原級などの理由により同一学年に3学期以上在学（休学の期間は含まない）した場合は、進級した直後の学期終了後に進級・卒業の対象者となります。これを「復活制度」といいます。進級直後の学期に限り、前学年で取得した単位数のうち30単位を超える分が進級に必要な単位として繰り越されます。ただし、進級直後の学期において原級した場合、繰り越した分の単位は進級単位に含まれなくなります。

(例1)

	春学期 (4/1~9/21)	秋学期 (9/22~3/31)
2023年度	1年生	1年生
2024年度	1年生（進級）	2年生（復活制度により進級）
2025年度	3年生	3年生
2026年度	4年生	4年生（卒業）

2023年度1年間1年生に在学し、28単位の単位取得のため原級になりました。

翌2024年度の春学期に10単位を取得しました。1年生を通じて合計38単位取得できたので、秋学期から2年生になりました。秋学期に24単位取得できたので、1年生時に30単位を超えて取得した8単位分を加算して2025年度春学期から3年生になりました。

(例2)

	春学期 (4/1~9/21)	秋学期 (9/22~3/31)
2023年度	1年生	1年生
2024年度	2年生	2年生
2025年度	3年生	3年生
2026年度	3年生	4年生（復活制度により卒業）

2025年度1年間3年生に在学し、28単位の単位取得のため原級になりました。

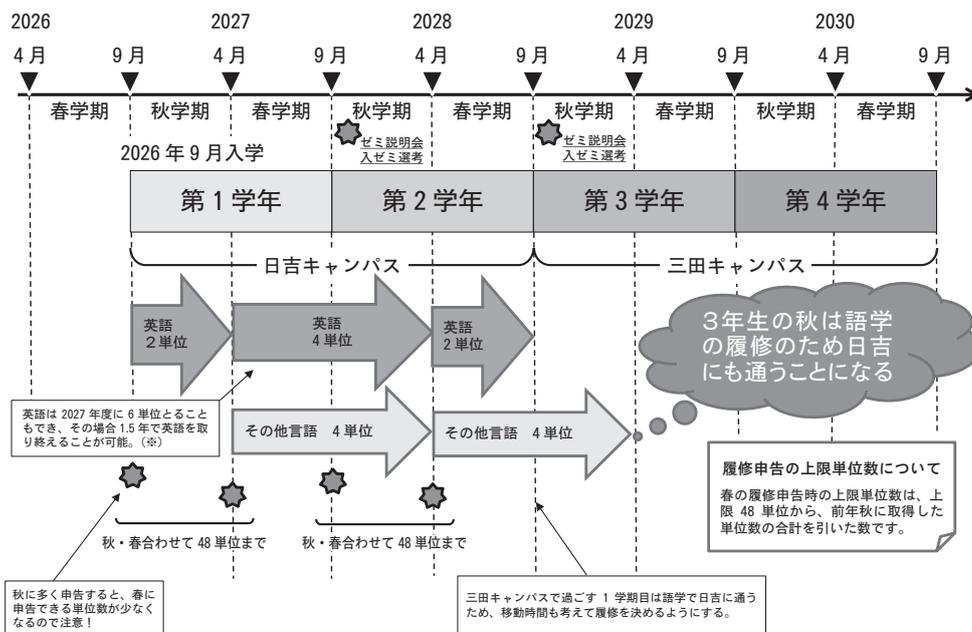
翌2026年度の春学期に10単位を取得しました。3年生を通じて合計38単位取得できたので、秋学期から4年生になりました。秋学期終了時点で卒業に必要な単位を満たしたので、2026年度秋学期終了時に卒業になりました。

第5 秋学期入学者への注意

進級・卒業条件の大枠については、p. 26（法律学科）、p. 41（政治学科）を参照してください。特に以下の点に注意し、不明の点は、必ず学生部法学部窓口を確認してください。

〔2026年度秋学期入学者の場合〕

- 第1学年前半時（2026年秋）は、所属学科時間割に掲載されている科目のうち、秋学期から履修申告可能な科目を履修できる。1年生の必修科目を優先的に履修することを強く勧める。申告できる履修科目の上限は、48単位。
- 第1学年後半時（2027年春）は、2年の専門必修・選択必修科目を除く春学期科目（通年・セット科目含む）の履修ができるが、その際に、学則にある履修上限の関係から、前年度の秋に取得した単位数と当年度春に履修申告する春学期科目の合計単位数が、48単位を超えないように注意すること。
- 第2学年前半時（2027年秋）に2年に進級した場合は、2年の専門必修・選択必修科目を含む秋学期科目の履修を行う。その際、第2学年時に履修申告する科目の合計単位数、すなわち、秋学期に新たに履修申告する科目の単位数と、翌春（2028年春）第2学年後半時に履修申告する科目の春学期分の単位数の合計が、48単位を超えることができないので、2027年秋学期だけで単位を取りすぎないように、注意すること。なお、2027年春に通年科目や春秋セット科目（これらは法学部には開講されていない）を履修した場合、秋学期分の単位は2027年秋の履修単位として計算されるので注意すること。
第3学年に進級後も、履修上限について同様の取り扱いとなる。（ただし同一学年に休学・留学・原級等の理由で3学期以上在籍することになった場合には取扱いが異なるため、学生部に相談すること。）
- 三田設置の研究会は、法律学科の場合、第2学年後半時（2028年春）から履修を認めるものと、第3学年後半（2029年春）から履修を認めるものがある。第2学年前半時（2027年秋）に研究会説明会が行われるので、Web等に注意し、その点について確認しておくこと。一方、政治学科の研究会は第2学年後半時から履修する。
また副専攻認定制度（本書p. 76参照）と関係のある、人文科学研究会や自然科学研究会は、原則として第2学年後半時から履修する。政治学科研究会、人文科学研究会、自然科学研究会も、秋に研究会説明会が行われるので、注意しておくこと。
- 三田設置の研究会を第2学年後半時（2028年春）から履修した場合、三田と日吉の両方に通うことになり、いささか負担が増える。また、第3学年前半時（2028年秋）も、外国語の取得単位が卒業要件に達しない等の理由により、三田と日吉の両方に通う可能性が高いので、それぞれ心積もりをしておくこと。
- 英語は2027年度に6単位とすることもでき、その場合1.5年で英語を取り終えることが可能。詳しくは下表をご確認ください。
- 上の記述は、留年せずに無事進級することを、前提としている。進級できなかった場合は、履修案内の「復活制度」の項を読んだ上で、学生部法学部窓口にご相談すること。



(※) 〈英語：レギュラーコースの場合〉 … () は単位数

	第1学年		第2学年	
	2026秋	2027春	2027秋	2028春
2年間のパターン	英語第Ⅰ (1)	英語第Ⅲ (1)	英語第Ⅲ (1)	英語第Ⅲ (1)
	英語第Ⅱ (1)	英語第Ⅲ (1)	英語第Ⅲ (1)	英語第Ⅲ (1)
1.5年間のパターン	英語第Ⅰ (1)	英語第Ⅲ (1)	英語第Ⅲ (1)	
	英語第Ⅱ (1)	英語第Ⅲ (1)	英語第Ⅲ (1)	
		英語第Ⅲ (1)	英語第Ⅲ (1)	

学習指導要項 その他

第1 授業・レポート・試験

1 授業

(1) 授業振鈴表

授業振鈴表は巻頭に掲載してあります。

(2) 代替講義日・休日の授業

休祝日の増加や、振替休日、早慶野球戦等のため、授業回数が減少する傾向にあります。授業回数の確保と全曜日開講日数の平準化を図るために代替講義日・休日の授業が設けられています。

【代替講義日】 実際の曜日に関わらず、各曜日の授業が行われます。

[春学期] 代替講義日 なし

[秋学期] 月曜代替講義日 1月8日(金)

【休日の授業】

開校記念日：4月23日(木)、昭和の日：4月29日(水)、海の日：7月20日(月)、

スポーツの日：10月12日(月)、文化の日：11月3日(火)

【休日の試験】

なし

(3) 補講日

実際の曜日に関わらず、担当教員が必要であると判断した場合、補講日に補講を行うことがあります。補講実施科目については Web 等で確認してください。

[春学期] 6月4日(木)、6月5日(金)、7月18日(土)

[秋学期] 11月18日(水) 1・2時限、11月26日(木)、2027年1月23日(土)

※6月4日(木)・5日(金) および11月18日(水) 1・2時限・26日(木)には、4学期制科目の各学期前半科目定期試験が行われる場合があります。

2 緊急時における授業の取扱い

塾生サイトより最新の情報を確認してください。

【日吉】 緊急時における授業等の取扱い

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/schedule/emergency.html>



3 早慶野球戦が行われる場合の授業の取扱い

早慶戦当日の休講取扱いは、塾生サイトより最新の情報を確認してください。

早慶戦における授業の取扱い

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/schedule/sokei.html>



4 裁判員候補者に選定された場合の取扱い

慶應義塾大学は、いわゆる「公欠」という考え方をとっていません。裁判員候補者に選定され、授業の出欠に迷う場合は、日吉学生部所属学部窓口にご相談してください。なお、授業の性質上欠席が認められない場合があります。

5 障害学生支援(合理的配慮)

慶應義塾大学は障害のある学生が、他の学生と同様・同等な教育を受けることができるように必要な修学機会の確保に向けた、支援内容や方法の提供に努めます。支援の対象となるのは、慶應義塾大学の学部・研究科に所属する学生です。

また、支援の内容は、当該学生の障害の内容によって異なりますが、本人からの申し出を起点とし、必要となる支援の内容と大学が提供できる支援の内容を、建設的な話し合いの場において都度すり合わせを行い、支援の内容(合理的配慮の提供)を決定します。申し出から配慮内容決定までには1ヵ月程度の期間を要し、配慮の提供は提供内容の決定後、配慮内容が科目担当者に共有された時点から始まります。遡及することはありません。

また、合理的配慮の継続を希望する場合は、学期ごとの申請が必要となります。

申請手続き等の詳細は協生環境推進室 Web ページを参照してください。
<https://www.diversity.keio.ac.jp/bf/index.html>



※合理的配慮とは：「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（2013 年）の第七条において、「障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をしなければならない」と規定されていることに鑑み、必要な対応を行うことを「合理的配慮の提供」と定義しています。

6 レポート

レポートを提出する場合は以下を厳守してください。

- (1) 指定された期間に指定された方法で提出してください。
- (2) オンラインでレポートを提出する場合、提出期限直前は通信トラブルが発生しやすくなります。期限に余裕を持って提出するようにしてください。
- (3) 本書 p. 67 「レポート・論文の執筆上の注意」を参照してください。

7 定期試験

春学期と秋学期の各学期末に定期試験があります。

※定期試験時間割、持ち込み指示、受験に関する注意事項等、詳細は塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/exam/index.html>) や K-Support (「Apps」→「授業」→「試験時間割」) で必ず確認してください。これらの追加・変更については、その都度発表します。試験情報は、一度確認するだけでなく、定期試験前にも再度確認してください。

- (1) 試験期間
 - 春学期末定期試験 7月22日(水)～7月31日(金) (予定)
 - 秋学期末定期試験 1月26日(火)～2月5日(金) (予定)
- (2) 注意事項
 - ①学生証
 - ・学生証を携帯せずに試験を受けることは一切認められません。受験に際しては、学生証を必ず携帯し、提示してください。
 - ・試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、日吉学生部総合受付で必ず「仮学生証」の交付を受けてください(発行手数料500円、発行当日限り全キャンパスで有効、メディアセンター入館も可)。
 - ・仮学生証発行手続きにより、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
 - ②不正行為
 - ・不正行為およびそれと誤認されるような行為のないよう、真摯な態度で試験に臨んでください。
 - ・答案は必ず提出しなければなりません。
 - ・カンニング、許可されていない物の持ち込み、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合は、**不正行為とみなされ学則第188条により厳重に処分されます。**
 - ③定期試験の実施時間
 - ・巻頭の定期試験振鈴表を参照してください。定期試験の振鈴時刻、試験時間は授業時と異なります。また、定期試験の振鈴はキャンパスによって異なりますので注意してください。
 - ・定期試験時間は原則50分です。特に指定のない限りこの時間で実施しますが、試験時間の異なる科目もあります。定期試験時間割で確認してください。
 - ④遅刻
 - ・試験開始鈴後、20分までの遅刻は、試験を受験することができます。ただし、試験時間の延長はありません。なお、遅刻理由が電車遅延等、追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するか、それとも追加試験を受験するかは、本人の判断で選択することができます。電車遅延等による遅刻で試験開始鈴後20分以内に入室した場合は追加試験の対象とはなりません。なお、交通機関の遅れによる追加試験の申込受付は原則として当日中に限ります。
 - ⑤退室
 - ・試験開始後は途中退室を認めません。
 - ⑥答案用紙
 - ・担当者、科目名、および学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がないと成績はつきません。
- (3) その他
 - 外国語科目や演習科目のように、授業への参加度・授業内試験・レポート等によって評価の定まる科目等、定期試験期間内に試験を実施しない科目があります。科目毎の評価方法・基準は、授業内での説明およびWeb上の「シラバス・時間割」(本書 p. 11 参照) に示されています。授業内試験やレポートにおいて不正行為があった場合、定期試験同様に処分の対象になります。

8 追加試験

病気や不慮の事故等、やむを得ない理由で定期試験を受けることのできなかった者に対して行われる試験です。対象科目は、定期試験期間内に行われた試験科目です（ただし外国語科目を除く）。受験する場合は、所定の手続きが必要です。手続方法は試験時間割発表の際、塾生サイトで指示しますが、病気の場合は診断書、電車の遅延の場合は遅延証明が必要となりますので、注意してください。受験料は1科目2,000円です（ただし電車の遅延の場合を除く）。

春学期末追加試験 8月8日（土）、8月10日（月）、8月12日（水）（予定）

秋学期末追加試験 2月下旬（予定）

※定期試験期間中、試験時間内に試験教室に入室していた場合や試験開始後に体調不良などの理由で途中退出する場合は、当該科目の追加試験の受験は認められません。

※追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。（ただし、定期試験の時間割が重複した場合、電車の遅延が証明された場合、公認会計士試験のような国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、二親等以内の葬儀の場合はこの限りではありません。）

9 不正行為について

定期試験、授業内試験、レポート、授業中に行われる小テスト等における不正行為は、学生の本分にもとるきわめて悪質な違反であり、学則第188条および法学部内規により厳しく処分されます。原則として、当該科目が不合格になるだけでなく、その学期に履修し、合格した他の全科目についても評価を1ランク下げる措置がとられます。場合によっては氏名が公表され、停学・退学の処分を受けることもあります。

定期試験、授業内試験（小テスト）で不正行為とみなされる行為には以下のようなものがあります。

- ・カンニング
- ・代筆
- ・答案用紙の持ち帰り
- ・試験監督者の指示に従わない行為
- ・スマートフォン、時計型端末の使用・着用、その他、許可されていないものの持ち込み

また、試験に臨む時は、不正行為と誤認されるような紛らわしい態度を取らないようにしなければなりません。

レポートにおいては、担当教員による特別な指示（グループワークや共同研究）がある場合を除き、成績評価の対象となるレポートを他の人と協力して作成することは不正行為とみなされます。具体的には以下の行為が含まれます。

- ・他の人と協力してレポートを作成すること
 - ・部分的であれ、他の人のレポートを写すこと、また他の人にレポートを見せること
 - ・他の人のレポートファイルをもとに文言を修正して自らのレポートを作成すること
 - ・他の人にレポートを作成してもらうこと
 - ・他の人のレポートを作成すること
 - ・部分的であれ、他の人の過去のレポートを写すこと、また他の人へ過去のレポートを提供すること
- なお、レポートの内容に関して不正行為とみなされる行為には、上記の他にも以下のようなものがあります。
- ・代筆
 - ・盗用（または剽窃）：活字媒体やWebサイト等に掲載された他人の文章や資料、自分*が別の機会に作成した文章や資料などを出典を示さずにそのまま使うこと
 - *自分が過去に書いた文章や公表した研究成果を、出典等を示さずに使うことを自己盗用と言います。自分の過去のレポートやゼミでの公表物を、引用、出典を示さずに他の授業のレポートに用いたり、そのまま提出したりすると不正行為とみなされます。もちろん、同じ内容のレポートを同時に複数の授業の課題として提出することも不正行為です。
 - ・改ざん：主張の根拠となる資料やデータを故意に書き換えて使用すること
 - ・ねつ造：実際には存在しない資料やデータをあたかも存在するように偽って使用すること
 - ・担当教員が認めた範囲を超えて生成AIを使用すること
 - ・その他これらに類する行為

レポートや論文におけるこれらの行為は不正行為であり、自分で意図したものではなくても、定期試験、授業内試験での不正行為と同等のあるいはより深刻な処分の対象となります。

ChatGPT 等生成 AI の使用について

各授業科目において、学部・研究科や担当教員が生成 AI の利用を奨励もしくは許可する場合には、当該教員等が示す方針のもとで適正に活用してください。ただし、生成 AI を利用してレポート等を作成した場合には、その旨を明記する必要があります。

なお、生成 AI の利用は他者の力を借りることと同じ意味を持ちます。各授業科目における課題や試験等に関して、独力で取り組むことが求められている場合には、生成 AI を利用することは認められません。

参考：慶應義塾における生成 AI の利用ガイドライン（情報センター）

https://www.itc.keio.ac.jp/ja/software_ai_guideline.html



レポート・論文の執筆上の注意

レポートや論文（卒業論文を含む）の執筆・提出は、定期試験、授業内試験と並んで大学での勉学の成果の証となる重要なものです。

自分の文章で自分の考えを述べることが必須であり、ウェブサイトや文献、他者のレポートから抜粋、丸写ししたものを提出することは許されません。担当教員から他の学生と共同で作成するよう指示がある場合を除き、執筆は一人で行ってください。文献等から得た情報をレポートや論文に載せる場合には、自分の考えと明確に区別するために、出典を明示することが必要です。自分が過去に書いた文章や公表した研究成果についても、出典等を示さずに用いることは許されません。また、同じ内容のレポートを同時に複数の授業の課題として提出することも許されません。これらの不適切なレポートや論文は剽窃や盗用（自分の成果の場合は自己剽窃、自己盗用）と判断され、不正行為として処分の対象となります。

以下に重要なポイントを挙げておきます。

1. 自分の意見や考えとそれ以外の部分を明確に分ける。
2. 他人の文章や見解などを参照・引用する場合は必ず出典（文献名と著者およびページ、ウェブサイトの場合には URL とページタイトル、およびその取得日）を明らかにする。
3. 自分が過去に書いた文章や研究成果についても、2. と同様に出典を明らかにする。
4. 文言を引用するときは、誤字も含めて一字一句正確に引用する。
5. 参考にした文献やウェブサイトがある場合には、2. と同様に必ず参考資料として（文献名、著者、ページ、ウェブサイトの場合には URL とページタイトル、およびその取得日）を記載する。
6. 出典の示し方はルールに従う（下記の文献も参照のこと）。

佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦著『アカデミック・スキルズ（第3版）——大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会、2020年）

井下千以子著『思考を鍛えるレポート・論文作成法 [第3版]』（慶應義塾大学出版会、2019年）

河野哲也著『レポート・論文の書き方入門（第4版）』（慶應義塾大学出版会、2018年）

桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング [改訂版]』（実教出版、2015年）

野口悠紀雄著『「超」文章法』（中公新書、2002年）

情報リテラシーのためのウエブチュートリアルシステム『KITIE』（慶應義塾大学日吉メディアセンター、2022年）

<https://www2.lib.keio.ac.jp/project/kitie/>

第2 学籍 (休学・退学・留学)

1 休学 (学部学則第 152 条)

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合は、学部教授会の許可を得て休学することができます。休学は学期単位で認められます。休学期間は進級・卒業に必要な在学年数には算入しません。

休学希望者は、K-Support の「申請」機能から詳細を確認の上、申請してください。病気・怪我の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学許可書の写し等の提出も必要です。

(1) 休学期間

〔春学期〕 2026 年 4 月 1 日～9 月 21 日

〔秋学期〕 2026 年 9 月 22 日～2027 年 3 月 31 日

(2) 「休学願」の申請締切

2026 年度 春学期分 2026 年 5 月 29 日(金) 16:45 まで 厳守

2026 年度 秋学期分 2026 年 11 月 30 日(月) 16:45 まで 厳守

(3) 学習指導面接

「休学願」申請後に所属学部の学習指導担当教員が面談します。面談日時等の詳細は所属学部窓口で相談してください。面談は原則として授業期間に行いますので、注意してください。

(4) 「就学届」

休学期間終了後は速やかに、K-Support の「申請」機能から「就学届」を申請してください。なお、病気を理由に休学していた場合は、医師の診断書を提出してください。

(5) 学費減免措置 (休学)

休 学	
入学 1 年目	入学 2 年目以降
本大学での学習を奨励するため、入学 1 年目の休学については、学費は減免されません。ただし、兵役、正課・課外活動中の事故による傷害、地震・台風等の大規模な自然災害 (激甚災害) の影響の場合は授業料・施設設備費・実験実習費が減免されることがあります。	各学期において授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します。納付が必要な費用は在籍基本料および代理徴収費用 (研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等) となります。

※学費減免措置は、適用される学費体系によって必要な手続・書類が異なります (第 2 学年編入・学士入学・再入学の場合は在籍学年にかかわらず、入学年度は入学 1 年目として扱われます)。

減免を受けるための手続き等の詳細については、日吉学生部所属窓口で確認してください。

学費の詳細および金額については、「慶應義塾ウェブサイト」→「入学案内」→「学費」ページを確認してください。

なお、留学・休学中も、本大学の学事・学生生活支援、図書館、情報環境等に関する諸サービスの利用が可能であるため、在籍基本料は減免の対象となりません (交換留学のうち、学費の相互免除が含まれないものを除く)。

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/fees/>



(6) 休学期間の上限

2023 年度より学則第 152 条が改正されたことに伴い、以下のとおりとします。

- ① 休学期間の上限は、通算して 4 年 (8 学期) とします。ただし、編入者および再入学者の休学期間の上限については異なります。詳細は学生部法学部担当へ問い合わせてください。
- ② 上記の休学期間の通算に含むのは、2023 年 4 月 1 日以降の休学とします (2022 年度以前の休学は通算に含めません)。
- ③ 休学理由が「母国における兵役義務のため」と認められた場合、当該休学期間は上記の休学期間の通算には含めません。
- ④ 在学中の休学期間の通算が上限に達した場合、それ以降の休学は認められません (母国における兵役義務を理由とした休学を除く)。

2 退学 (学部学則第 154 条)

「退学届」の提出

事情により退学しなければならなくなった場合は、所定の「退学届」に退学理由を具体的に明記し、保証人連署のうえ、学生証を添えて日吉学生部へ提出してください。

学期途中で退学した場合、当該学期の成績および在籍は無効となります。

また、学費未納の場合、退学年月日は学費納入済みの学期末日まで遡及します (学部学則第 171 条)。退学後に完納された場合でも、無効となった在籍および成績は有効にはなりません。

3 学則第 156 条による退学処分

第1・第2学年併せて4年在学し第3学年に進級し得ない者、第3・第4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は退学処分となります。

4 学則第 188 条による退学処分

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに行わず、休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学部学則第188条により退学処分となることがあります。

【学部学則第188条(抜粋)】

この学則若しくはこれに基づいて定められた学内諸規則に違反し、または学業を怠り、気品を害ね、その他学生としての本分にもとる行為のあったものについては、懲戒として情状により譴責、減点、停学または退学の処分をする。ただし、懲戒退学は、次の各号の一つに該当する者に対してのみ、これを命ずるものとする。

- 1 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 2 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 3 正当な理由がなくて出席常でない者
- 4 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

5 留学(学部学則第153条)

(1) 「国外留学」の申請

留学先大学の入学許可を取得し「留学」を希望する学生は、K-Supportの「申請」機能から詳細を確認の上、申請してください。

(2) 学習指導面談

「国外留学」申請後に所属学部の学習指導担当教員が面談します。その後所属学部教授会の承認を受けてから、留学希望先大学での正式手続きを経て、留学先大学正規生と同じ授業を受ける場合に限り「留学」として許可される可能性があります。面談は原則として授業期間に行いますので注意してください。

留学希望先の大学でオンライン授業が提供され、法学部でオンライン授業の履修を留学として認めた場合は、現地に渡航せずにオンライン留学が認められることがあります。

※語学研修等は、「留学」に該当せず休学対象になります。

(3) 留学先大学での取得単位

「留学」中の学業成果は、学部学則第153条により、復学後、取得単位や在学期間について認定を受けることができます。

詳細は国際センター発行の「留学のてびき」を参照のうえ、日吉学生部所属学部窓口へ問い合わせてください。

海外留学情報：http://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/

(4) 学費減免措置(留学)

	留 学	
	入学1年目	入学2年目以降
私費留学	本大学での学習を奨励するため、入学1年目の私費留学については、学費は減免されません。	各学期において授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します。納付が必要な費用は在籍基本料および代理徴収費用(研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等)となります。
交換留学(ダブルディグリー含む)	原則として減免制度はありません。ただし、学費の相互免除が含まれない交換留学については、代理徴収費用(研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等)を除き、学費の全額を減免します。	

◆減免される期間は、最長4学期まで(交換留学・ダブルディグリーの期間含む)。

※学費減免措置は、適用される学費体系によって必要な手続・書類が異なります(第2学年編入・学士入学・再入学の場合は在籍学年にかかわらず、入学年度は入学1年目として扱われます)。

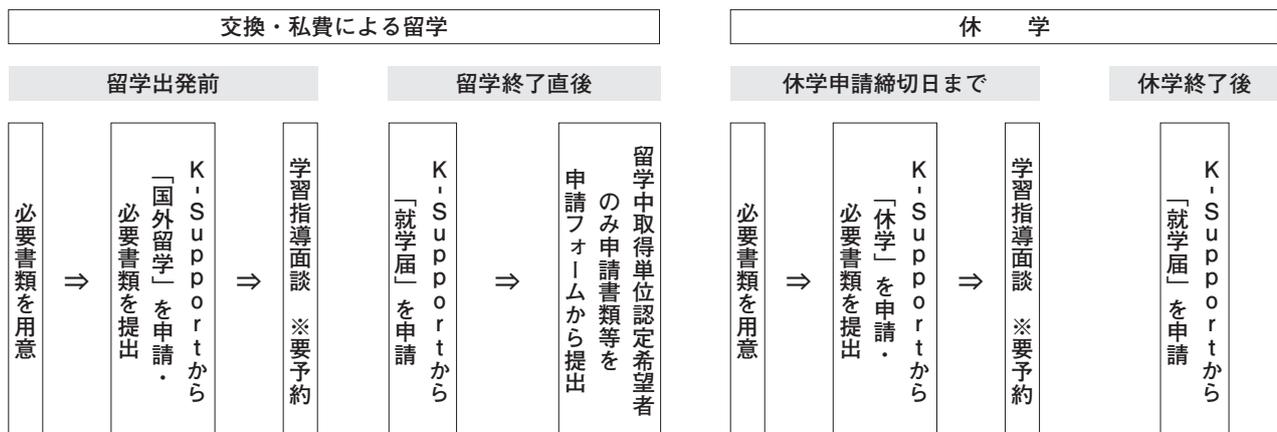
減免を受けるための手続き等の詳細については、日吉学生部所属窓口で確認してください。

学費の詳細および金額については、「慶應義塾ウェブサイト」→「入学案内」→「学費」ページを確認してください。なお、留学・休学中も、本大学の学事・学生生活支援、図書館、情報環境等に関する諸サービスの利用が可能であるため、在籍基本料は減免の対象となりません(交換留学のうち、学費の相互免除が含まれないものを除く)。

6 留学と休学の違い

		留 学		休 学	
種類		教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合です。留学は「交換留学」「私費留学」の2つに区別しています。		・語学研修(その他左記の留学と認定されない海外研修など) ・病気療養・怪我 ・母国における兵役義務 ・一身上の都合	
期 間	申請期間	「留学」の開始日から最長1年までです。 (留学先から許可された在籍期間に沿った期間を許可します。在籍期間の前後1週間程度を準備期間として含めることができますが、インターンシップ等を付随させることは認めません。)		春学期・秋学期単位 (休学の申請日がいつであっても、当該学期はすべて休学の扱いになります)	
	延長・上限	1回可能(最長で留学開始日から2年間までです) それ以降は「休学」となります。 *「留学」を延長する場合は、K-Support から国外留学(延長)を申請してください。		新規・延長に関わらず学期毎に申請してください。 休学期間の上限は通算して4年(8学期)とします。詳細はp. 68の「1 休学」の項を確認してください。	
学 費	学費減免措置	入学1年目	入学2年目以降	入学1年目	入学2年目以降
		私費留学	各学期において授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します。納付が必要な費用は在籍基本料および代理徴収費用(研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等)となります。	本大学での学習を奨励するため、入学1年目の休学については、学費は減免されません。ただし、兵役と正課・課外活動中の事故による傷害、地震・台風等の大規模な自然災害(激甚災害)の影響の場合は授業料・施設設備費・実験実習費が減免されることがあります。	各学期において授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します。納付が必要な費用は在籍基本料および代理徴収費用(研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等)となります。
単 位 取 得 ・ 認 定	法学部における履修	第2学年で留学に出発する場合、研究会の扱いについては、事前に学生部法学部窓口にご相談・確認してください。		休学開始日にかかわらず、当該学期はすべて休学扱いとなるため、学期途中から休学する場合、当該学期の履修申告した科目はすべて削除となります。 秋学期に休学する場合、通年科目やセット科目の成績は春・秋ともに無効となります。	
	留学先で取得した単位	30単位を超えない範囲で、慶應義塾大学の単位として認定される場合があります。認定希望の場合は、帰国後速やかに三田学生部法学部に申請してください。詳細は塾生サイトを確認してください。		単位認定はありません。	
在 学 年 数 へ の 算 入	進級・卒業	本人の希望により、1年間に限り留学期間を慶應義塾大学の在学年数に算入することができ、進級・卒業できる場合があります。詳細は学生部法学部担当窓口までお問い合わせください。		在学年数への算入はできません。休学終了後は原級にとどまります。	

7 留学・休学の申請の流れ



- ・必要書類は留学の種類によって異なります。
交換留学：講義内容、留学先大学の入学許可書(写)
私費留学：入学願書(写)、講義内容、留学先大学の入学許可書(写)
- ・学習指導面談は原則授業期間中に行われるので、必要書類は早めに揃えるようにしてください。
- ・不明な点は、学生部法学部担当に問い合わせてください。

- ・必要書類は休学の理由によって異なります。
語学研修・留学：入学許可書 ※具体的な期間(年/月/日)が明記された書類が必要です。期間が書かれていない場合には、補足資料としてアカデミックカレンダーなどを用意してください。
病気療養・怪我：医師の診断書 ※休学予定の学期が療養期間として含まれた診断書が必要です。(例：半期休学の場合→「半年間」「6ヶ月など」)
母国における兵役義務：兵役義務証明書(和訳または英文添付)
一身上の都合：休学理由書 ※書式自由、A4 1枚程度にまとめて学籍番号、氏名、休学学期を明記のこと。

第 3

学生証・諸届・証明書

重要

※申請方法が変更となった場合は、Web 等に掲載されますので、必ず確認してください。

1 学生証

(1) 学生証は、諸君が本大学学生であることを証明する身分証明書です。学生証は以下の役割も兼ねています。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

- ①慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証
- ②本塾メディアセンター入館証

【学籍番号】が学生証表面と在籍確認シール（裏面シール）に記載されています。この番号は学生一人につき一つずつ付番されている大切な固有番号です。

(2) 学生証は他人に貸与または譲渡することはできません。

(3) 学生証は「カード」「在籍確認シール」「カードケース」の3点で1セットです。「カード」の裏面に「在籍確認シール」を貼り「カードケース」に必ず入れて携帯してください。「カード」は卒業するまで同じものを使います。勝手にシールをはがさないようにしてください。なお、在籍確認シールが裏面に貼付されていないカードは無効です。

※定期券、銀行カード、スマートフォンなどと一緒になると磁気破損の原因になりますので注意してください。

(4) 学生証は次のような場合に必要となります。

- ①定期試験のほか各種試験を受験する場合
- ②通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車・乗船した際に係員から提示請求があった場合
- ③卒業証書を受け取る場合
- ④本塾教職員から提示請求があった場合

(5) 再交付

学生証を紛失、汚損した場合は、K-Support「申請」→「学生証再交付」から、速やかに手続を行ってください（URL およびログイン方法は p. 10 参照）。不備がなければ申請は通常、数日で承認されます。承認されると、慶應メール（@keio.jp）のメールアドレスに承認通知が届きます。手数料の支払いが発生する場合、承認通知の案内に従い支払手続を行ってください。手続完了後、慶應メール（@keio.jp）のメールアドレスに再交付の案内を送付します。日吉学生部総合受付にて学生証の再交付を受けてください。

一必要書類

（顔写真の変更を希望する場合のみ）証明書用写真：高さ 284px 幅 237px（高さ 24mm 幅 20mm）以上の鮮明なカラー画像（JPEG 形式）、脱帽、上半身正面、白・青またはグレーを基調とした無地の背景（風景やカーテンなどの背景は不可）、3ヶ月以内に撮影されたもの、写真加工アプリ等を用いて画像に修正を施したものは不可

再交付理由	手数料
カードの紛失または破損	2,000 円
改姓名、磁気ストライプ・IC チップの破損（カードに見かけ上の破損がない場合）	無料

(6) 在籍確認シール（学生証裏面シール）

年度ごとのシール更新は行いません。休学・留学・原級等の理由で、シールの有効期限が切れる学生には、有効期限が切れる前に、有効期限を更新したシールを配布します。シールを紛失した場合は、日吉学生部総合受付で再交付を申請してください。

(7) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学等で離籍した場合は、ただちに日吉学生部総合受付へ返却してください。

2 住所変更（本人・保証人）

(1) 本人の住所変更の場合

K-Support「申請」→「住所確認・変更（本人・保証人）」から、速やかに変更手続を行ってください（URL およびログイン方法は p. 10 参照）。電話番号の変更の場合はこちらから手続を行ってください。不備がなければ、申請は通常、数日で承認されます。承認されると、慶應メール（@keio.jp）のメールアドレスに承認通知が届きます。変更項目が電話番号やメールアドレスだけの場合、通知メールは送信されません。

通学定期の区間が変更となる場合は、承認通知のメールが届いた翌朝 7:00 以降に、証明書発行サービスで通学証明書を申請してください。

日本国外の住所を登録、変更する場合は、K-Support「申請」→「海外住所登録（本人）」から申請してください。

(2) 保証人の住所変更の場合

K-Support「申請」→「住所確認・変更（本人・保証人）」から、速やかに変更手続きを行ってください。電話番号の変更の場合もこちらから手続きを行ってください。

日本国外の住所を登録、変更、削除する場合は、K-Support「申請」→「海外住所登録（保証人）」から申請してください。

これらの手続きが行われない場合は、履修その他の重要な連絡に重大な支障をきたすことがありますので、十分注意してください。

3 保証人変更

保証人を変更する場合は、K-Support「申請」→「保証人変更」から、速やかに変更手続きを行ってください（URLおよびログイン方法は p. 11 参照）。保証人は原則として日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。なお、国内に居住する者が保証人となり得ない場合は、国外に居住する者を保証人とすることができます。ただし、この場合は、本人に緊急事態が発生した場合の連絡先として、日本国内の住所を必ず K-Support「申請」→「国内緊急連絡先」から届け出てください。国内緊急連絡先は、緊急時に速やかに連絡がつくことをその要件とします。

4 改姓・改名（本人・保証人）

改姓・改名した場合は、K-Support「申請」→「改姓改名（本人）」「改姓改名（保証人）」から、速やかに変更手続きを行ってください（URLおよびログイン方法は p. 11 参照）。

一必要書類

新姓名の戸籍謄本または抄本（3ヶ月以内に発行のもの）、もしくは旧姓併記の住民票（3ヶ月以内に発行、マイナンバーの記載がないもの）／旧姓併記の運転免許証（有効期限内、日本国内発行のもの）／旧姓併記のマイナンバーカード（有効期限内、表面のみ、但し通知カードは不可）

5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに日吉学生部総合受付へ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

一必要書類

学生証、戸籍謄本または抄本や住民票等の国籍変更が確認できる公的な証明書（必要な情報が記載されていることをあらかじめ発行元に確認してください）

6 通学証明書（通学定期券の購入）

以下の手順で、紙の「通学証明書」をあらかじめ発行してから、通学定期券を購入してください。

① 証明書発行サービス（「塾生サイト」→「各種手続き」→「証明書」→「証明書の発行」からアクセス）にログインし、「通学証明書」を申請する。

② コンビニエンスストア、もしくは学内証明書発行機で「通学証明書」を印刷する。

③ 通学証明書に通学区間等を記入し、学生証持参の上、駅窓口等にて通学証明書を提出して通学定期券を購入する。

※「通学証明書」の発行手数料は無料ですが、コンビニエンスストアで印刷する場合、印刷料金が60円かかります。

※通学区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅（日吉）」の最も経済的な経路に限ります（バス利用の場合は最寄りの停留所）。不正が判明した場合、通学証明書の発行を停止したり、学則に基づき処分することがあります。

※自宅住所を変更する場合、K-Support「住所確認・変更」にて、住所変更の申請を行ってください。通学証明書に新住所が反映されるのは、住所変更の承認通知メールが届いた翌朝7:00以降です。

なお、授業科目履修のために所属以外のキャンパスに通学するための手続きについても証明書発行サービスで行ってください。詳しくは「塾生サイト」を確認してください。

7 証明書(成績証明書・学割証等)

(1) 発行方法

各キャンパスの証明書発行機、もしくは全国のコンビニエンスストアにて証明書を発行できます。また、電子証明書(PDF)のダウンロードリンクを直接送付するオンライン送付機能もあります。

詳細は塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/certificate/issue.html>) を確認してください。



① コンビニエンスストアでの発行

全国のコンビニエンスストア(セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン)にて、各種証明書を発行できます。発行には事前の申請・手数料の支払いが必要です。

※学割証はコンビニエンスストアで発行できません。証明書発行機を利用してください。

② 証明書発行機での発行

設置場所	稼働時間
第4校舎B棟1階 中央連絡通路脇	月曜日～土曜日 8:45～20:00(授業期間)

※授業・定期試験のない土曜日、また祝日・一斉休業期間・システムメンテナンス中は利用できません。

※他キャンパス(三田・矢上・湘南藤沢)に設置されている発行機も利用できます。稼働日・稼働時間は状況により変更となる場合がありますので、利用に際しては、必ず塾生サイト等で確認してください。

※メンテナンス・故障等による利用停止情報等は、随時 Web 等でお知らせします。

③ 電子証明書(PDF)のオンライン送付

電子証明書(証明書のPDFデータ)のダウンロードリンクを指定のアドレス(就職先企業、海外の教育機関等)宛に直接送付する機能です。詳細は塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/certificate/issue.html>) で確認してください。



(2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は、K-Support「申請」→「証明書発行(厳封・特殊証明書等)」から申請してください(URLおよびログイン方法はp.10参照)。証明書発行機・コンビニエンスストアで発行された証明書を後から厳封することはできません。

(3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に来ることが困難な場合(留学中、入院中等)に限り受け付けます。日吉学生部総合受付で申し込んでください。

必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

※委任状には特に所定の書式はありませんが、例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

【例】委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20XX年〇月△日・本人署名・捺印

※身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、運転免許証、パスポート、マイナンバーカード(有効期限内、表面のみ、但し通知カードは不可)、在留カードを原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

(4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	4月1日	
	英文					
成績証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	4月1日	当該学期の成績が証明書に反映される時期は翌学期となります(学部によっては春学期の成績が翌年度に反映されます)。
	英文					
卒業見込証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	4月1日	最終学年のみ発行されます。
	英文					
履修科目証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	春学期:5月2日 秋学期:10月25日	
	英文					
健康診断証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	6月12日	受診した年度の年度末まで発行されます。
	英文					
学割証	和文	無料	学内発行機	即日	4月1日	
所属地区通学証明書	和文	無料	学内発行機 コンビニ	即日	3月23日	入学者は入学日以降発行可能です。 例:2026年4月入学者は4月1日より発行可能です。
他地区通学証明書	和文	無料	学内発行機 コンビニ	即日	春学期:4月8日 秋学期:10月1日	授業科目履修のために所属以外のキャンパスに通学するための通学定期券を購入する際に必要な証明書です。詳細は塾生サイト(https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/pass/)を確認してください。
提出先所定の用紙(リクエストフォーム)に証明記入を要するもの、その他	和文 英文	300円	窓口	数日	—	K-Support「申請」→「証明書発行(厳封・特殊証明書等)」から申請してください。

※窓口での証明書発行・受け取りには、学生証が必要です。

※発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕をもって申請してください。

※学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です(有効期間内でも学籍を失った場合は無効)。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

※団体旅行申込書(団体割引)を発行する場合は、学生生活支援担当に申し出てください。

※前学期まで学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

副専攻認定制度と 外国語修了証・表彰制度について

第1 法学部「副専攻認定制度」について

専門以外の関心事を追求し、副専攻として認定してもらおう

法学部の学生であるみなさんは、まずは法律学科目や政治学科目といった専門科目をしっかり学んでください。それが基本。

でも、専門さえ学べばそれでよいのでしょうか。実は皆さんには、以前から関心を持っている分野があるのではないのでしょうか。「ひそかに小説家志望である（できれば文学賞をもらいたい）」「生物を観察していて飽きない」「日本語は言語として面白すぎることに気付いた」「神社仏閣めぐりにはまっている」などなど…

大学には、専門以外の知的好奇心を満たすため、さまざまな授業があります。法学部ではそれらを「人文科学科目」「自然科学科目」などとして、一定単位数を履修することになっています。それらの授業を通して、ぜひ皆さんが興味を持っていることを学問的に掘り下げていってください。

興味のおもむくままに広く浅くランダムに科目を履修していくのは大いに結構。だけど、テーマを決めて計画的に学び、もう一つの専門といえるほど質量ともに充実した知識や研究を積み重ねることができたらもっと素晴らしいのではないか。というわけで始まったのが「副専攻認定制度」です。これは副専攻としての学士号を与えるものではありませんが、興味があるテーマに関連する科目を履修し、条件を満たした学生には「法学部副専攻認定証」が授与されます。数多くの科目の中から関心のある科目を自分で探し出し、知識や研究を自主的に組み立てていくことを奨励する制度です。知とは、あるいは知の喜びや楽しさとは、自由と自発性の上に咲くのです。

副専攻認定の条件：単位取得・卒業研究

副専攻認定のための条件は2つあります。

1. ひとつの領域やテーマについて、それに関連する科目を合計16単位以上取得していること。この16単位以上の中には、3・4年次に履修する「人文科学研究会」「自然科学研究会」が含まれます。外国語科目および専門科目（法律学科生の法律学科目、政治学科生の政治学科目）は「関連する科目」とは認められません。
2. 人文科学の場合は3・4年次の2年間、自然科学の場合は3年次か4年次の1年間、それぞれ「人文科学研究会」ないし「自然科学研究会」を履修すること（留学のためにこれらの科目に不足単位が出る場合は、留学先で履修した科目の単位によって補充することが認められる場合もあり）。さらに卒業論文レベルの成果をまとめ、提出すること。なお、研究会の担当者によっては履修条件を設ける場合があります。

研究会は少人数授業ですから、教員や学生同士で刺激を与えたり受けたりしながら、濃密な時間を過ごすことができます。これこそが大学の授業の醍醐味です。

もうちょっと詳しく！ 人文科学の場合

日吉設置の関連する科目を8単位以上と三田設置の「人文科学研究会Ⅰ～Ⅳ」を8単位、合計16単位以上取得し、卒業研究を提出することが必須条件です。

必須要件1：日吉設置の関連する科目（合計8単位以上）

必須要件2：三田設置の人文科学研究会Ⅰ～Ⅳ（各学期2単位、合計8単位以上）＋卒業研究

ロースクールを目指す早期卒業者は3年間で修了することもできますが、人文科学研究会の単位数が4単位不足しますので、日吉で人文科学特論を4単位分取得しておくか、3年次に人文科学研究会Ⅰ・Ⅱをもう1コマ履修して4単位取得し、不足分を補うことができます。あるいは人文科学特論と人文科学研究会の両方で4単位取得でも構いません。詳細は、各人文科学研究会担当者に問い合わせましょう。

副専攻（人文科学）認定の例①：アメリカの文化と社会

1・2年次 地域文化論〔アメリカ〕Ⅰ～Ⅳ（各学期2単位、合計8単位）、他

3・4年次 人文科学研究会（アメリカ文化研究）（各学期2単位、合計8単位）、他＋卒業研究

⇒合計16単位以上

もうちょっと詳しく！ 自然科学の場合

日吉設置の実験科目（科目名に「実験を含む」と記述があるもの）6単位以上と、三田に設置された「自然科学研究会Ⅲ・Ⅳ」（ⅢとⅣは同一の担当者）4単位以上を取得し、卒業研究を提出することが必須条件です。さらに、前述の科目を含めて、関連する科目の取得合計単位数が16単位以上となる必要があります。

必須要件1：日吉設置実験科目＝物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ
(各学期3単位から合計6単位以上)

必須要件2：三田設置自然科学研究会Ⅲ・Ⅳ(同一の担当者)
(各学期2単位、合計4単位以上)＋卒業研究

自然科学研究会Ⅲ・Ⅳは3、4年生対象の科目であり、履修に際しては日吉設置の実験科目を含め、関連する科目8単位以上をすでに取得していることが原則です。また、自然科学研究会の履修は、原則として3年次か4年次の1年間です。ただし、担当者によっては2年間の履修を課していることもあり、その場合は特例として合計8単位が認められます。詳細については、各担当者の個別説明を参照して下さい。

副専攻(自然科学)認定の例：生物学

1・2年次 実験科目(必修)：生物学Ⅰ・Ⅱ(各学期3単位、合計6単位)

自然科学科目：心理学Ⅰ・Ⅱ(各学期2単位、合計4単位)、自然科学総合講座Ⅰ(学期2単位)、他

3・4年次 自然科学研究会Ⅲ・Ⅳ(生物学)(各学期2単位、合計4単位)、他＋卒業研究

⇒合計16単位以上

人文科学研究会、自然科学研究会履修の際の注意

履修を希望する学生は、Web履修申告システムによる履修申告手続のほか、初回授業に必ず出席をし、担当者の許可を受けてください。履修希望者が多すぎる場合は、選抜を行うこともあります。各研究会のページを必ず確認してください。

副専攻認定へのおおまかな流れ

[入学時] 下記のファイルをよく読み、関心のある人文科学研究会、自然科学研究会を見つける。

[1・2年次] 関心のある研究会のページに記載された「関連する科目」として履修をすすめる科目を参考にしながら、日吉で関連する科目を履修する。

[2年次11月～12月] 日吉で開かれる副専攻認定制度の全体説明会、各研究会の個別説明会に出席して、研究計画を立てる上での参考にしてください。

[3・4年次] 人文科学研究会ないし自然科学研究会を履修。卒業制作を提出。

現時点では副専攻認定を受ける決心がつかない人も、ここに書いてある条件を意識して授業を取っておけば、3年生や4年生になって決めることもできます。

副専攻認定制度と人文科学・自然科学研究会については以下のサイトでより詳しく知ることができます。

副専攻[人文科学研究会／自然科学研究会](法学部HP>副専攻)

<https://www.law.keio.ac.jp/cross-listed/submajor.html>

法学部における副専攻の理念と研究会の例を紹介。

「副専攻認定制度」(塾生サイト>日吉キャンパス法学部>授業)

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/law/class/registration/minor.html>

副専攻認定制度についての詳しい説明、最新の「法学部人文科学・自然科学研究会紹介冊子」(PDF)、開講科目一覧など。[2026年度三田で開講される副専攻のプログラムはここで確認。](#)

研究会紹介・成果一覧・卒業制作論文(上記いずれのサイトからもアクセス可能)

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/law/class/registration/minor-list.html>

公開されている卒業制作論文はここで読める！

研究会一覧(法学部ゼミナール総合サイト)

<https://keiolaw.org/seminar>

各研究会が活動の様子や先生について自ら語るページ。写真多数。

法学部は従来から外国語教育を重視し、日本の大学で最初に外国語インテンシブコースを導入しました。現在、法学部で必修外国語として選択できるすべての外国語、すなわち、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・朝鮮語・アラビア語にインテンシブコースが設置されています。

インテンシブコースでは、1、2年次には2年間にわたり週4回授業があります。履修登録上は、春学期・秋学期それぞれ、必修科目2コマ+選択科目2コマですが、この各期4コマはセット履修で、必修の2コマだけを受講することはできません。ただし、英語以外の語種については、留学により著しい能力の向上が見られる場合、帰国後の選択科目2コマは履修しなくてもよいとされることもあります。希望者は必ず履修登録期間前に学習指導担当教員（『法学部外国語科目履修案内』p. 43 参照）に相談してください。

さらに、外国語習得には継続が重要ですが、どの言語も4年間継続して学ぶことができます。

そして、学習意欲を一層高める目的で外国語習得の到達目標を明示し、これを達成した学生には以下の修了証を授与、あるいは表彰しています。

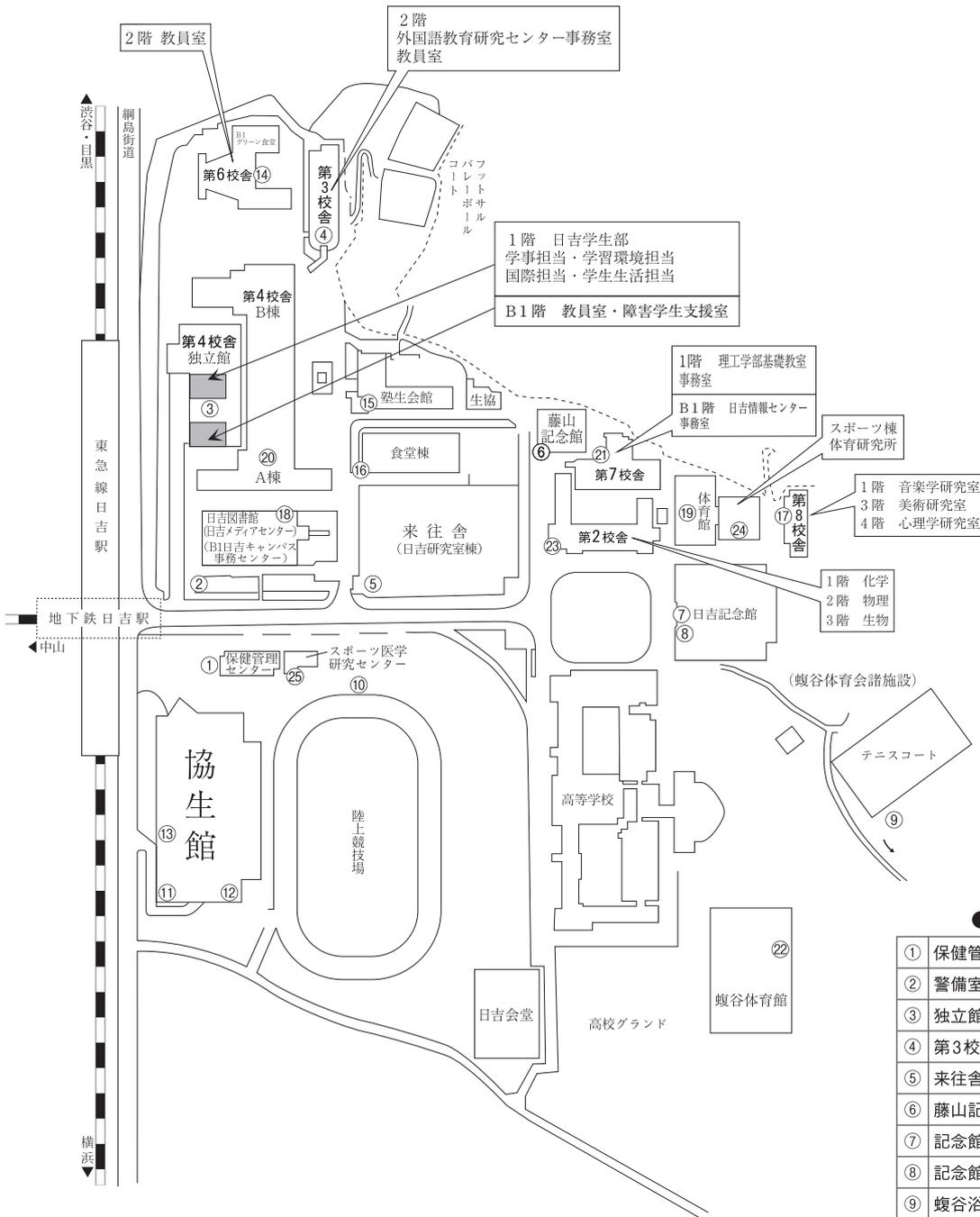
- ・インテンシブコース修了証（インテンシブコースの学生を対象）
- ・外国語成績優秀者表彰（インテンシブコース、レギュラーコースの学生を対象）

どうか高い志をもって外国語を学んでください。

各外国語の到達目標・修了証の申請資格・外国語成績優秀者表彰の対象等の詳細については、「法学部外国語科目履修案内」を参照してください。

3年で早期卒業するに際し成績優秀者に該当すると思われる学生は語種責任者に問い合わせてください。

【日吉校舎案内】



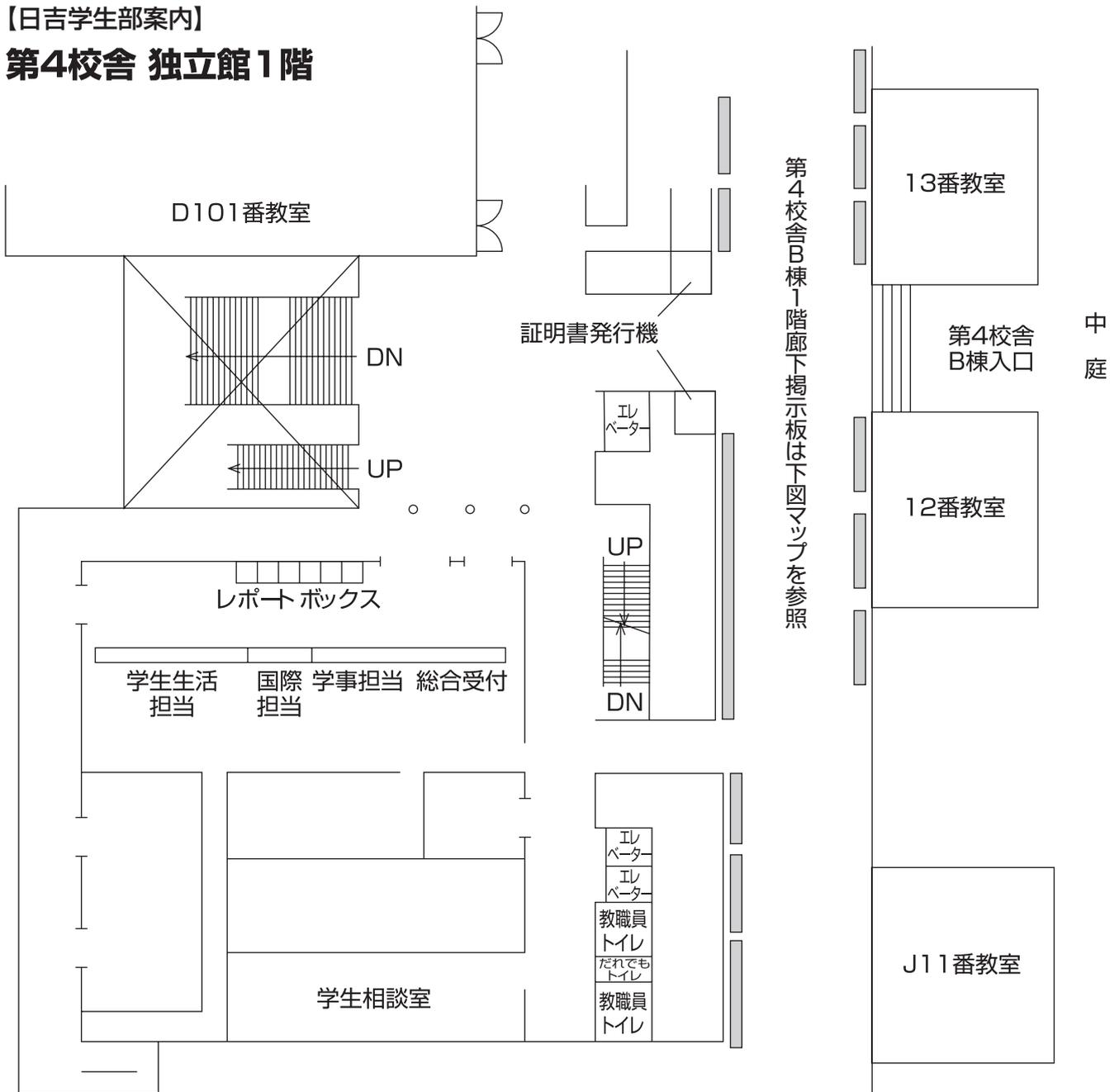
●AED設置場所

①	保健管理センター内
②	警備室
③	独立館1階 学生部前
④	第3校舎2階 ホール
⑤	来往舎1階 事務室前
⑥	藤山記念館1階 階段脇
⑦	記念館1階 ホワイエ
⑧	記念館地下1階 アリーナ
⑨	蝮谷浴室棟 男子シャワー室前
⑩	陸上競技場附属施設棟1階
⑪	協生館1階 防災センター
⑫	協生館地下大学体育施設 入口
⑬	協生館7階 エレベーター前ホール
⑭	第6校舎1階 玄関ホール
⑮	塾生会館1階 (課外施設棟)
⑯	食堂棟塾生広場 (中庭) 側入口
⑰	第8校舎1階 風除室
⑱	図書館 (メディア) 1階 受付カウンター
⑲	体育館 (柔道場) 記念館別館入口
⑳	第4校舎A棟1階 玄関ホール
㉑	第7校舎1階 正面玄関
㉒	蝮谷体育館 玄関
㉓	第2校舎1階 玄関風除室
㉔	スポーツ棟 玄関風除室
㉕	スポーツ医学研究センター

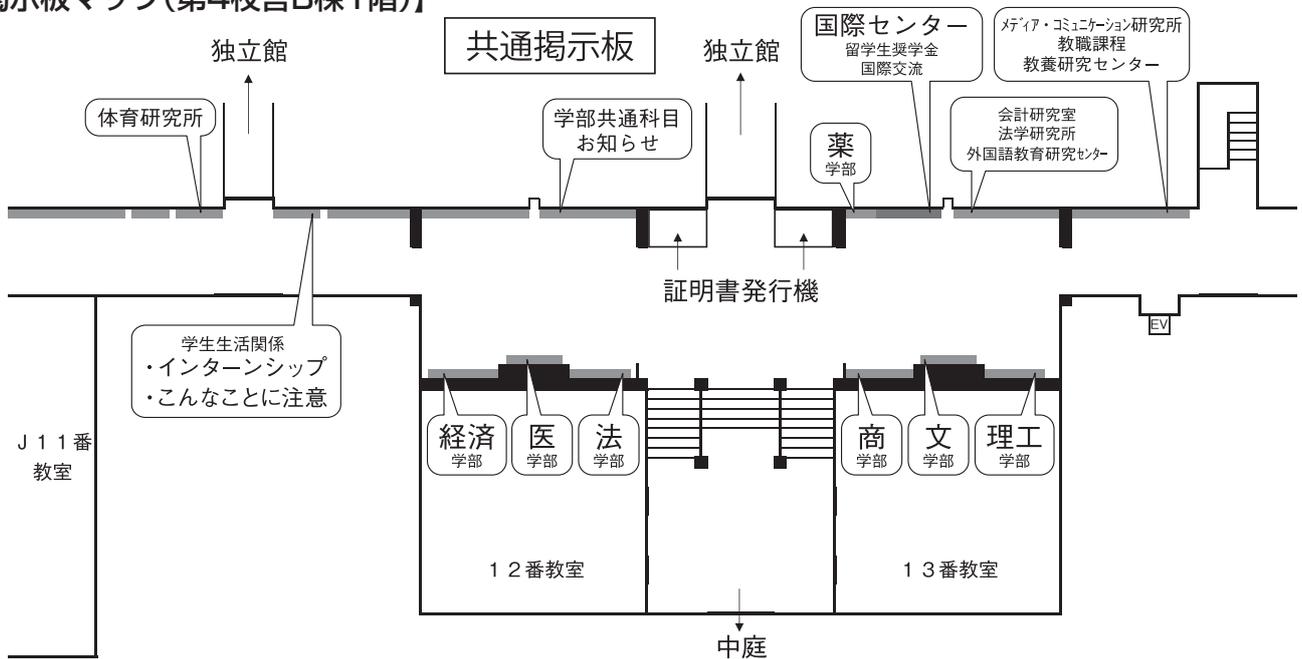
2026年4月現在

【日吉学生部案内】

第4校舎 独立館1階



【掲示板マップ(第4校舎B棟1階)】



個人情報の取扱いについて

慶應義塾では個人情報の取扱いに際して「慶應義塾個人情報保護基本方針」および「慶應義塾個人情報保護規程」を遵守し、適正かつ安全に管理します。

出願、入学手続ならびに入学後にお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、慶應義塾各部門におきまして、「慶應義塾大学における学生等の個人情報の取扱い」に記載されている利用目的の範囲において適切に管理・利用いたします。

なお、学生の学業成績表は保証人にも開示いたします。これは、学生の自律性を尊重しつつも、保証人の方に学生の学修状況をご理解いただきたいからにほかなりません。

- ・ 慶應義塾個人情報保護基本方針および保護規程

<https://www.keio.ac.jp/ja/privacy-policy/>



- ・ 慶應義塾大学における学生等の個人情報の取扱い

<https://www.keio.ac.jp/ja/assets/download/privacy-policy/index/students-pip.pdf>



法学部	学科	学年	組
学籍番号			
氏名			